

第5章 館林市の歴史文化の保存・活用

1 里沼文化の保存・活用の方針

(1) 目指すべき将来像

里沼のまち・館林市文化財未来ビジョン —つなぐ文化財×つながるまちづくり—

館林市には、歴史や風土に生まれ、市民の生活に根付いた豊富な文化財が存在する。これら現在まで受け継がれた文化財を確実に保護するとともに、それらが本来持っている魅力に改めて光を当て、学校教育や生涯学習、地域活性化、世代間・地域間の交流を図っていくものとする。そして、本市の歴史文化や文化財・歴史文化資源（里沼文化資源）を積極的に活用しながら、将来的なひとづくりやまちづくりの創造に取り組むものとする。

本計画においては、目指すべき将来像を **里沼のまち・館林市文化財未来ビジョン —つなぐ文化財×つながるまちづくり—** とし、各分野の具体的措置を推進していく。

2 館林市の文化財行政

(1) 文化財に係る行政組織・体制

館林市の文化財行政は、文化財保護法・群馬県文化財保護条例・館林市文化財保護条例などに基づき、館林市教育委員会文化振興課が担当・執行している。また、教育委員会の諮問機関として、館林市文化財保護審議会を設置(館林市文化財保護条例第9条)している。このほか、関係機関と連携しながら各種事業を実施している。

現在、文化振興課には文化財系のほか、日本遺産推進係、市史編さんセンター、芸術文化係を置く。中でも文化財係・日本遺産推進係・市史編さんセンターはそれぞれ関連性が高いことから、相互に連携と役割分担をしながら事業に取り組んでいる。

その他、文化財の保存・活用については、連携が重要な館林市役所の市長部局の各課とも随時調整や協議を行いながら事業を展開している。館林駅東・旧城下町エリアにある「歴史の小径」にある「竜の井」や「鷹匠町長屋門」などの文化財や歴史的建造物などに関する管理や普及に取り組む市民協働課、国指定名勝「躑躅ヶ岡」の管理や整備、関連イベント等を実施するつじのまち観光課、「旧二業見番」や「外池商店」などまちなかの歴史文化ストックを活かしたまちづくりを展開する区画整理課などがその代表である。

組織		主な業務内容	
教育委員会	文化振興課	文化財係 ・事務員 7 名 (うち学芸員 4 名)	(1)文化財の保存・活用に関する業務全般 (2)文化財関連施設の管理・運営 (3)地域計画に関する業務
		日本遺産推進係 ・事務員 3 名	(1)日本遺産「里沼」に関する業務 (2)地域計画に関する業務
		市史編さんセンター ・専門職員 1 名 事務員 1 名 (うち学芸員 2 名)	(1)『館林市史』の編さん (2)地域計画に関する業務
		芸術文化係 ・事務員 5 名 技 師 1 名	(1)文化芸術に関する組織の育成・支援 (2)文化会館・三の丸芸術ホール等の運営・管理 (3)文化芸術に関する催し物の開催
	諮問機関	館林市文化財保護審議会 ・委 員 1 0 名 (学識経験者 6 名) (行政職員 4 名)	(1)文化財指定、保存・活用に関する事項の調査審議・答申
市長部局	館 林 市 史 編 さん 委 員 会		(1)『館林市史』編さん計画及び刊行に関する基本事項の審議
	館 林 市 史 編 さん 専 門 委 員 会		(1)『館林市史』の企画、調査研究、執筆及び編集
	市 民 環 境 部 市 民 協 働 課		(1)「歴史の小径」竜の井・鷹匠町長屋門活用事業の実施
	経 済 部 つ つ じ の ま ち 観 光 課		(1)四季を通じた観光イベントの実施 (2)国指定名勝「躑躅ヶ岡」を含むつつじが岡公園整備・管理運営 (3)つつじの保護育成・研究・普及活動
	都 市 建 設 部 都 市 計 画 課		(1)都市再生整備計画の策定・進捗管理
	都 市 建 設 部 区 画 整 理 課		(1)まちなかにぎわい創出事業の実施 (2)「歴史の小径」整備事業の実施

表 5-1 文化財の保存・活用に関わる館林市の体制

(2)文化財行政の概要

館林市の文化財行政に関する事務は、昭和 53 年(1978)4 月 1 日に教育委員会文化振興課内に文化財係が新設されて以降、各文化財の調査、保護、管理、活用、普及に関する業務を担当・執行している。

まず文化財の調査分野では、歴史、民俗、自然、埋蔵文化財、文芸部門など各分野の文化財に関する調査、研究、関係資料の整理などの業務を行っている。

また、文化財の保護分野においては、学術調査などに基づく文化財の指定・登録に関する業務、指定文化財の保護・管理や個別の保存管理計画などの策定のほか、計画的な修理なども行っている。埋蔵文化財の保護や開発等への対応・指導、文化財の日常管理や所有者への指導・助言、文化財や文化財関連施設の防災・防犯体制の設備整備、防火訓練などの実施、防火・愛護ポスターの掲示やチラシ等の配布など、防災・防犯対策にも取り組んでいる。

普及・活用分野に関しては、学校連携や資料教材化のほか、普及用図書やパンフレットなどの作成、講演会・講座・ワークショップ等の開催を行うほか、広報・周知 P R 活動をはじめとした積極的な情報発信、文化財や歴史ガイドボランティアなど、関連団体や地域活動者などの育成にも努めている。

さらに文化財係では、館林市立資料館(第一資料館・第二資料館)、田山花袋記念文学館、鷹匠町武家屋敷「武鷹館」や、文化財資料保存庫等の市内文化財関連施設などの管理・運営も担当し、資料の保存・管理・整理、展示会や講座・ワークショップなどの関連イベントの開催、普及活動なども展開している。

施策	主な業務内容
文化財の調査	(1)各文化財(歴史、民俗、自然、埋蔵文化財、文芸部門など)に関する調査、研究、関係資料の整理
文化財の保護・管理	(1)学術調査などに基づく文化財の指定・登録 (2)指定文化財の保護・管理：保存管理計画などの策定、計画的な修理 (3)埋蔵文化財の保護、開発事業などへの指導 (4)文化財の日常管理、所有者への指導や助言など (5)防災、防犯対策： 文化財や文化財関連施設の防災・防犯体制の設備整備、防火訓練などの実施、防火・愛護ポスターの掲示やチラシ等の配布など (6)館林市文化財保存活用地域計画の作成
文化財の普及・活用	(1)学校連携や資料の教材化、パンフレットなどの作成 (2)文化財などの整備活用事業 (3)講演会などの実施、支援 (4)関連事業の広報活動、関連団体などの育成
施設の管理・運営	(1)関連事業の企画 (2)資料館及び文学館の管理、運営、展示、普及 (3)関連資料の保存、管理、整理
管理施設	(1)館林市立資料館(館林市第一資料館・館林市第二資料館) (2)田山花袋記念文学館 (3)鷹匠町武家屋敷「武鷹館」 など

表 5-2 文化財行政の概要

(3)文化財に関わる主な事業

館林市において、教育委員会文化振興課と関係課により実施してきた各種事業を下記のとおり整理した。

まず「保存」に関する事業については、廃棄や棄損の恐れのある文化財の確認や収集は随時行っている。昭和35年(1960)に「茂林寺沼及び低地湿原」が群馬県指定天然記念物になると、以後、沼や湿原の健全化と貴重動植物の保護・保全に取り組んできたほか、「茂林寺沼湿原保護保全専門委員会」を組織し、事業評価や『茂林寺沼湿原保護保全のための計画』策定などを進めてきた。

昭和54年(1979)年には「旧上毛モスリン事務所」、昭和56年(1981)には「田山花袋旧居」を館林市立資料館(第二資料館)に移転・移築し、市内に残る貴重な歴史的建造物を保存するとともに、見学できる資料として公開・活用を図っている。

その後、館林駅東側の再開発に伴う善導寺の郊外移転に際して、昭和60年(1985)に館林藩の初代藩主「榊原康政」の墓の移築復元を行ったほか、平成12年(2000)から15年(2003)にかけては、「旧館林藩士住宅」を市内尾曳町から「歴史の小径」の中央部である大手町に移築復元した。

保存に関する事業	
事業名	事業内容
廃棄や棄損の恐れのある文化財の収集事業 【随時】	・廃棄や棄損の恐れのある文化財について、主に市民からの情報提供等によって収集、保管し、その一部を必要に応じて展示や学習教材に活用している。
県指定天然記念物「茂林寺沼及び低地湿原」保護保全事業 昭和35年(1960)～	・環境悪化の阻止、豊かな自然の回復と湿原の保護を目的とする。 ・『茂林寺沼湿原保護保全のための計画(第Ⅱ期)』(令和5年度改定)に基づく。 ・「茂林寺沼湿原保護保全専門委員会」が組織され、事業評価や提案を行う。
県指定史跡「旧上毛モスリノ事務所附棟札」曳家移転事業 昭和54年(1979)	・明治42年(1909)頃に建築。現在の館林市役所庁舎の建設に伴い、それまでの館林城二の丸跡付近から、第二資料館敷地内へ曳家移転した。 ・現在まで保存するとともに、資料館として公開・活用している。
市指定史跡「田山花袋旧居および旧居跡附建家売渡証一札」移築再建事業 昭和56年(1981)	・城町(裏宿)地内にあった田山花袋が少年時代に住んだ家を第二資料館敷地内に移築復元し、現在まで公開している。旧居の跡地は史跡公園として公開している。
県指定史跡「榊原康政の墓附同画像」移転事業 昭和60年(1985)	・「館林駅前広場整備計画」により、墓のある善導寺が本町二丁目より楠町へ移転するのに伴い、移築復元を行うために実施した。 ・事業に際して従前地の発掘調査が行われ、記録の保存を行った。 ・榊原家初代康政のほか、2代康勝など一族の墓にも同様の事業を実施した。
市指定史跡「旧館林藩士住宅」移築復元事業 平成12年(2000)～15年(2003)	・尾曳町(旧外伴木)地内にあった旧館林藩士の屋敷を、大手町(旧鷹匠町)に移築復元のうえ、現在まで保存・活用している。 ・移築先の長屋門、附属住宅も併せて整備され、保存・活用している。
市史編さん事業 平成13年(2001)～	・先人たちが残してきた文化遺産とその足跡を、次世代に残すために『館林市史』の編さんと刊行を行う。

表 5-3 《文化財の保存に関する事業》

次に「活用」に関する事業としては、つつじのまち観光課により国指定名勝「躑躅ヶ岡」でつつじ古木群の調査研究が進められているとともに、「躑躅ヶ岡」を含む「つつじが岡公園」や隣接する城沼、周辺の社寺、館林城跡などの文化財、「つつじが岡ふれあいセンター」などの関連施設と併せ、本市の観光事業の中核として活用が展開している。

群馬県指定天然記念物である「茂林寺沼及び低地湿原」については、沼・湿原に隣接した「分福茶釜(ぶんぶくちゃがま)」の伝説で知られる茂林寺とあわせ、多くの観光客が訪れており、こちらも観光面での活用が図られている。近年では、観光面での活用だけでなく、沼・湿原環境の価値を普及啓発のイベント(茂林寺沼湿原自然学習会)や、環境・動植物保護を目的とした市民活動の実践の場としても活用している。

多くの文化財を収蔵している館林市立資料館(第一資料館・第二資料館)や田山花袋記念文学館では、適切な環境により文化財を収蔵・保管し、収蔵した文化財を調査研究する場としても機能している。また、各施設でそれぞれの文化財の展示・公開を図ることにより、本市の歴史

文化の普及・啓発を行うとともに、積極的な情報発信を行うことで、観光誘客施設としても活用している。

市指定文化財「旧館林藩士住宅」を含む鷹匠町武家屋敷「武鷹館」は、文化財ボランティア団体の活動拠点にもなっていると同時に、近世館林藩士の暮らしを再現した展示を活用し、昔の暮らしや年中行事、遊びなどについて体験学習する場として活用している。さらには「武鷹館」は展示室や会議室、イベントスペースとして貸し出しが行われ、市民活動の場としても活用している。

そして都市計画課では景観向上と市街地活性化を目的として、「歴史の小径」整備事業を行い、中心市街地に点在する歴史的建造物を結び、回遊性と賑わいを創出するまちなか散策路として整備、活用されているとともに、「小径」沿線の門や塀、看板などの設置や改修など、景観向上を目的とする事業に補助を行っている。

活用に関する事業	
事業名	事業内容
国指定名勝「躑躅ヶ岡(ツツジ)」 (市つつじのまち観光課)	【主な活用方法】観光・普及啓発・学習支援 ・周辺の「つつじが岡公園」や隣接する城沼、周辺の社寺、館林城跡などの文化財、「つつじが岡ふれあいセンター」などの関連施設と併せ、本市の観光事業の中核として活用している。
県指定天然記念物「茂林寺沼及び低地湿原」	【主な活用方法】観光 普及啓発 市民活動支援 ・湿原に隣接した「分(文)福茶釜伝説」で知られる茂林寺と併せ、多くの観光客が訪れる。 ・湿原環境の価値に関する普及啓発のイベント(茂林寺沼湿原自然学習会)や、環境・動植物保護を目的とした市民活動の実践の場として活用している。
館林市立資料館 (第一・第二資料館) 田山花袋記念文学館	【主な活用方法】資料収集・保管 普及啓発 学習支援 調査研究 ・文化財を収蔵して保護、管理し、それらの調査研究の場として機能している。 ・各種文化財の展示・公開により、本市の歴史文化の普及・啓発を図るとともに、積極的な情報発信により観光誘客施設としても活用している。 ・展示解説や講演会等の各種イベントの開催、関連書籍の刊行等の普及啓発を行っている。
鷹匠町武家屋敷「武鷹館」(市指定史跡「旧館林藩士住宅」を含む)	【主な活用方法】学習支援 市民活動支援 ・近世館林藩士の暮らしを再現した展示を活用し、昔の暮らしや年中行事、遊びなどについて体験学習する場として活用している。 ・「武鷹館」は展示室や会議室、イベントスペースとして貸し出しが行われ、市民活動の場としても活用している。 ・管理や運営は館林文化財ボランティアの会が担い、イベントの開催や観光客への対応を行っている。
歴史の小径整備事業 (市区画整理課)	【主な活用方法】景観向上 市街地活性化 ・中心市街地に点在する歴史的な建造物を結び、回遊性と賑わいを創出するまちなか散策路として整備、活用している。 ・沿線の門や塀、看板などの設置や改修など、景観向上を目的とする事業に補助を行っている。

表 5-4 文化財の活用に関する事業

3 里沼文化の保存・活用の現状と課題

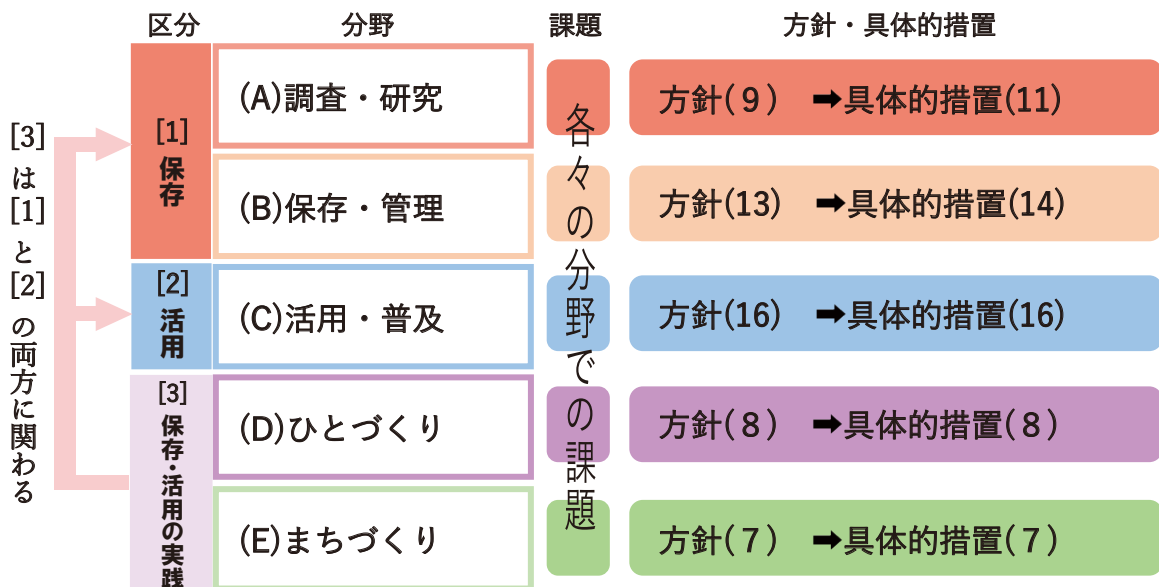
(1) 里沼文化の保存・活用における区分と分野

[2]で見たように、館林市では文化財に関する保存と活用における各種事業を展開してきたが、人口減少・少子高齢社会の進展に伴って文化財消滅・存続の危機を迎えているものが存在している。地域の歴史文化を後世につなぐためには、社会構造や経済情勢の急激な変化、それに伴う生活様式の変容や価値観の多様化、住民要望やニーズの変化にあわせながら、里沼文化の保存・活用に取組んでいくことが重要である。

この地域計画では、本市の里沼文化を保存・活用し、さらにひとづくりやまちづくりなどの分野でも活かしていくための現状と課題について、協議会の審議や作業部会による検討、本計画作成に伴い実施した市役所関係部局の意見などに基づき、以下の区分に整理した。

まず、[1]保存の区分では、(A)調査・研究、(B)保存・管理の2つの分野を設定した。また、[2]活用の区分においては(C)活用・普及の分野を設定し、保存と活用の両方に関連する(D)ひとづくり、(E)まちづくりの分野については、[3]保存・活用の実践という区分でまとめた。

それぞれの区分・分野ごとに現状と課題を分析し、課題解決のための基本方針を立てた。各基本方針に応じた具体的措置については、次章(6章)で詳述する。



(2)里沼文化の保存・活用における現状と課題

各分野の現状と課題、基本方針は次のとおりである。

[1]保存 — (A)調査・研究

区分	分野	課題	⑩方針
[1]保存	(A)調査・研究	<p>■埋蔵文化財保護の基礎資料である遺跡台帳や既往調査履歴の更新が不十分で現況が反映されていない。</p> <p>■民間開発の照会に際して庁内関係部署のもつデータとの連動が図れていない。</p>	<p>①埋蔵文化財遺跡台帳や既往調査履歴更新と地理情報システム(GIS)導入</p> <p>遺跡台帳や既往調査履歴の更新とあわせ、地理情報システム(GIS)の導入を図る。</p>
		<p>■社寺や個人所有の芸術作品など、文化財の分野ごとに把握レベル、調査レベルに差が生じている。また、旧城下町エリアと比較して、郊外の旧農村部エリアなどでは文化財把握調査が十分に行われておらず、地域差が見られる。</p>	<p>②分野別・エリア別悉皆把握調査の実施</p> <p>現在調査が十分に行われていない社寺や民間で所有する文化財に関する把握調査、市内エリア別の把握調査を進める。</p>
		<p>■動植物、景観、民俗などの分野では過去に調査が行われてきたものの経年変化を確認する調査が行われていない。</p>	<p>③動植物・景観・民俗分野の経年変化確認調査の実施</p> <p>動植物や景観、民俗等に関する経年変化の確認を目的とした調査を実施する。</p>
		<p>■調査済文化財の台帳が未整備で、公開がなされていない。</p>	<p>④調査済文化財の台帳の整備・公開</p> <p>文化財の死蔵を防止するため、調査済文化財の台帳を整備し、公開可能なものについては市や資料館・文学館等のデータベースとして公開を図る。</p>

区分	分野	課題	No 方針
[1] 保存	(A) 調査・研究	<p>■市や県など行政による調査が主体のため、文化財の価値や魅力を掘り起こすための調査に地域住民が携わる機会がない。</p>	<p>⑤地域住民との協働調査の実施</p> <p>地域に眠る新たな文化財の掘り起こしや価値の見直しを目指し、市民参加で行うワークショップ型の文化財調査を推進する。</p>
		<p>■館林市立資料館や館林市史編さんセンターにおける「里沼」をはじめとした調査・研究の成果が、地域住民に十分に伝わっていない。</p>	<p>⑥「里沼学」確立のための研究推進と支援</p> <p>「里沼学」確立を目指して「里沼」に関する研究紀要や双書を刊行するほか、「里沼市民大学」・「里沼サミット」等も開催し、成果を公開する。</p>
		<p>■茂林寺沼湿原においては、高校や大学だけでなく民間の専門機関・事業者等との連携が弱く、文化財としての価値を高めるための調査・研究が行われていない。</p>	<p>⑦産官学連携による調査・研究の実施</p> <p>茂林寺沼湿原の保護・活用に向けて、地元高校や大学、民間の専門機関・事業者等との産官学による連携体制を構築し、調査・研究に取り組む。</p>
		<p>■市内には館林駅東側エリアや「歴史の小径」を中心に歴史的建造物が存在しているが、文化財的価値が伝わらず老朽化による解体等が相次いでいる。</p>	<p>⑧大学や民間と連携した歴史的建造物調査の実施</p> <p>大学や民間の専門機関・事業者等と連携しながら、市内に残る歴史的建造物の調査を行う。</p>
		<p>■本市の歴史文化の特徴のひとつである「境目」・「ハザカイ」に由来する調査が実施されていない。</p>	<p>⑨「境目」地域に由来する調査・研究事業の実施</p> <p>『館林ことば』をはじめとして、「境目」地域に由来する特徴を記録し、後世に伝えるための民俗調査・研究を実施する。</p>

[1]保存 — (B)保存・管理

区分	分野	課題	No 方針
[1]保存	(B)保存・管理	<p>■これまで行政の支援を受けず、地域社会などが主体で管理してきた未指定・未登録文化財について、人口減少や高齢社会進行などにより、従来のような管理ができなくなる恐れがある。</p>	<p>①文化財の指定・登録の推進</p> <p>重要かつ要件が揃っている文化財の中で、喪失・流出するおそれのあるものについては、行政による文化財の指定または登録を進め、制度的な保護を図る。</p>
		<p>■茂林寺沼湿原の水量不足・水質悪化、旧上毛モスリン・旧二業見番などの歴史的建造物の老朽化対策、館林城跡・土塁等の管理など、既に指定・登録された文化財の保存措置や適切管理が不十分である。</p>	<p>②指定・登録文化財の維持管理の強化</p> <p>茂林寺沼湿原の健全化や旧上毛モスリン・旧二業見番などの歴史的建造物の保存、館林城跡・土塁等の樹木管理・除草をはじめ、指定・登録を受けた文化財の維持管理を強化する。</p>
		<p>■指定・登録文化財の修繕や環境整備に一部支援や補助制度が設けられているが、現行制度でカバーしきれないものがあるため、今後の制度運用や未指定・未登録文化財への支援拡充などについて検討する必要があるが生じている。</p>	<p>③現行の市指定文化財制度の見直し</p> <p>市文化財保護条例及び補助金交付要綱の改正や、市の指定文化財制度の見直しを行うとともに、独自の新たな文化財保護制度の導入も検討する。</p>
		<p>■文化財の担い手の不足により、祭りや行事の断絶、伝統技術や伝統芸能の消滅、景観の悪化、有形文化財の損壊や紛失など、継承への危機が懸念されている。</p>	<p>④文化財の所有者・継承者等への支援制度の拡充</p> <p>文化財所有者や継承者、関係団体への支援制度の拡充を検討するほか、文化財講座や公民館事業と連動したマッチングに取組むとともに、行政や民間等による各種補助・助成制度等を適切に周知する。</p>

区分	分野	課題	No 方針
[1]保存	(B)保存・管理	<p>■継承が困難な文化財を記録保存した写真・音声・映像等のデータはあるものの公開されていない。</p>	<p>⑤記録保存データのデジタル化推進</p> <p>過去に記録した文化財に関する写真・音声・映像等のデジタル化を進め、展示施設で公開する。継承が困難な状況にある文化財についてはデジタル技術を用いた記録保存に取り組むものとする。</p>
		<p>■指定・登録文化財について、将来的な保存管理や活用の方針を定める個別の保存管理計画が策定されていない。</p>	<p>⑥指定・登録文化財の個別保存管理計画の策定</p> <p>指定・登録文化財を適正に管理していくため、ガイドラインとなる個別の保存管理計画の策定を進め、中・長期的な取組みを位置付ける。</p>
		<p>■市が定期的な文化財巡検は実施しているものの、各々の文化財に最も近い所有者・管理者等との連絡網が未整備なため、迅速な情報伝達が行われていない。</p>	<p>⑦文化財所有者・管理者等との連絡体制構築</p> <p>メールやSNS等、インターネットを活用しながら文化財所有者と随時連絡・情報伝達が可能な体制を構築し、文化財保護・管理の円滑化を図る。</p>
		<p>■指定・登録文化財に関する管理コストと人員不足が深刻化しており、将来的な保存・管理が行えなくなる可能性がある。</p>	<p>⑧地域連携による保存・管理コストの低減</p> <p>有償ボランティア等を活用した市アダプト制度導入により、地域住民や地域活動者と連携し持続可能な管理体制を構築し、保存・管理コストを低減する。</p>

区分	分野	課題	No方針
[1] 保存	(B) 保存・管理	<p>■館林市立資料館や田山花袋記念文学館、文化財資料保存庫の収蔵スペースが限界を迎えているほか、施設自体も老朽化し適切管理を行うために必要な温湿度管理が可能な設備がない。</p>	<p>⑨文化財関連の収蔵スペース確保や収蔵庫設備改修の検討</p> <p>文化財関連施設の収蔵スペース確保、保存・管理機能の強化を目的として、館林市立資料館・田山花袋記念文学館・文化財資料保存庫などの施設更新や設備改修を検討する。</p>
		<p>■地震や台風・洪水等の災害発生時を想定した文化財巡検・レスキューマニュアル、文化財関連施設の災害時対応マニュアルは存在するが、十分に機能していない。</p>	<p>⑩市文化財防災ガイドラインの策定</p> <p>文化庁や群馬県のガイドラインと連動した、文化財巡検やレスキューに関するガイドラインを策定するほか、文化財関連施設(館林市立資料館・田山花袋記念文学館・鷹匠町武家屋敷「武鷹館」等)の災害時対応マニュアルの見直しを図る。</p>
		<p>■個人所有や社寺所有の文化財や、地域の未指定文化財(無住の社寺など)の防犯体制が整っておらず、人員不足等により対応が困難な状況にある。</p>	<p>⑪地域ぐるみの文化財防犯体制の整備</p> <p>個人または社寺に関連する文化財の防犯体制強化を図るとともに、地域の未指定文化財については、地元やボランティア等の協力による地域ぐるみのパトロール体制を整備する。</p>
		<p>■災害に被災した文化財の避難先や、一時保管や保存処置など、レスキューのための作業場所が準備されておらず、万一の際の対応が取れない恐れがある。</p>	<p>⑫被災文化財避難先リストの作成</p> <p>群馬歴史資料継承ネットワークなどと連携しながら、地域で一番リスクのある水害を想定した被災文化財の避難先(“里沼・川合シェルター”)のリストを作成する。『国宝・重要文化財(建造物)の防火対策ガイドライン』や『国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン』などを参考にしながら進めていく。</p>

区分	分野	課題	No方針
[1] 保存	(B) 保存・管理	<p>■文化財レスキュー団体との連携体制が構築されておらず、災害時の対応や被災文化財の取扱い技術を持った職員・スタッフ・文化財所有者がいない。</p>	<p>⑬文化財防災センターとの連携体制構築</p> <p>県を經由して独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターに要請を行う。『国宝重要文化財(建造物)の防火対策ガイドライン』や『国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン』などを参考にしながら進めていく。</p>



写 5-1 市指定重文「旧館林藩士住宅」
移築復元の様子



写 5-2 館林市第一資料館



写 5-3 市史編さん事業(調査)



写 5-4 館林文化財ボランティア(お月見会)

[2]活用 — (C)活用・普及

区分	分野	課題	No 方針
[2]活用	(C)活用・普及	<p>■それぞれの地域が持つストーリーが浸透していないため、文化財がもつ魅力を伝えきれておらず、歴史文化を活かした特色あるまちづくりにつながっていない。</p>	<p>①地域ストーリー浸透のための普及活動実施</p> <p>個々の文化財のもつ魅力を改めて確認し、小・中学校や公民館等と連携しながら各地域の特性や地域性にあった活用手法や普及活動を展開する。</p>
		<p>■文化財コンテンツは豊富だが、保存・活用を促進するためのシンポジウムやセミナーが定期的に開催されない。</p>	<p>②定期的な文化財シンポジウム・セミナーの開催</p> <p>歴史文化や文化財の保存・活用を目的としたシンポジウムやセミナーを定期開催し、所有者や地域住民側の文化財愛護意識を醸成する。</p>
		<p>■歴史的建造物等を活用した展示会やコンサートなどのイベントを通じて、文化財のもつ魅力と雰囲気を感じさせる事業を実施しているが、開催回数や集客数が伸び悩んでいる。</p>	<p>③「文化財ルネツサンス」の開催数増加と周知強化</p> <p>文化財活用事業「文化財ルネツサンス」の周知を強化し、活用希望者の積極的な獲得を図るとともに、年間開催回数を増加させることで、地域住民等が文化財を通して地域に歴史文化に接する機会を創出する。</p>
		<p>■文化財を公開・活用する文化財施設(館林市立資料館、田山花袋記念文学館、鷹匠町武家屋敷「武鷹館」)が老朽化しており、運営維持のための工事・修繕などの再整備が必要になっている。</p>	<p>④文化財施設の運営維持と再整備</p> <p>施設本体や管理設備・機器、展示・来館者サービスのための設備・危機が老朽化しているため、引続き運営を維持しながらも、施設の改修・修繕、設備・機器の更新等の再整備に取り組んで行く。</p>

区分	分野	課題	No 方針
[2] 活用	(C) 活用・普及	<p>■館林市立資料館や田山花袋記念文学館などの文化財を公開・活用する施設や展示設備が老朽化しており、個々の文化財のもつ魅力を引き出せていないだけでなく、運営や改修に必要なコストが膨大化している。</p>	<p>⑤文化財施設整備・再編複合化の検討</p> <p>市で取組むコンパクトシティ形成・公共施設見直しの動きと合わせて、文化財関連だけでなく周辺施設を含めた施設再編・統廃合等について検討・研究を行い、アクセスや利便性が高く、魅力ある展示公開施設整備の実現に向け検討を進める。</p>
		<p>■文化財を公開・活用する館林市立資料館、田山花袋記念文学館、鷹匠町武家屋敷「武鷹館」の運営にコストがかかっている一方で、入館者数が伸び悩んでいる。</p>	<p>⑥文化財施設における魅力ある展示会等の実施</p> <p>文化財を公開・活用する館林市立資料館、田山花袋記念文学館、鷹匠町武家屋敷「武鷹館」における適切な施設運営を図るとともに、来訪者満足度を高めるための企画展・特別展・イベント・講座・ワークショップ等を定期的の実施する。</p>
		<p>■館林市立資料館・田山花袋記念文学館と市内の他施設(向井千秋記念子ども科学館、つつじ映像学習館、群馬県立館林美術館、毛塚記念館、NPO足尾鉍毒事件田中正造記念館、正田記念館、製粉ミュージアム、カルピスみらいのミュージアム等)との連携が弱く、市内に複数のミュージアム施設があることのメリットを活かし切れていない。</p>	<p>⑦市内ミュージアム施設同士の連携体制構築・強化</p> <p>市内ミュージアム施設同士の相互の連携体制を構築・強化し、職員同士の交流・情報交換を盛んにするとともに、館同士の共同イベント等の展開を図りながらそれぞれの施設の入館者増や回遊性向上に取り組む。</p>
		<p>■文化財に指定・登録されているものの、日常的な公開を行っていないため、訪れた人が見学する機会がなく、それぞれの文化財のもつ価値や魅力が適切に伝わっていない。</p>	<p>⑧文化財を見学できる機会の創出</p> <p>文化財所有者・管理者・ボランティア団体等と連携しながら、年1回(各1日程度)「文化財一斉公開 in 館林市」事業を新たに創設・実施し、通常は公開されていない文</p>

[2] 活用 (C) 活用・普及		化財を見学する機会の創出に取組む。
	■市内には市役所や学校・公民館などの公共施設や、大型ショッピングモール等やまちなかの空き店舗棟も多く存在するが、そのスペースを利用した文化財普及活動はほとんど展開されていない。	⑨公共・民間施設における普及活動の展開 市役所市民ホールや学校・公民館などの公共施設、その他の民間施設や店舗などを利用した展示・普及活動に取組む。
	■文化財そのものや文化財公開・活用施設における、解説サイン・パンフレットが多言語化やユニバーサルデザインなどに対応していない。	⑩文化財の多言語化・ユニバーサル化推進 誰もが文化財や館林市の歴史文化に親しむ環境を整えるため、文化説明板や解説サイン・普及パンフレット、文化財公開・活用施設におけるパネルやキャプション等の多言語化やユニバーサル化を進める。
	■年間で数回の文化財関連講演会・講座、文化財公開・活用施設における定例の展示解説会を開催しているが、内容がマンネリ化したことで参加者が減少している。	⑪魅力ある講座や展示解説会の開催 文化財関連講演会・講座や展示解説会の積極的な開催に努めるとともに、参加者アンケートをフィードバックしながら、職員・スタッフが工夫を凝らし、魅力あるコンテンツ創出に努める。
■館林市に残る歴史文化や日本遺産「里沼」を体験・体感できる講座やプログラムが少ない。	⑫体験型プログラム創出による魅力伝達 文化財や日本遺産「里沼」ストーリーの魅力を地域住民や来訪者が学習できる体験型プログラムをワークショップとして創出・展開する。	

[2] 活用 (C) 活用・普及	<p>■文化財についての地域住民の興味・関心があまり高くないだけでなく、市外でも館林市の文化財や歴史の価値・魅力が十分に知られていない。</p>	<p>⑬インターネットを使った文化財の情報発信・周知の強化</p> <p>インターネット(ホームページやWEBサイト、X[旧Twitter])などを積極的に活用し、文化財に関する情報発信を強化する。</p>
	<p>■館林市は首都圏から近いいためテレビや映画などで絶好のロケ地として利用されるが、歴史的建造物をはじめとした市内の文化財が撮影で採用されるケースが少ない。</p>	<p>⑭文化財を活用したロケの積極的な誘致</p> <p>旧上毛モスリン事務所や旧二業見番組合などの歴史的建造物はロケで利用されることが少ないことから、フィルムコミッション設立の動きと連携しながら、貴重な文化財の存在価値を外部に伝える。</p>
	<p>■市内小・中学校や高校、公民館等で文化財を扱う授業・講座が多いが、単発やスポット開催で終わってしまい、価値や魅力が伝わっていない。</p>	<p>⑮学校・公民館等との連携・支援</p> <p>小・中学校における総合学習や公民館講座などを引き続き支援しながら、文化財の価値や魅力の伝達を図る。</p>
	<p>■館林市には麦や川魚、発酵食品などの豊かな食文化が残り今日でも地域産業として受け継がれているが、その歴史文化や特色があまり認知されていない。</p>	<p>⑯食文化の普及・継承と活用事業の展開</p> <p>食品関連企業・団体とのコラボレーションにより、これらの食文化(麦・川魚・発酵食品)を普及・継承するための活用事業・イベント等を展開する。</p>

[3]保存・活用の実践 — (D)ひとづくり

区分	分野	課題	No方針
[3] 保存・活用の実践	(D) ひとづくり	<p>■ 令和7年度で刊行が終了する館林市史編さん事業の業務や蓄積、ノウハウを文化財担当部局に引継ぎながらその成果を活用し地域に伝える必要が生じている。</p>	<p>①市史編さん事業の継承と活用</p> <p>館林市史編さん事業の終了にあわせた、調査・研究スキルや収集資料、事業成果を文化財担当部局に適切に引継ぎながら、管理・公開・活用していくための人材育成・体制整備に取り組む。</p>
		<p>■ 文化財行政を専門的、長期的に担う専門職員が不足しているほか、文化財の保存・活用について、観光面なども含めて総合的なマネジメントを牽引する行政職員が少ない。</p>	<p>②文化財マネジメント人材の発掘・育成</p> <p>文化財の総合的なマネジメントができる行政の専門職員養成や専門部署設置など、人材の発掘・育成に取り組む。</p>
		<p>■ 少子高齢化により、伝統芸能・祭り・年中行事などの無形の民俗文化財を担う技能保持者・関係者が減少し、伝承が困難な状況にある。</p>	<p>③文化財技能保持者の伝承・継承に向けた支援強化</p> <p>民俗芸能などの無形の民俗文化財の技術継承を行うために、継承団体と定期的に協議する機会を設け、必要な支援についての把握を行う。</p>
		<p>■ 屋根葺替えなどの伝統技術や、茅や楮など保存修理に必要な原材料を使った文化財建造物の補修・改修が困難となり、将来的な管理・公開も不能になる恐れがある。</p>	<p>④民間の文化財保存・活用技術継承と資材確保の支援</p> <p>指定・登録文化財の適切維持管理を進める中で、文化財の保存・活用に用いられる伝統技術の継承、文化庁「ふるさと文化財の森」への登録も含め、保存修理に必要な資材の確保を行いながら、民間技術者の確保や支援に努める。</p>

[3] 保存・活用の実践 (D) ひとつくり	<p>■学校や各種団体への文化財貸出や、講師等派遣による学習支援の制度があるが、利用する学校や団体が少なく、周知の強化が必要である。</p>	<p>⑤学校教育・生涯学習との連携強化</p> <p>市民に文化財の価値や魅力を周知する窓口となる学校教育や生涯学習事業との連携を強化していくため、学校や各種団体のニーズに対応した、教材などの開発や更新を行う。</p>
	<p>■文化財所有者や関係者、地域活動者などが必要としている支援・サポートが把握できておらず、協働した保存・活用が実践できていない。</p>	<p>⑥地域活動者等と協働した保存・活用の実践</p> <p>地域で活動する文化財保護活動団体やガイド団体等と緊密に連携し、ニーズ調査等を行いながら、必要な支援・サポートの把握・提供に努める。</p>
	<p>■文化財ボランティアの会員が高齢化しており年々活動者が減少している。また活動の中心が「武鷹館」運営になっており、活動範囲も狭まっている。</p>	<p>⑦文化財ボランティア活動者の支援・強化</p> <p>文化財サポーター制度の導入を検討し、「武鷹館」での活動をはじめ、市内の様々な文化財に関するボランティア活動に誰でも気軽に参加できる体制を整える。</p>
	<p>■日本遺産に認定された「里沼」のストーリーや構成文化財の内容・魅力を語り伝えることができるだけでなく、他の文化財見学を含めた市内周遊をコーディネートできる人材が育っていない。</p>	<p>⑧日本遺産「里沼」ランドナビゲーター育成</p> <p>日本遺産「里沼」のストーリーや構成文化財のガイドだけでなく、市内の文化財や歴史文化の持つ魅力を伝え、周遊までをコーディネートできる人材を「里沼」ランドナビゲーターとして育成する。</p>

[3]保存・活用の実践 — (E)まちづくり

区分	分野	課題	No.方針
[3]保存・活用の実践	(E)まちづくり	<p>■市総合計画に文化財の効果的な保存・活用を位置付け、観光、産業、都市計画、市民協働など各分野の基本計画との連動を図る必要がある。</p>	<p>①文化財を活かしたまちづくりの展開</p> <p>文化財を単に歴史的に価値がある資産としてのみでなく、本市の知名度と魅力の向上や観光、地域振興など、市のまちづくりに幅広く活用する。</p>
		<p>■館林市では今後さらなる人口減少が見込まれることから市財政力だけでは文化財を保存・活用するために投資できる資金を確保できない状況が生じている。</p>	<p>②民間活力獲得や資金調達手法の検討</p> <p>歴史文化を生かした地域活性化への好循環を生み出すため、市への指定寄附やふるさと納税、企業版ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディング、クラウドファンディング等を活用しながら、文化財を保存・活用するための資金確保を検討する。</p>
		<p>■国指定名勝「躑躅ヶ岡」のもつ歴史文化や魅力を伝えるための情報発信や施設整備等が不足している。</p>	<p>③国指定名勝「躑躅ヶ岡」周辺の再整備の推進</p> <p>「躑躅ヶ岡」保存管理計画の見直しと合わせて、情報発信や活用を充実させるためのハード・ソフト整備を推進する。また「旧秋元別邸」を含む第二公園部分の魅力向上も図る。</p>
		<p>■市内にある沼周辺に、来訪者が歴史文化を体感できる施設、おもてなしする施設がなく、日本遺産「里沼」の魅力をも十分に伝えることができていない。</p>	<p>④茂林寺沼南岸用地の利活用の促進</p> <p>持続可能な運用を図るため、民間事業者の活用を用いて、茂林寺沼南岸の市有地を利活用した日本遺産「里沼」の魅力や遊びと憩いを体感できる観光誘客施設・店舗等を整備するとともに、茂林寺沼湿原保護と健全化のための拠点化を図る。</p>

[3] 保存・活用の実践	(E) まちづくり	<p>■ 中心市街地をはじめ市内にある歴史的建造物について、空き家化や再開発に伴う取り壊しの動きが見られ、町並み景観保全や観光資源としての活用と併せた対策をとる必要がある。</p>	<p>⑤ 歴史的建造物の保存整備事業の推進</p> <p>歴史的建造物に関する保存整備事業が円滑に推進できるよう、事業手法の関連法令などに関する調査、検討を行う。</p>
		<p>■ 館林駅東側にある「歴史の小径」や、旧二業見番、旧市役所庁舎(市民センター)、外池商店店舗、旧館林信用金庫等の歴史的建造物、大辻公園等の歴史文化ストックがあるものの、有効活用されていない。</p>	<p>⑥ 都市再生整備計画(館林駅東地区)との連動</p> <p>都市再生整備計画(館林駅東地区)やエリアプラットフォーム、まちづくり会社との連動により人材育成・ノウハウ集積に取り組むことで、館林駅東側に残る歴史文化ストックの保存と活用を両立させたまちづくりを展開する。</p>
		<p>■ 文化財をまちづくりに活かしていくための、市民や民間団体との協働体制が整備されていない。</p>	<p>⑦ 保存活用を推進するための組織設置</p> <p>地域計画作成後、具体的措置の進捗管理を行うための組織を新設しながら、歴史文化を活かしたまちづくりの推進を目的として、市役所関係部署の連携や、市民や民間事業者などの多様な主体との連携強化を進める。</p>

4 地域計画で取り組む具体的措置

前節で定めた、文化財の保存・活用の現状と課題、方針に対応させて、本計画で取り組む具体的措置を設定する。本計画のアクションプランを実行力のあるものとするため、具体的措置については名称と内容だけでなく、経常的に実施している措置(継続)と今回新たに推進する措置(新規)を区分したほか、関連する文化財や、市・県・国・文化財所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域・学校など、具体的措置の実施主体者の区分に加え、財源や計画期間10年間における年次計画、優先度も設定した。以下の措置については、市費、県費、国費(文化財補助金・デジタル田園都市国家構想交付金等)、その他民間資金等を活用しながら進めていく。

また、計画期間(10年)を前期(令和7(2025)～9年度(2027))、中期(令和10年(2028)～13年度(2031))、後期(令和14年(2032)～令和16年度(2034))の三つの期間に分け、計画期間で行う事業の着実な推進に努める。

全11事業

[1]保存 — (A)調査・研究

優先度

高

基本方針	①埋蔵文化財遺跡台帳や既往調査履歴更新と地理情報システム(GIS)導入		
具体的措置	①遺跡台帳のGISシステム化		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	埋蔵文化財
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	遺跡台帳の再整備に合わせて、市で運用している地理情報システム(GIS)に遺跡台帳情報を統合させることで、埋蔵文化財に関する調査や保護の円滑化を進める。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	②分野別・エリア別悉皆把握調査の実施		
具体的措置	②3市町共同「内陸古砂丘」調査		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	未指定・未登録
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県		
財源	市・群馬県補助金・国(文化庁)補助金		
内容	「里沼」の起源と深く関連する「内陸古砂丘」について館林市・邑楽町・千代田町の3市町共同調査を行い、国登録文化財(天然記念物)等への登録を目指す。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	③動植物・景観・民俗分野の経年変化確認調査の実施		
具体的措置	③館林紬保存のための技術詳細調査		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	民俗
事業主体者	市(文化振興課・商工課)・所有者・関係団体・民間事業者		
内容	地場産業のひとつである館林紬を使った新たな商品及びサービス開発を見据え、技術継承のための詳細調査を進める。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

基本方針	④調査済文化財の台帳の整備・公開		
具体的措置	④文化財データベースの整備・公開		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・所有者		
財源	市		
内容	文化財や市史編さん事業を通じて集積してきた調査結果を台帳として整理し、そのデータベースを公開することで、文化財の保存・活用につなげるとともに、災害時対応の円滑化も図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

基本方針	⑤地域住民との協働調査の実施		
具体的措置	⑤地域寺社関連物調査ワークショップ事業 (年度毎に地区を変えて継続実施)		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	未指定・未登録
事業主体者	市(文化振興課・生涯学習課)・関係団体・住民・地域		
財源	市		
内容	住民参加型ワークショップとして、地域の寺社関連物(建築物・工作物・石碑等)を調査し、地域の歴史文化を再発見する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑥「里沼学」確立のための研究推進と支援		
具体的措置	⑥「里沼学研究紀要」・「里沼双書」刊行		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・関係団体		
財源	市		
内容	館林市立資料館や市史編さんセンターによる「里沼」に関する調査・研究成果を研究紀要や双書として刊行し、学術的な深化を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

優先度
高

基本方針	⑥「里沼学」確立のための研究推進と支援		
具体的措置	⑦「里沼市民大学」・「里沼サミット」開催		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・住民・地域		
財源	市		
内容	「里沼」の浸透・普及を目的として地域住民・活動者向けの「市民大学」、全国規模での「里沼サミット」の開催する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

基本方針	⑦産官学連携による調査・研究の実施		
具体的措置	⑧茂林寺沼湿原地域共同調査		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県・関係団体・民間事業者・住民・地域・学校		
財源	市		
内容	専門家や研究機関、高校・大学、地域活動者等と共同で湿原や動植物に関する調査を実施しながら、国内でも希少価値のある低層湿原保護に向けた普及・啓発を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑦産官学連携による調査・研究の実施		
具体的措置	⑨ヨシ利活用商品・サービス造成		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課)・関係団体・民間事業者・学校		
財源	市・民間資金・クラウドファンディング		
内容	地域の活動者と連携して、茂林寺沼湿原管理で生じるヨシ刈後の廃ヨシを利活用した新たな商品やサービスの造成・展開を図りながら、持続可能な湿原の保存・活用サイクルの構築に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑧大学や民間と連携した歴史的建造物調査の実施		
具体的措置	⑩市内歴史的建造物調査の実施		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	未指定・未登録
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市		
内容	市内、特に館林駅東・旧城下町エリアに残る歴史的建造物の調査を大学や民間専門機関等と連携し進め、記録保存と将来的な利活用事業に向けた基礎データ集積に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

基本方針	⑨「境目」地域に由来する調査・研究事業の実施		
具体的措置	⑪『館林ことば』民俗調査の実施		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	民俗
事業主体者	市(文化振興課)・住民・地域		
財源	市		
内容	市内公民館等との連携や、調査ボランティア等を活用し『館林ことば』に関する民俗調査を実施する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

[1]保存 — (B)保存・管理 **全14事業**

基本方針	①文化財の指定・登録の推進		
具体的措置	①新指定・登録候補物件リスト作成		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	未指定・未登録
事業主体者	市(文化振興課)・所有者		
財源	市		
内容	市内にある文化財を価値づけしながら、新たに指定・登録すべき候補文化財を種別ごとにリスト化し、積極的な文化財保存に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	②指定・登録文化財の維持管理の強化		
具体的措置	②館林城跡の樹木管理・除草強化		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	館林城跡
事業主体者	市(文化振興課・向井千秋記念子ども科学館)		
財源	市		
内容	館林城跡の土塁や三の丸土塁のほか、周辺にある文化財施設を含めた樹木剪定や除草の取組みを強化するとともに、館林藩時代の風情を体感できるよう城跡関連の再整備につなげていく。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	③現行の市指定文化財制度の見直し		
具体的措置	③館林市登録文化財制度の検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	未指定・未登録
事業主体者	市(文化振興課)・所有者		
財源	市		
内容	市登録文化財制度の新設を検討し、「里沼」関連文化財を中心に登録を行いながら、地域住民が主体となった保存・管理の展開を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○



基本方針	④文化財の所有者・継承者等への支援制度の拡充		
具体的措置	④文化財継承制度の創設検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域・学校		
財源	市・民間資金・クラウドファンディング		
内容	会社経営・商業などの事業承継のように、文化財管理や伝統芸能等の後継者マッチング支援制度の創設を検討し、地域のなかで文化財を守り、伝える体制を整える。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	④文化財の所有者・継承者等への支援制度の拡充		
具体的措置	⑤文化財保存制度周知強化		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・住民		
財源	市・群馬県補助金・国(文化庁)補助金 等		
内容	国・県・市や民間財団等による補助金・助成金制度の説明会を定期的に実施し、制度の利用促進と文化財保存・活用を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑤記録保存データのデジタル化推進			優先度 高
具体的措置	⑥文化財のデジタル記録保存			
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	民俗・芸能	
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・住民・地域・学校			
財源	市・国(文化庁)補助金			
内容	伝承が困難な伝統芸能や年中行事等を対象としてデジタル技術を用いて記録保存を行う。特に館林駅東・旧城下町エリアの祭りなどを対象に、関係団体や公民館・学校等と連携しながら記録保存を図る。			
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)	
	—	○	○	

基本方針	⑥指定・登録文化財の個別保存管理計画の策定			優先度 高
具体的措置	⑦個別保存活用計画策定の推進			
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	指定・登録	
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県・所有者			
財源	市			
内容	指定・登録文化財における個々の計画を策定しながら、中・長期的ビジョンのもと、コストの平準化や効率的な事業実施に努め、それぞれの文化財の保存・活用を推進する。			
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)	
	○	○	○	

基本方針	⑦文化財所有者・管理者等との連絡体制構築		
具体的措置	⑧文化財所有者一斉情報システム		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	指定・登録
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県・所有者・関係団体		
財源	市		
内容	メール・SNSなどインターネットを活用して文化財所有者・関係団体との連絡網を整備し、日常管理や災害時におけるインタラクティブに情報共有が可能な連絡体制を構築・導入する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

基本方針	⑧地域連携による保存・管理コストの低減		
具体的措置	⑨市アダプト制度による管理・保護		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・市民協働課)・所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域・学校		
財源	市・ふるさと納税・企業版ふるさと納税		
内容	館林市アダプト制度(有償ボランティアを活用した市管理物の清掃・環境美化)と連動して、企業や学校、地域住民など地域と連携した文化財や関連施設等の維持管理・保護に取組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑨文化財関連の収納スペース確保や収納庫設備改修の検討		
具体的措置	⑩文化財収納施設更新・改修の検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	館林市立資料館・田山花袋記念文学館・文化財資料保存庫などの施設更新や設備改修を検討し、文化財施設の収納スペース確保、保存・管理機能の強化を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

基本方針	⑩市文化財防災ガイドラインの策定		
具体的措置	⑪市文化財防災ガイドラインの策定		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県・所有者・関係団体		
財源	市		
内容	既存の災害時対応マニュアルを見直し、市文化財防災ガイドラインを策定し、災害発生時に備えるとともに、定期的な図上訓練・定期巡検等を実施しながら、非常時における円滑な運用を目指す。また、国や県、他自治体・博物館・大学等と連携しながら文化財レスキュー体制も整備する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑪地域ぐるみの文化財防犯体制の整備		
具体的措置	⑫地域主体の文化財防犯・レスキュー体制整備		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・安全安心課)・群馬県・所有者・関係団体・地域・住民		
財源	市		
内容	個人所有の文化財や社寺をはじめとする、地域の未指定文化財を含め、地元住民やボランティア等の協力による地域ぐるみでの防犯パトロール・レスキュー体制を整備する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

基本方針	⑫被災文化財避難先リストの作成		
具体的措置	被災文化財避難先リストの整備		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・住民・地域・学校		
財源	市		
内容	文化財レスキューを行う群馬歴史資料継承ネットワークなどと連携しながら、災害で被災した文化財の避難先である“里沼・川合シェルター”のリストを作成・整備する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○



基本方針	⑬文化財防災センターとの連携体制構築		
具体的措置	⑭文化財防災研修への参加		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	県を通じて文化財防災センターに要請を行う。同センターが実施・開催する被災文化財取扱い研修に市文化財関係職員を積極的に参加させ、ノウハウ習得につとめる。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

[2]活用 — (C)活用・普及 **全16事業**

基本方針	①地域ストーリー浸透のための普及活動実施		
具体的措置	①地域ストーリー普及促進事業 (年度毎に地区を変えて継続実施)		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・住民・地域・学校		
財源	市		
内容	日本遺産「里沼」ストーリー、地域計画で明記した5つの特性と8つのサブストーリーを浸透させるため各種講座・ワークショップや向井千秋記念子ども科学館ROCKET事業等を展開する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	②定期的な文化財シンポジウム・セミナーの開催		
具体的措置	②文化財シンポジウム・セミナーの開催		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・関係課)・所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域		
財源	市		
内容	館林市の文化財や歴史文化に関するシンポジウムやセミナー等を定期的に行いながら、文化財愛護意識の向上や、地域が一体となった保存・活用に向けての足掛かりを形成する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	③「文化財ルネツサンス」の開催数増加と周知強化		
具体的措置	③文化財ルネツサンス事業		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	指定・登録
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域		
財源	市・民間資金		
内容	館林市第二資料館にある旧上毛モスリンや武鷹館、旧二業見番組合事務所など指定・登録済みの歴史的建造物を活用したイベント(演奏会・展示会等)の開催を積極的に支援する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	④文化財施設の運営維持と再整備		
具体的措置	④施設リニューアルの促進・強化		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	施設
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市・国(文化庁)補助金		
内容	館林市立資料館や田山花袋記念文学館など文化財関連施設の老朽化に対する改修や修繕、設備・機器の更新のみならず、建物や収蔵庫などのリニューアルを検討し、文化財の適切な管理と保存につなげる。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑤文化財施設整備・再編複合化の検討		
具体的措置	⑤資料館・文学館集約複合化検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	施設
事業主体者	市(文化振興課・関係課)		
財源	市		
内容	コンパクトシティ形成・市施設管理計画に合わせて、館林市立資料館・田山花袋記念文学館の集約化による総合博物館新設に向けた構想を立て、資料保存管理機能や展示機能の充実を検討する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

基本方針	⑥文化財施設における魅力ある展示会等の実施		
具体的措置	⑥資料館・文学館での魅力ある展示会等の開催		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	施設
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体		
財源	市		
内容	館林市立資料館や田山花袋記念文学館、武鷹館などの運営・公開を維持するとともに、魅力ある展示会・イベント・講座・ワークショップを開催して入館者数の増加に取組み、施設の魅力を市内外に発信していく。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑦市内ミュージアム施設同士の連携体制構築・強化		
具体的措置	⑦館林ミュージアムネットワーク(TMN)の構築		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	施設
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市・民間資金		
内容	博物館法改正を受け、市内にある市有・民間のミュージアム施設におけるネットワークを構築し、各施設の館長・スタッフ同士の連携や情報交換を強化し、将来的な共同事業を開催する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

優先度
高

基本方針	⑧文化財を見学できる機会の創出		
具体的措置	⑧市内文化財一斉公開事業の創設		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	指定・登録
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県・所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域・学校		
財源	市・民間資金		
内容	民有の指定・登録文化財所有者や文化財・ガイドボランティアの協力を得ながら、市内にある文化財を年1回程度、一斉に特別公開する機会を創設し、各々の文化財のもつ価値や魅力を伝える。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

優先度
高

基本方針	⑨公共・民間施設における普及活動の展開		
具体的措置	⑨「館林市どこでも博物館」の開催		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・関係課)・所有者・関係団体・民間事業者・地域・学校		
財源	市・民間資金		
内容	市役所市民ホールや学校・公民館などの公共施設、民間のショッピングセンターや店舗空きスペースなどを利用し、期間限定の展示会「館林どこでも博物館」の開催に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	—	○

基本方針	⑩文化財の多言語化・ユニバーサル化推進		
具体的措置	⑩解説サイン・パンフレットの多言語化		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市・ふるさと納税・企業版ふるさと納税・民間資金・国(文化庁・観光庁)補助金		
内容	文化財や日本遺産「里沼」関連の解説サインやパンフレット等の整備を順次進めるとともに、整備の際には多言語化なども行いながら、本市の歴史文化を世界へ発信していく。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○



基本方針	⑪魅力ある講座や展示解説会の開催		
具体的措置	⑪魅力ある講座・展示解説会の開催		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	館林市立資料館・田山花袋記念文学館においては月1回程度、展示解説会を開催する一方で、田山花袋の随筆作品の朗読プロジェクトのような魅力ある企画・講座を開催し、入館者増加やリピーター獲得に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

優先度
高

基本方針	⑫体験型プログラム創出による魅力伝達		
具体的措置	⑫「里沼」体感！ワークショップ事業		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県・所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域・学校		
財源	市・ふるさと納税・企業版ふるさと納税・民間資金		
内容	四季折々の観光イベントや日本遺産「里沼」と連動した体験型プログラムをワークショップとして創出・実施しながら、地域の歴史文化の魅力を伝える。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑬インターネットを使った文化財の情報発信・周知の強化		
具体的措置	⑬文化財情報発信の強化		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市		
内容	WEBサイトやSNSを活用した積極的な情報発信を行い、文化財や本市の歴史文化、地域ストーリーの認知度を高めるとともに、地域住民や来訪者の興味関心を高める。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑭文化財を活用したロケの積極的な誘致		
具体的措置	⑭フィルムコミッションと連動した文化財活用		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・つつじのまち観光課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市・市観光協会		
内容	館林フィルムコミッションの設立により、歴史的建造物をはじめとした本市文化財のロケ利用を促進し、全国的なPRを図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑮学校・公民館等との連携・支援		
具体的措置	⑮総合学習・出前授業との連携		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・生涯学習課)・所有者・住民・地域・学校		
財源	市		
内容	市内小・中学校での総合学習、公民館での出前講座と連携しながら、文化財や歴史文化、日本遺産「里沼」をPRし、地域住民に対して価値や魅力を伝達していく。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑯食文化の普及・継承と活用事業の展開		
具体的措置	⑯「里沼」の食文化魅力発信事業		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	民俗
事業主体者	市(文化振興課・商工課)・群馬県・所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域・学校		
財源	市・ふるさと納税・企業版ふるさと納税・民間資金		
内容	麦・川魚・発酵食品など「里沼」を深いつながりのある食文化の魅力を伝えるため、PR媒体やレシピ集などの作成、イベント等を実施しながら周知・PRを図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

[3]保存・活用の実践 — (D)ひとづくり **全8事業**

基本方針	①市史編さん事業の継承と活用		
具体的措置	①市史編さん事業成果の継承・移行		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	令和7年度で刊行を終了する市史編さんセンターの成果を継承しつつ、人材やノウハウを活かし、館林市立資料館・田山花袋記念文学館スタッフのスキル向上など、館運営の活性化を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	②文化財マネジメント人材の発掘・育成		
具体的措置	②文化財マネジメント人材強化事業		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	—
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県		
財源	市・国(文化庁)補助金		
内容	文化財関係職員を文化財保存活用やまちづくり等の研修に積極的に派遣し、文化財マネジメント能力を高める。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○



基本方針	③文化財技能保持者の伝承・継承に向けた支援強化		
具体的措置	③伝統芸能等の技術継承の支援		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	民俗・芸能
事業主体者	市(文化振興課・関係課)・群馬県・所有者・関係団体・住民・地域・学校		
財源	市・群馬県(芸術振興財団)補助金・クラウドファンディング等		
内容	民俗芸能などの無形文化財は少子高齢化により継承が困難な状況が発生していることから、関係団体や公民館・学校等と連携しながら伝統芸能の技術継承や継承者育成を支援していく。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	④民間の文化財保存・活用技術継承と資材確保の支援		
具体的措置	④民間技術者・資材確保の支援		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	指定・登録
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体		
財源	市		
内容	指定・登録文化財の工事・修繕はコストがかかるものの、文化財の保存・活用に用いられる伝統技術の継承、保存修理に必要な資材の確保を行いながら、民間技術者の確保や支援に努める。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑤学校教育・生涯学習との連携強化		
具体的措置	⑤公民館「伝統芸能継承事業」		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	民俗・芸能
事業主体者	市(文化振興課・生涯学習課)・所有者・関係団体・住民・地域・学校		
財源	市		
内容	三野谷公民館で実施している「上三木のささら」育成事業を好例として、市内で継承が危ぶまれている民俗芸能や年中行事等を次世代に継承する講座を開催し、後継者不足解消を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑥地域活動者等と協働した保存・活用の実践		
具体的措置	⑥文化財関係者ニーズ調査実施		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市		
内容	文化財に関わる所有者・関係団体・民間事業者が必要としている支援に関するニーズ調査を行い、パートナーシップを構築しながら将来的な保存・活用へ適切にフィードバックする。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○



優先度

高

基本方針	⑦文化財ボランティア活動者の支援・強化		
具体的措置	⑦文化財サポーター制度の導入		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	—
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・住民		
財源	市・民間資金		
内容	文化財ボランティアの高齢化・活動者減少、活動場所の固定化に対処するため、様々なスキルを持った人々が緩やかに集い・活動できるサポーター制度の導入を進める。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○

優先度

高

基本方針	⑧日本遺産「里沼」ランドナビゲーター育成		
具体的措置	⑧「里沼」ランドナビゲーター育成支援		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・関係団体		
財源	市・ふるさと納税・企業版ふるさと納税・民間資金		
内容	館林市「日本遺産」推進協議会と連携しながら、本市の地域ストーリーや構成文化財を解説案内できる人材を育成する。将来的には文化財を起点とした周遊観光マネジメント人材の育成等への発展も見込む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

[3]保存・活用の実践 — (E)まちづくり **全7事業**

基本方針	①文化財を活かしたまちづくりの展開		
具体的措置	①市総合計画・個別計画との連動		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	—
事業主体者	市(文化振興課・企画課)		
財源	市		
内容	市の総合計画や各分野の個別計画において、地域計画との連動性を図ることで、「里沼文化」の根付く本市の歴史文化を活かしたまちづくりへの展開を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	②民間活力獲得や資金調達手法の検討		
具体的措置	②ふるさと納税・企業版ふるさと納税		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	—
事業主体者	市(文化振興課・企画課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市・ふるさと納税・企業版ふるさと納税・民間資金 等		
内容	ふるさと納税や企業版ふるさと納税を投入して文化財保存・活用や日本遺産「里沼」事業推進を行う一方、歴史文化を活かした返礼品を創出することで、まちづくりの好循環を生み出す。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	③国指定名勝「躑躅ヶ岡」周辺の再整備の推進		
具体的措置	③国指定名勝「躑躅ヶ岡」保存管理計画改定		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	躑躅ヶ岡
事業主体者	市(文化振興課・つつじのまち観光課)・群馬県・所有者		
財源	市		
内容	国指定名勝である「躑躅ヶ岡」の保存管理計画を改定し、中・長期的な保存・活用に関する具体的アクションを位置付けるとともに、つつじ古木群や景観を見学する来訪者満足度充実のための整備も推進する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	—	○	○



優先度
高

基本方針	④茂林寺沼南岸用地の利活用の促進		
具体的措置	④茂林寺沼南岸用地拠点化整備		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	茂林寺沼
事業主体者	市(つつじのまち観光課・都市計画課)・群馬県・関係団体・民間事業者		
財源	市・国(観光庁)補助金・民間資金 等		
内容	茂林寺沼南岸用地の観光誘客拠点化整備を促進し、国内でも貴重な低層湿原や日本遺産「里沼」ストーリーの普及や民間活力導入による湿原の保存・活用に関する持続可能な循環を生み出す。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

優先度
高

基本方針	⑤歴史的建造物の保存整備事業の推進		
具体的措置	⑤旧二業見番組合事務所改修・活用事業		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	旧二業見番組合事務所
事業主体者	市(文化振興課・関係課)・群馬県・関係団体・民間事業者・住民・地域		
財源	市・ふるさと納税・企業版ふるさと納税・寄付金・群馬県補助金・国(文化庁・国土交通省)補助金・民間資金・寄付金・クラウドファンディング 等		
内容	旧二業見番組合事務所の歴史や建物の価値を維持した改修・耐震補強を行うとともに、地域コミュニティセンターや観光拠点機能を持たせた整備を図り、館林駅東・旧城下町エリアのにぎわい醸成の中核とする。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

優先度
高

基本方針	⑥都市再生整備計画(館林駅東地区)との連動		
具体的措置	⑥公的不動産・歴史的建造物の活用		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	建造物
事業主体者	市(区画整理課・文化振興課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市・まちづくり会社・民間資金・クラウドファンディング		
内容	民間事業者やまちづくり団体等と連携しながら館林駅東・旧城下町エリアにおけるエリアプラットフォーム構築、未来ビジョン策定を進める。エリアに残る公的不動産や歴史的建造物など歴史文化ストックの保存と活用を目的とした社会実験や情報発信、具体的事業の展開を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

基本方針	⑦保存活用を推進するための組織設置		
具体的措置	⑦文化財保存活用推進協議会設置		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・関係課)・群馬県・所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域・学校		
財源	市		
内容	地域計画作成時の協議会体制を今後の保存活用を推進する組織へと移行し、計画で位置付けた具体的措置の進捗状況や成果指標(KPI)などの管理を行い、歴史文化を活かしたまちづくりに努める。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

※具体的措置一覧表を巻末に掲載

第6章 二つの重点プロジェクトと文化財保存活用区域

1 二つの重点プロジェクトと文化財保存活用区域

(1)重点プロジェクトと文化財保存活用区域の設定

この地域計画では、計画の柱となる二つの重点プロジェクトを設定し、現状把握と課題分析を行い、解決に向けた具体的措置を設定する。そしてそれぞれの重点プロジェクト内に文化財保存活用区域を設定し、市の各分野の基本計画等との整合性を図るとともに、市が目指す将来的なまちづくりのビジョンとの連動、各種事業とのパッケージ化に取り組むものとする。

本計画では、重点プロジェクトである①日本遺産「里沼」の推進と②旧二業見番の改修・活用を念頭に、プロジェクト内にそれぞれ(A)沼辺遺産エリア、(B)里沼のもてなし文化エリアの二つの文化財保存活用区域を設定する。(A)沼辺遺産エリアは、日本遺産「里沼」ストーリーの柱である茂林寺沼エリア、多々良沼エリア、城沼エリアの市内3か所の沼周辺エリアを対象とする。また、(B)里沼のもてなし文化区域は、江戸時代から近代にかけての歴史的建造物や歴史文化資源が多く残る東武伊勢崎線館林駅東側の旧城下町エリア1か所を対象とする。なお、文化財保存活用区域のエリアについては、令和元年(2019)から取り組んでいる日本遺産「里沼」事業で使用し、市内の住民や市外来訪者からも広く認知されている館林市「日本遺産」マップを基本図とした。(図6-1参照)

重点プロジェクト(文化財保存活用区域)	具体的エリア
①日本遺産「里沼」の推進 (A)沼辺遺産区域	・茂林寺沼エリア ・多々良沼エリア ・城沼エリア
②旧二業見番の改修・活用 (B)里沼のもてなし文化区域	・館林駅東・旧城下町エリア

①日本遺産「里沼」の推進

②旧二業見番の改修・活用



①日本遺産「里沼」の推進

図 6-1 文化財保存活用区域のエリア図

(2)二つの重点プロジェクト

①日本遺産「里沼」の推進

*文化財保存活用区域 (A)沼辺遺産区域

日本遺産「里沼」においては、令和6年3月31日現在で全42個の構成文化財が認定されているが、各構成文化財は市内全域に点在しているものの、特に「里沼」ストーリーと関係の深い茂林寺沼・多々良沼・城沼周辺に多い。本計画では、本市の自然と文化を特徴づける沼や沼とつながる河川を利用した暮らしに関連した歴史文化が存在する地区をその範囲とし、**茂林寺沼エリア**、**多々良沼エリア**、**城沼エリア**の3か所のエリアを設定することとした。

茂林寺沼エリア

茂林寺沼エリアは館林市内の南にあり、「分福茶釜」で有名な茂林寺がある。茂林寺に隣接して周囲約1キロメートルの茂林寺沼があり、周辺には低地湿原が広がっている。エリアの西方には東武伊勢崎線が南北に走り、茂林寺前駅も置かれている。地域の人々の信仰を伝える文化財が多いことから、日本遺産「里沼」ストーリーでは、「祈りの沼」と位置付けている。」



写 6-1 「茂林寺沼及び低地湿原」

1)現状と課題、方針

現状 館林市内にある沼の中でも、「茂林寺沼及び低地湿原」(以下「茂林寺沼湿原」)は、その原型を特に良く残し、現在も湿原内では希少な動植物や、館林の原風景的な自然に触れることができる。また、茂林寺には「分福茶釜」の伝説が伝わり、本市有数の観光拠点になっている一方で、自然学習会や湿原清掃活動など、人と沼との多様な共生方法を実践する場にもなっている。

近年、茂林寺沼湿原は、治水等を目的とした周辺河川の改修等が進んだ結果、沼・湿原に流入する水量が減少し、消滅の危機が生じている。特に水量減少に伴う水流の停滞により起こる水質悪化で、貴重な動植物の保護だけでなく、湿原の乾燥化・草原化が懸念されている。

また、年間を通して湿原の維持管理(除草作業や外来種駆除、ヨシ刈、木道等の整備・補修)を実施しているが、除草作業費用や廃ヨシ処分費、木道等の整備・補修に関わるコストが市の文化財予算の約6～7割を占めており、他の文化財の保存・管理に充てるべき予算を逼迫している状況にある。

その一方で、令和元年(2019)の日本遺産「里沼」認定後は、茂林寺沼エリアに対する興

味・関心も徐々に高まりつつあり、毎年春と秋に実施している湿原清掃活動や外来種駆除活動への参加者は増加しており、地元住民だけでなく市内の民間企業や団体、NPO やボランティアなどの地域活動者、福祉作業所の利用者など参加者の幅も広がりを見せている。今後も引続き、茂林寺沼エリアに関わる人を増やしながらか、行政だけでなく地域一体となった保全・活用活動を展開することが重要となってきた。

茂林寺沼湿原にはヨシなどの湿原植物が繁茂し、館林市近隣の自治体にある沼や湿地では冬場の「ヨシ焼き」が行われ、ヨシを焼却するとともに湿原内の植生の適切な維持が図られている。しかし、当該湿原においては、沼のすぐ近くに住宅地や社寺林・雑木林などが広がっており、煙や飛散物などが発生する「ヨシ焼き」を行うことが不可能で、先述のとおりヨシを刈取り、産業廃棄物として処分せざるを得ない状況にある。

課題 茂林寺沼湿原の水量減少と水質悪化については、既設井戸の適切な維持管理により水量を確保するとともに、新規井戸の掘削など更なる水量増加策を検討しながら、湿原の健全化に沼と景観、沼に生息する貴重な動植物の保全を図るものとする。

また、茂林寺沼湿原は、国内有数の低地湿原・低層湿原であり、年間を通じて各種保存・活用事業を多く展開しているものの、市外における認知度は低いため、今後整備が計画されている茂林寺沼南岸用地整備事業と連動しながら、普及・活用のためのガイダンス施設等の整備やインターネットによる情報発信強化に努めていく。あわせて、茂林寺沼エリアの自然や歴史文化について案内するガイド人材を育成し、エリアをフィールドとした自然観察会や普及活動などを定期的開催にも取り組む。

現在、茂林寺沼湿原には木道や観察デッキ・沼デッキなどの施設があり、中央部を縦断する「中央園路」もある。木道やデッキについては引続き改修などの維持管理を行う一方で、「中央園路」については、沼の水流を阻害していることから、将来的な撤去と、それを代替する沼縦断デッキ(遊歩道)の新設なども検討していくことが重要である。

さらに、年間を通して湿原の維持管理(除草作業や外来種駆除、ヨシ刈、木道等の補修)を実施しているが、除草作業費用や廃ヨシ処分費、木道等の整備・補修に関わるコストが掛かることから、低コスト化やボランティアや民間事業者等の力も活用する必要がある。

廃ヨシについては、地元高校・大学や福祉作業所、民間事業者等と連携しながら、廃ヨシの利活用方策の研究・検討を進め、歴史文化を生かした商品・サービス等の造成に取り組み、持続可能な新たな環境サイクルの構築や、収益化による将来的な茂林寺沼・湿原の保全への還元を目指すことが大切である。

そして、現存する沼や湿原の現状を維持することが最優先ではあるものの、社会情勢等の変化により湿原復原の求めが強くなった場合は、沼周辺にある緩衝地帯も含め環境を復原することも模索していく必要がある。

方針

No.	方針	説明
1	茂林寺沼湿原の健全化対策の実施	茂林寺沼湿原の水量増加や水質浄化に向けた対策を講じ、湿原の維持と健全化を図る。
2	普及・活用のための施設等の整備	茂林寺沼南岸用地整備と連動しながら茂林寺沼湿原普及・活用のためのガイダンス施設等の整備を進める。
3	インターネットによる情報発信強化	インターネット(WE Bサイト・SNS等)を活用して、茂林寺沼の自然や歴史文化についての情報発信を強化し、地域住民や来訪者等の興味関心を高める。
4	自然観察・歴史案内ガイドの育成	来訪者に当該エリアの自然や歴史文化について案内するガイドを育成する。ガイドの育成にあたっては、茂林寺沼湿原をフィールドとした自然観察会や普及活動を定期的に開催しながら、活動を担える人材も育成していく。
5	湿原内施設の維持と中央園路撤去による縦断デッキ新設検討	既設の木道・観察デッキ、解説サイン等の維持管理を行いつつ、水量減少や水質悪化の要因となっている中央園路の撤去による、沼縦断デッキ(遊歩道)新設なども検討する。
6	廃ヨシ利活用方策の研究・検討	地元高校・大学や福祉作業所、民間事業者等と連携しながら、廃ヨシの利活用方策の研究・検討を進め、歴史文化を生かした商品・サービス等の造成に取組み、持続可能な新たな環境サイクルの構築を目指し、収益化による将来的な茂林寺沼・湿原の保全への還元を図る。

2) 具体的措置

方針	1 茂林寺沼湿原の健全化対策の実施		
具体的措置	①新規井戸掘削と既設井戸の維持管理		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	茂林寺沼北部(ホタルの里付近)に深度30mの浅井戸を新設して沼への流水量の増加を図る。		
事業計画	前期 令和7~9年度 (2025~2027年度)	中期 令和10~13年度 (2028~2031年度)	後期 令和14~16年度 (2032~2034年度)
	○	○	○

方針	1 茂林寺沼湿原の健全化対策の実施		
具体的措置	②水質浄化装置導入の研究・検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市・群馬県(補助金)・国(文化庁・環境省)補助金		
内容	貴重な動植物の生育保護を目的とし水質浄化技術・仕組みを研究し将来的な導入を検討する。		
事業計画	前期 令和7~9年度 (2025~2027年度)	中期 令和10~13年度 (2028~2031年度)	後期 令和14~16年度 (2032~2034年度)
	○	○	—

方針	2 普及・活用のための施設等の整備		
具体的措置	③南岸用地利活用事業推進		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(つつじのまち観光課・関係課)・民間事業者		
財源	市・民間資金		
内容	民間活力を導入して自然や歴史文化、遊びや憩いを体感できる施設を整備し誘客を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	2 普及・活用のための施設等の整備		
具体的措置	④南岸用地へのガイダンスコーナー開設		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課)・民間事業者		
財源	市・民間資金		
内容	南岸用地事業と連携し茂林寺沼や動植物の普及を図るガイダンスセンターの開設を促進する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	3 インターネットによる情報発信強化		
具体的措置	⑤インターネット等による情報発信強化		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課)・地域活動者		
財源	市・民間資金 等		
内容	インターネット(SNS等)を活用して茂林寺沼や文化財としての魅力の積極的な発信に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	4 自然観察・歴史案内ガイドの育成		
具体的措置	⑥自然学習会・講座・ワークショップ等の実施		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	茂林寺・茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課・生涯学習課)・所有者・関係団体・地域活動者		
財源	市		
内容	専門家やガイド団体と連携し自然や歴史に関する講座を開講しながら次世代育成を行う。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	4 自然観察・歴史案内ガイドの育成		
具体的措置	⑦ガイド団体と連携した茂林寺沼散策講座の実施		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	茂林寺・茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・地域活動者		
財源	市		
内容	専門家やガイド団体と連携し自然や歴史に関する講座を開講しながら次世代育成を行う。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	5 湿原内施設の維持と中央園路撤去による縦断デッキ新設検討		
具体的措置	⑧木道・解説サイン・沼デッキの維持改修		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	木道や解説サイン等の施設の維持管理を継続し、特に老朽化した沼デッキは改修し、沼に生息する野鳥・昆虫などを観察できる環境を整備する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	5 湿原内施設の維持と中央園路撤去による縦断デッキ新設検討		
具体的措置	⑨沼縦断デッキ(遊歩道)の新設検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課・関係課)		
財源	市・群馬県(補助金)・国(環境省)補助金		
内容	沼の水流を妨げる中央園路の撤去と、その代替となる沼縦断デッキ(遊歩道)設置を検討する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	6 廃ヨシ利活用方策の研究・検討		
具体的措置	⑩廃ヨシ利活用方策の研究・検討		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	茂林寺沼湿原
事業主体者	市(文化振興課)・関係団体・民間事業者・地域住民・学校		
財源	市		
内容	地域の活動者と連携して沼の廃ヨシを利活用した新たな商品やサービスの造成・展開を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

3) 成果指標(KPI)設定

茂林寺沼エリアについては、文化振興課の文化財保護・管理に関わる年間予算のうち約7割を超える額が湿原の除草・ヨシ刈・廃ヨシ処分等の維持管理のために投入されている。令和6年度からその一部を地元高校・大学、福祉作業所や民間事業者等による湿原健全化活動やヨシ利活用検討への転換を図る取組みにも着手していることから(約3%)、令和15年度までにさらにこの取組みを強化し、茂林寺沼に関わる年間予算のうち約10%を転換させることを目標値とする。

《成果指標(KPI)》

茂林寺沼エリア

地域活動者による湿原健全化活動へのコスト転換率
 《令和6年度(2024)》約3% → 《令和16年度(2034)》約10%
 ※市文化振興課の決算ベースで算出



写 6-2 茂林寺沼湿原清掃活動



写 6-3 湿原での外来種駆除活動



写 6-4 冬季のヨシ刈作業



写 6-5 復活しつつあるカキツバタの群生

重点プロジェクト

①日本遺産「里沼」の推進 ⇒(A)沼辺遺産区域— 茂林寺沼エリア

- 方針1 茂林寺沼湿原の健全化対策の実施
- 方針2 普及・啓発のための施設等の整備
- 方針3 インターネットによる情報発信強化
- 方針4 自然観察・歴史案内ガイドの育成
- 方針5 湿原内施設の維持と
中央園路撤去による縦断デッキ新設検討
- 方針6 廃ヨシ利活用方策の研究・検討



写 6-6 自然学習会

①新規井戸掘削と既設井戸の維持管理

茂林寺沼北部(ホテルの里付近)に深度30mの浅井戸を新設して沼への流量の増加を図る。

②水質浄化装置導入の研究・検討

貴重な動植物の生育保護を目的とし水質浄化技術・仕組みを研究し将来的な導入を検討する。

③南岸用地利活用事業推進

民間活力を導入して自然や歴史文化、遊びや憩いを体感できる施設を整備し誘客を図る。

④南岸用地へのガイダンスコーナー開設

南岸用地事業と連携し茂林寺沼や動植物の普及を図るガイダンスコーナーの開設を促進する。

⑤インターネット等による情報発信強化

インターネット(SNS等)を活用して茂林寺沼や文化財としての魅力の積極的な発信に取組む。

⑥自然学習会・講座・ワークショップ等の実施

⑦ガイド団体と連携した茂林寺沼散策講座の実施

専門家やガイド団体と連携し自然や歴史に関する講座を開講しながら次世代育成を行う。



■主な文化財・歴史文化資源

- ・茂林寺沼及び低地湿原
(天然記念物/県指定)
- ・茂林寺
(建造物/未指定)
- ・茂林寺のラカンマキ
(天然記念物/県指定)
- ・堀工町のどんと焼き
(無形の民俗文化財/未指定)

(A) 沼辺遺産区域 図 6-1 内、茂林寺沼エリアに該当

⑧木道・解説サイン・沼デッキの維持改修

老朽化した沼デッキを改修し沼に生息する野鳥・昆虫などを観察できる環境を整備する。

⑨沼縦断デッキ(遊歩道)の新設検討

沼の水流を妨げる中央園路の撤去と、その代替となる沼縦断デッキ(遊歩道)設置を検討する。

⑩廃ヨシ利活用方策の研究・検討

地域の活動者と連携して沼の廃ヨシを利活用した新たな商品やサービスの造成・展開を図る。

成果指標(KPI)の設定	成果指標	基準値 (年度)	目標値 (年度)
高コストな茂林寺沼湿原の維持管理を転換しながら、地域での持続可能な湿原健全化サイクルの構築を目指す。	地域活動者による 湿原健全化活動への コスト転換率 <small>*市文化振興課の決算ベースで算出 ただし基準値は令和6年度予算ベース</small>	約3% (令和6年度(2024))	約10% (令和16年度(2034))



写 6-7 昆虫調査隊



写 6-8 地元高校生による清掃活動



写 6-9 沼縦断デッキ(イメージ)

方針	No.	事業名	主体者	年次計画	新規 継続
1	①	新規井戸掘削と既設井戸の維持管理	市(文化振興課)	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
1	②	水質浄化装置導入と研究・検討	市(文化振興課)	令和7～13年度 (2025～2031)	新規
2	③	南岸用地利活用事業推進	市(つつじのまち観光課) 市(関係課) 民間事業者	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
2	④	南岸用地へのガイダンスコーナー開設	市(文化振興課) 民間事業者	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
3	⑤	インターネット等による情報発信強化	市(文化振興課) 地域活動者	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
4	⑥	自然学習会・講座・ワークショップ等の実施	市(文化振興課) 市(生涯学習課)	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
4	⑦	ガイド団体と連携した茂林寺沼散策講座の実施	市(文化振興課) ガイド団体	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
5	⑧	木道・解説サイン・沼デッキの維持改修	市(文化振興課) 群馬県	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
5	⑨	沼縦断デッキ(遊歩道)の新設検討	市(文化振興課) 保護保全専門委員会	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
6	⑩	廃ヨシ利活用方策の研究・検討	市(文化振興課)・学校 福祉作業所・民間事業者	令和7～16年度 (2025-2034)	継続

多々良沼エリアは館林市内の西にあり、「大谷休泊の墓」などの文化財や群馬県立多々良沼公園や群馬県立館林美術館などがある。周囲約5キロメートルの多々良沼があり、沼の東側には内陸古砂丘と呼ばれる松林がある。エリアの北方には東武伊勢崎線が東西に走り、多々良駅も近い。地域の人々の生業や産業とつながりのある文化財が多いことから、日本遺産「里沼」ストーリーでは、「実りの沼」と位置付けている。



写 6-10 多々良沼

1)現状と課題、方針

現状 多々良沼は周辺、日本遺産「里沼」ストーリーでは「実りの沼」と位置付けられており、沼周辺には古代たたら製鉄関連の「多々良沼遺跡」や「松沼町遺跡」、古利根川が形成した「内陸古砂丘」をはじめとして文化財や歴史文化資源が多い。

令和元年(2019)の日本遺産「里沼」認定後、多々良沼の歴史文化を伝えるための講座や散策ガイド、ワークショップなども市や県などで開催しており、徐々にその開催数も増加している。多々良沼への来訪者数は増加の一途を辿っているが、周辺施設としては群馬県立多々良沼公園の管理事務所・ボランティアセンター、群馬県立館林美術館、市野鳥観察棟しかなく、来訪者をおもてなしする施設が少ない。

課題 多々良沼周辺にある「多々良沼遺跡」や「松沼町遺跡」、「内陸古砂丘」をはじめとして、科学分析等による詳細調査を実施し、学術的価値付けを行う必要がある。

また、文化財や歴史文化資源は多いが、設置された解説サインの数が少ないため、多々良沼に足を運んだ来訪者に分かりづらい状況にある。しかし、多々良沼周辺は県立公園区域のため、解説サインが容易に設置できないことから、パンフレット発行やAR(拡張現実)システムなどを活用した解説手法の検討が重要である。

多々良沼の歴史文化を伝えるための講座や散策ガイド、ワークショップに関しては、群馬県立多々良沼公園や群馬県立館林美術館、ガイド団体、地域活動者等と連携しながら講座等の開催回数や新たな企画などを展開し、普及啓発を強化していくことが大切である。

さらには、レストランやカフェ、土産物やグッズ販売所など来訪者の満足度を高めるためのおもてなし施設・機能が不足していることから、パークPFI*導入や周辺への誘致等も検討していく。おもてなし施設の整備とあわせ、自然や歴史文化を伝えるためのコーナー設置やインスパイアされた商品・サービス造成を検討し、来訪者満足度を高める取組みが求められている。

*パークPFI (Park-PFI)

公園の整備を行う民間事業者を公募により選定する制度。公園に民間の優良な投資を誘導することで、管理者の財政的負担を軽減しながら公園の質や利便性を向上させる目的がある。

方針

No.	方針	説明
1	日本遺産「里沼」ストーリー掘下げのための詳細調査	日本遺産「里沼」ストーリーの掘下げのため、古代たたら製鉄遺跡の継続調査実施、館林市・邑楽町・千代田町による3市町合同での「内陸古砂丘」詳細調査を行う。「内陸古砂丘」調査においては、複数箇所でのボーリングによりサンプル採集、砂層の科学分析を行い、学術的価値付けに取組み、将来的な指定・登録文化財化を視野に入れる。
2	解説サイン・パンフレット等の充実	当該エリアの自然と歴史文化について地域住民や来訪者に伝えるための解説サイン・パンフレット等の充実に引続き取組む。日本遺産「里沼」推進事業で導入したAR(拡張現実)システムをはじめとした、デジタル技術を活用した新たな解説手法などの検討・展開も図る。
3	地域活動者と連携した講座・ワークショップ開催強化	群馬県立多々良沼公園や群馬県立館林美術館、ガイド団体、地域活動者などと連携しながら、多々良沼の歴史文化を伝えるための講座や散策ガイド、ワークショップ等の開催を増やし、普及啓発を強化していく。
4	来訪者満足度向上のためのおもてなし施設整備・機能充実	群馬県や市の公園区域内におけるパークPFI等の導入を検討し、多々良沼周辺への来訪者が自然や歴史文化、芸術にインスパイアされた商品・サービスを提供・購入できるレストラン・カフェや物産販売所などのおもてなし施設整備・機能充実に取組む。また、民間事業者等に積極的に働きかけ、沼周辺の土地への賑わい機能(観光案内所・グッズ・飲食)の誘致にも取組んでいく。

2) 具体的措置

方針	1 日本遺産「里沼」ストーリー掘下げのための詳細調査		
具体的措置	①多々良沼関連製鉄遺跡調査と調査結果の普及PR		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	多々良沼遺跡
事業主体者	市(文化振興課)・関係団体		
財源	市		
内容	令和2年(2020)から館林市史編さんセンターが実施してきた製鉄遺跡調査を継続し、その調査結果も公表しながら普及・PRを図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	1 日本遺産「里沼」ストーリー掘下げのための詳細調査		
具体的措置	②3市町合同「内陸古砂丘」調査実施		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	内陸古砂丘
事業主体者	市(文化振興課)・関係団体		
財源	市		
内容	「内陸古砂丘」が跨る、館林市と邑楽町・千代田町による合同詳細調査を行い、古砂丘の学術的価値づけを進める。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	2 解説サイン・パンフレット等の充実		
具体的措置	③解説サイン整備・パンフレット発行		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	多々良沼遺跡・松沼町遺跡等
事業主体者	市(文化振興課)・関係団体		
財源	市・国(文化庁)補助金・ふるさと納税・企業版ふるさと納税・寄付 等		
内容	地域住民や来訪者に多々良沼にまつわる歴史や文化を伝えるための解説サイン設置やパンフレット発行を継続して実施する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	2 解説サイン・パンフレット等の充実		
具体的措置	④デジタル技術活用による新解説手法の検討		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	多々良沼遺跡・松沼町遺跡等
事業主体者	市(文化振興課)・関係団体		
財源	市・国(文化庁)補助金 等		
内容	デジタル技術を用いた新たな解説手法を研究・検討し、多々良沼の歴史文化、自然をはじめとした魅力発信・伝達を強化する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	3 地域活動者と連携した講座・ワークショップ開催強化		
具体的措置	⑤講座・散策ガイド・ワークショップ等の開催強化		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	多々良沼遺跡・松沼町遺跡等
事業主体者	市(文化振興課)・群馬県・関係団体・住民・地域		
財源	市・群馬県・民間資金 等		
内容	市や群馬県だけでなく、関係団体や地域活動者と連携した各種講座やワークショップを展開し歴史や文化の普及・PRに取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	4 来訪者満足度向上のためのおもてなし施設整備・機能充実		
具体的措置	⑥パークPFIによる施設整備の検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	多々良沼遺跡・松沼町遺跡等
事業主体者	市(関係課)・群馬県・関係団体・民間事業者		
財源	市・群馬県・国(国土交通省)補助金・民間資金 等		
内容	市や群馬県だけでなく、関係団体や地域活動者と連携した各種講座やワークショップを展開し歴史や文化の普及・PRに取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	4 来訪者満足度向上のためのおもてなし施設整備・機能充実		
具体的措置	⑦民間事業者誘致によるおもてなし機能の検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	多々良沼遺跡・松沼町遺跡等
事業主体者	市(関係課)・群馬県・関係団体・民間事業者		
財源	市・群馬県・民間資金 等		
内容	多々良沼周辺への民間事業者の誘致を検討し、おもてなし機能の強化や沼周辺施設やスポットとの回遊性向上を図り、賑わいを醸成する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

3)成果指標(KPI)設定

多々良沼エリアについては、年間を通じて約70万人が来訪している。上記の基本方針で記載した各種取組みを進めることにより、来訪者満足度をさらに高めることが可能であるため、令和3年度(2021)実績である来訪者数の約70万人を基準値として、令和16年度(2034)には約85万人まで引き上げることを目標値とする。

《成果指標(KPI)》

多々良沼エリア

群馬県立多々良沼公園への来訪者数

《令和3年度(2021)》約70万人 →《令和16年度(2034)》約85万人

※群馬県立多々良沼公園指定管理者の推計値で算出する



写 6-11 多々良沼遺跡ボーリング調査



写 6-12 多々良沼講座

重点プロジェクト

①日本遺産「里沼」の推進 ⇒(A)沼辺遺産区域— 多々良沼エリア

- 方針 1 日本遺産「里沼」ストーリー掘下げのための詳細調査
- 方針 2 解説サイン・パンフレット等の充実
- 方針 3 地域活動者と連携した講座・ワークショップ開催強化
- 方針 4 来訪者満足度向上のための
おもてなし施設整備・機能充実



写 6-13 日本遺産「里沼」サテライト展示室

①多々良沼関連製鉄遺跡調査と調査結果の普及PR

令和2年度から市史編さんセンターが実施してきた製鉄遺跡調査を継続し、普及活動を行う。

②3市町合同「内陸古砂丘」調査実施

館林市・邑楽町・千代田町による合同詳細調査を行い、古砂丘の学術的価値づけを進める。

③解説サイン整備・パンフレット発行

地域住民や来訪者に歴史や文化を伝えるための解説サインやパンフレット発行を継続する。

④デジタル技術活用による新解説手法の検討

デジタル技術を用いた新たな解説手法を研究・検討し、沼の魅力発信・伝達を強化する。



■主な文化財・歴史文化資源

- ・多々良沼遺跡 (遺跡/未指定)
- ・松沼町遺跡 (遺跡/未指定)
- ・内陸古砂丘 (地質鉱物/未指定)
- ・大谷休泊の墓 (史跡/県指定)

----- (A) 沼辺遺産区域図 6-1 内、多々良沼エリアに該当

⑤講座・散策ガイド・ワークショップ等の開催

県・市公園内におけるパークPFIを活用した施設整備を検討し来訪者満足度向上を図る。

⑥パークPFIによる施設整備の検討

民間事業者誘致を検討し、賑わい機能の強化や沼周辺施設やスポットとの回遊性向上を図る

⑦民間事業者誘致によるおもてなし機能の検討

地域活動者と連携した各種講座やワークショップを展開し歴史や文化の普及・PRに取り組む。

成果指標(KPI)の設定	成果指標	基準値 (年度)	目標値 (年度)
多々良沼がもつ歴史や文化の魅力を高めることで満足度を強化し来訪者数を増加させる。	多々良沼公園 来訪者数 <small>*群馬県立多々良沼公園指定管理者が実施するカウント・推計値で算出</small>	約70万人 (令和3年度(2021))	約85万人 (令和16年度(2034))



写 6-14 内陸古砂丘



写 6-15 解説サイン・ARシステム



写 6-16 講座・ワークショップ

方針	No.	事業名	主体者	年次計画	新規 継続
1	①	多々良沼関連製鉄遺跡調査と調査結果の普及PR	市(文化振興課) 関係団体	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
1	②	3市町合同「内陸古砂丘」調査実施	市(文化振興課) 関係団体	令和7～16年度 (2025～2034)	新規
2	③	解説サイン整備・パンフレット発行	市(文化振興課) 関係団体	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
2	④	デジタル技術活用による新解説手法の検討	市(文化振興課) 関係団体	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
3	⑤	講座・散策ガイド・ワークショップ等の開催強化	市(文化振興課) 群馬県・関係団体 住民・地域	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
4	⑥	パークPFIによる施設整備の検討	市(関係課) 群馬県・関係団体 民間事業者	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
4	⑦	民間事業者誘致によるおもてなし機能の検討	市(関係課) 群馬県・関係団体 民間事業者	令和7～16年度 (2025-2034)	新規

城沼エリアは館林市内の東にあり、国指定名勝「躑躅ヶ岡」や市指定史跡「館林城跡」などの文化財や館林市役所、館林市文化会館、館林市立図書館、館林市立資料館、田山花袋記念文学館、向井千秋記念子ども科学館などの公共施設がある。周囲約4キロメートルの城沼があり、沼の南側には「つつじが岡公園」やJA農産物直売所「ぽんぽこ」などがある。エリアの周辺には館林城や歴代城主との関連がある「尾曳稲荷神社」や「善導寺」、「善長寺」などの寺社仏閣がある。近世期の館林城築城や歴代城主とつながりのある文化財が多いことから、日本遺産「里沼」ストーリーでは、「守りの沼」と位置付けている。



写 6-17 城沼

1)現状と課題、方針

現状 城沼南岸にあり、本市最大の観光スポットである国指定名勝「躑躅ヶ岡」(つつじが岡公園)は、近隣に観光地が増え、近年は来場者が減少傾向にある。また、平成21年(2009)に策定した『名勝「躑躅ヶ岡(つつじ)」保存管理計画策定書』策定から15年が経過していることから改定を必要としている。

また、城沼西岸の館林市役所周辺には、館林市立資料館(第一資料館・第二資料館)、田山花袋記念文学館、向井千秋記念子ども科学館、館林城跡(本丸及び三の丸土塁・土橋門)など、本市の歴史文化を見学できる施設が集積しているが、施設や展示物の老朽化が著しく、今後の人口減少・財政縮小により運営の継続が不可能になる恐れがある。

館林市立資料館(第一資料館)と田山花袋記念文学館においては、資料収蔵庫があるものの、古い施設のため資料保存に適した設備を有しておらず、また資料収蔵庫自体も経年の資料収集により収蔵スペースの確保が困難になっている状態にある。

さらには、館林城跡の本丸及び三の丸土塁・土橋門などは広大な面積を有し、敷地内における高木・低木をはじめとした樹木の適切な管理や定期的な除草等も含め、関連する文化財の適切な保全や景観維持が求められている。

課題 国指定名勝「躑躅ヶ岡」については保存管理計画の改定に取組み、推定樹齢800年を超えるつつじ古木群や城沼対岸からの眺望を含めた周辺景観保護だけでなく、さらなる魅力向上を目指し、周辺を含め来訪者利便施設の改修・整備などを位置付けていく必要がある。

また、「つつじ映像学習館」における「つつじ」、日本遺産「里沼」を含めた展示機能の維持向上に努めるほか、歴史的建造物である「旧秋元別邸」を活用した本市の歴史文化のP

Rも強化する必要がある。

館林市立資料館(第一資料館・第二資料館)、田山花袋記念文学館、向井千秋記念子ども科学館等の見学施設については、維持改修を行いながら引続き魅力ある展示や企画の実施に取り組む必要がある。収蔵スペースや適切な資料保存管理のための設備・機能の導入については、市で検討している施設集約・複合化やコンパクトシティの動向と連動しながら、検討を進めていく一方で、資料の保存・管理にあたっては、計画的な受け入れをするため「コレクションマネジメント規定」を設定しながら、資料の収蔵可否だけでなく中・長期的な収蔵物管理・収蔵庫スペースの確保・コントロールも行っていく必要がある。

さらには館林城跡に関する維持管理は、予算確保に注力しつつ、地域活動者のマンパワーや一部作業をボランティアに委託するアダプト制度等も活用しながら、適切な管理に努める。往時の歴史的風情や本市の歴史文化の魅力が体感できるような再整備について検討する。

方針

No.	方針	説明
1	国指定名勝「躑躅ヶ岡」保存管理計画 改定及び周辺整備推進	国指定名勝「躑躅ヶ岡」保存管理計画の見直しと合わせて、情報発信や活用を充実させるためのハード・ソフト整備を推進する。また「旧秋元別邸」を含む第二公園及び周辺区域の魅力向上も図る。
2	館林市立資料館・田山花袋記念文学館 における企画展・講座等開催	館林市立資料館(第一資料館・第二資料館)及び田山花袋記念文学館等の文化財関連施設における魅力ある企画展・特別展を開催するとともに、地域の歴史文化にちなんだ講座や講演会、ワークショップなどを開催し、さらなる普及を図る。
3	文化財保存・展示施設再整備の検討	文化財関連施設の建物や収蔵庫、展示設備等の改修等を進め、適切な資料管理・保存につとめるとともに、将来的な施設統合の検討に合わせた収蔵スペース確保やコレクションマネジメント規定の作成等を検討する。
4	館林城跡の適切管理と 魅力向上整備強化	館林城跡にある土塁(本丸・三の丸)や土橋門、周辺の文化財関連施設の樹木管理や除草を定期的に行うため有償ボランティアによる管理委託等も導入しコスト低減を図る。また、往時の歴史的風情を体感できるよう館林城跡関連の再整備も検討し、館林市の歴史文化の魅力の向上に取り組む。

2) 具体的措置

方針	1 国指定名勝「躑躅ヶ岡」保存管理計画改定及び周辺整備推進		
具体的措置	①『名勝「躑躅ヶ岡(ツツジ)」保存管理計画策定書』の改定		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	躑躅ヶ岡(ツツジ)
事業主体者	市(文化振興課・関係課)		
財源	市		
内容	国指定名勝「躑躅ヶ岡」の『保存管理計画策定書』を改定し、推定樹齢800年のつつじ古木群や城沼北岸からの眺望景観などの保全と活用を推進する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	1 国指定名勝「躑躅ヶ岡」保存管理計画改定及び周辺整備推進		
具体的措置	②サイクリングターミナル再整備・運営		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	躑躅ヶ岡(ツツジ)
事業主体者	市(つつじのまち観光課)		
財源	市		
内容	城沼南岸にある宿泊施設であるサイクリングターミナルを再整備し、国指定名勝「躑躅ヶ岡」や日本遺産「里沼」を構成する城沼、地域の歴史文化を体感できる拠点の形成と展開に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	—

方針	2 館林市立資料館・田山花袋記念文学館における企画展・講座等開催		
具体的措置	③館林市立資料館・田山花袋記念文学館における魅力ある展示会開催		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	館林市立資料館(第一資料館・第二資料館)・田山花袋記念文学館における魅力ある企画展・特別展を開催しながら入館者増加に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	2 館林市立資料館・田山花袋記念文学館における企画展・講座等開催		
具体的措置	④館林市立資料館・田山花袋記念文学館関連講座・普及活動開催		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全・田山花袋
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	館林市立資料館(第一資料館・第二資料館)・田山花袋記念文学館で地域の歴史文化や日本遺産「里沼」にちなむ講座や講演会などを開催しさらなる普及を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	2 館林市立資料館・田山花袋記念文学館における企画展・講座等開催		
具体的措置	⑤「里沼」体感ワークショップの実施		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市・ふるさと納税・企業版ふるさと納税・民間資金 等		
内容	地域活動者等と連携して日本遺産「里沼」や城沼の歴史文化を体感できる散策講座やワークショップを実施する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	3 文化財保存・展示施設再整備の検討		
具体的措置	⑥文化財関連施設の維持管理・改修強化		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	文化財関連施設の建物や収蔵庫、展示設備等の改修を進め、適切な管理・保存を行う。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	3 文化財保存・展示施設再整備の検討		
具体的措置	⑦文化財関連施設等の施設複合化検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・関係課)		
財源	市		
内容	文化財関連施設の建物や収蔵庫、展示設備等の改修を進め、適切な管理・保存を行う。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	3 文化財保存・展示施設再整備の検討		
具体的措置	⑧コレクションマネジメント規定の検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課)		
財源	市		
内容	文化財関連施設で収集・収蔵する資料のコレクションマネジメント規定の作成等を検討する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	4 館林城跡の適切管理と魅力向上整備強化		
具体的措置	⑨館林城跡における樹木管理・除草の強化		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・関係課)		
財源	市		
内容	館林城跡の土塁・土橋門のほか周辺の文化財関連施設の樹木剪定・除草の取組を強化する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	4 館林城跡の適切管理と魅力向上整備強化		
具体的措置	⑩館林城跡関連の再整備検討		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(文化振興課・関係課)		
財源	市		
内容	館林藩時代の歴史的風情を体感できるよう館林城跡関連の再整備も検討する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

3)成果指標(KPI)設定

城沼エリアについては文化財関連施設が集積していることから、館林市立資料館(第一資料館・第二資料館)・田山花袋記念文学館・鷹匠町武家屋敷「武鷹館」の年間入館者数を成果指標(KPI)として設定する。令和4年度(2022)実績である24,203人を基準値として、令和16年度(2034)には35,000人まで引き上げることを目標値とする。

《成果指標(KPI)》

城沼エリア

文化財関連施設の年間入館者数

《令和4年度(2022)》24,203人 →《令和16年度(2034)》35,000人



写 6-18 田山花袋記念文学館展示解説会



写 6-19 館林城跡周辺でのイベント

重点プロジェクト

①日本遺産「里沼」の推進 ⇒(A)沼辺遺産区域— 城沼エリア

- 方針1 国指定名勝「躑躅ヶ岡」保存管理計画改定及び周辺整備推進
- 方針2 館林市立資料館・田山花袋記念文学館
における企画展・講座等開催
- 方針3 文化財保存・展示施設再整備の検討
- 方針4 館林城跡の適切管理と魅力向上整備強化



写 6-20 館林城跡・三の丸土橋門

①『名勝「躑躅ヶ岡(ツツジ)」保存管理計画策定書』の改定

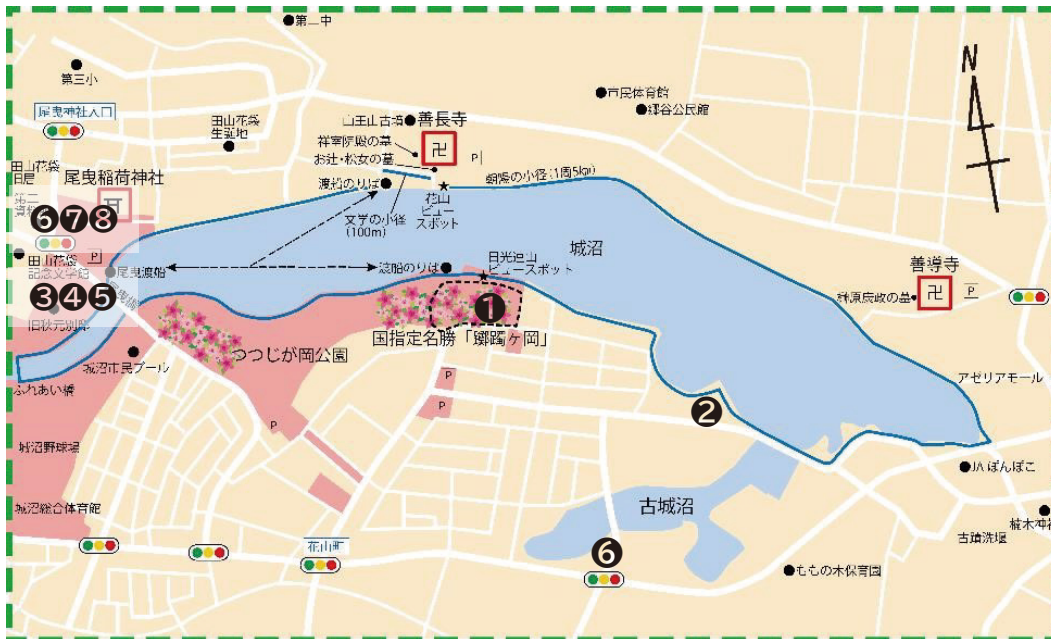
躑躅ヶ岡の保存管理計画を改定し古木群や城沼北岸からの眺望景観保全と活用を展開する。

②サイクリングターミナル再整備・運営

宿泊施設を再整備し、城沼や市内の歴史文化を体感できる拠点形成と展開に取り組む。

③館林市立資料館・田山花袋記念文学館における魅力ある展示会開催

資料館・文学館における魅力ある企画展・特別展を開催しながら入館者増加に取り組む。



■主な文化財・歴史文化資源

- ・躑躅ヶ岡(ツツジ)
(名勝/国指定)
- ・尾曳稲荷神社
(建造物/未指定)
- ・善長寺
(建造物/未指定)
- ・館林城主榊原忠次の
母祥室院殿の墓および石燈籠
(史跡/市指定)
- ・善導寺
(建造物/未指定)
- ・榊原康政の墓附同画像
(史跡/県指定)
- ・旧秋元別邸
(建造物/未指定)
- ・旧上毛モスリン事務所
(重要文化財/県指定)
- ・田山花袋旧居及び
旧居跡附建家売渡証一札
(史跡/市指定)

(A) 沼辺遺産区域 図 6-1 内、城沼エリアに該当

④館林市立資料館・田山花袋記念文学館関連講座・普及活動開催

資料館・文学館で地域の歴史文化にちなむ講座や講演会などを開催しさらなる普及を図る

⑤「里沼」体感ワークショップの実施

地域活動者と連携して城沼の歴史文化を体感できる散策講座やワークショップを実施する。

⑥文化財関連施設の維持管理・改修強化

文化財関連施設の建物や収蔵庫、展示設備等の改修を進め、適切な管理・保存を行う。

⑦文化財関連施設等の施設複合化検討

文化財関連施設を含む将来的な施設統合・複合化に合わせ収蔵スペース確保も検討していく。

⑧コレクションマネジメント規定の検討

文化財関連施設で収集・収蔵する資料のコレクションマネジメント規定の作成等を検討する。

⑨館林城跡における樹木管理・除草の強化

館林城跡の土塁・土橋門のほか周辺の文化財関連施設の樹木剪定・除草の取組を強化する。

⑩館林城跡の適切管理と魅力向上整備強化

館林藩時代の歴史的風情を体感できるよう館林城跡関連の再整備も検討する。

成果指標(KPI)の設定	成果指標	基準値 (年度)	目標値 (年度)
城沼エリアに集積する文化財関連施設の充実を図ることで入館者を増やし、本市の魅力発信・PRを図る。	文化財関連施設 年間入館者数 * 館林市立資料館(第一・二資料館) 田山花袋記念文学館 鷹匠町武家屋敷「武鷹館」	24,203 人 (令和4年度(2022))	35,000 人 (令和16年度(2034))



写 6-21 城沼北岸からのつつじが岡



写 6-22 館林城跡本丸土塁



写 6-23 第二資料館でのコンサート

方針	No.	事業名	主体者	年次計画	新規 継続
1	①	『名勝「躑躅ヶ岡(ツツジ)」保存管理計画策定書』の改定	市(文化振興課・関係課)	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
1	②	サイクリングターミナル再整備・展開	市(つつじのまち観光課)	令和7～16年度 (2025～2034)	継続
2	③	館林市立資料館・田山花袋記念文学館 における魅力ある展示会開催	市(文化振興課)	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
2	④	館林市立資料館・田山花袋記念文学館 関連講座・普及活動開催	市(文化振興課)	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
2	⑤	「里沼」体感ワークショップの実施	市(文化振興課) 所有者・関係者 関係団体・民間事業者	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
3	⑥	文化財関連施設の維持管理・改修強化	市(文化振興課)	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
3	⑦	文化財関連施設等の施設複合化検討	市(文化振興課・関係課)	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
3	⑧	コレクションマネジメント規定の検討	市(文化振興課)	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
4	⑨	館林城跡における樹木管理・除草の強化	市(文化振興課・関係課)	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
4	⑩	館林城跡の適切管理と魅力向上整備強化	市(文化振興課・関係課)	令和7～16年度 (2025-2034)	新規

館林駅東・旧城下町エリア

館林駅東・旧城下町エリアは館林市内のほぼ中央部にあり、東武伊勢崎線館林駅や国登録有形文化財「分福酒造店舗」や「旧館林二業見番組合事務所」(以下「旧二業見番」)などの文化財がある。江戸時代には館林城の城下町にあたり、現在でも当時の道路や町割りが残っている。

エリアの中央を「日光脇往還」が南北に走り、館林駅からエリア東側の館林市役所・館林市文化会館付近まで、文化財や歴史的建造物が点在しており「歴史の小径」と呼ばれ、地元住民や市外からの来訪者に親しまれている。

日本遺産「里沼」ストーリーでは、鉄道開通に伴うまちの近代化や工業化により賑わいが生まれ、「里沼」につながる風土や生業などの地域特性は、来訪者へのおもてなし文化として花開いたことから、「里沼のもてなし文化」エリアと位置付けている。



写 6-24 旧館林二業見番組合事務所

1)現状と課題、方針

現状 館林駅東・旧城下町エリアにおいては平成7年(1995)から27年(2015)までの20年間で、0～14歳人口が11.0%⇒9.4%と減少する一方で、65歳以上の割合は30.1%⇒40.5%と上昇し、エリア内人口も14,689人⇒11,707人まで減少することが予測されている。子ども世代だけでなく、子育て世代である15～64歳人口も1,623人⇒1,286人⇒1,102人と大きく減少していくことから、民俗芸能や伝統産業の後継者不足による担い手育成など、文化財の継承が困難になっている。

このエリアは、館林駅から市役所に至る道路を東西軸としつつも、北側に平行して走る「歴史の小径」と呼ばれるサブ東西軸も存在している。一方で、江戸時代の旧城下町の町人地部分を縦貫する「日光脇往還」があり、旧城下町の骨格を形成している。このエリアは明治期の鉄道開通に端を発して以来、旧城下町を母体とする近代的な都市へと変貌を遂げたが、旧城下町時代の町割りや道はそのまま維持された。館林駅周辺には、寺社仏閣のほか「東武鉄道館林駅舎」・「正田記念館」・「製粉ミュージアム本館」・「歴史の小径」沿いには、「竜の井」・「分福酒造店舗」・「旧館林信用金庫」・「外池商店」・「旧館林二業見番組合事務所」・「青龍神社」・「鷹匠町長屋門」・「旧館林藩士住宅」などが点在している。また、「日光脇往還」沿いには「太陽の園」(旧大辻)・「町検断の門」・「青梅天満宮」などが残っている。商店街には大正・昭和期以降に建てられた看板建築なども残っていたが、県道整備拡幅事業に伴う移転・取壊しなどが相次ぎ、往時の町並みの雰囲気は失われてしまった。

館林地域の年齢3区分別人口及び高齢化率推移データ

年齢区分/年	平成7 (1995)	平成17 (2005)	平成27 (2015)	令和7 (2025)	令和17 (2035)	令和27 (2045)
地区総人口	16,985 100.0%	16,776 100.0%	15,979 100.0%	14,689 100.0%	13,184 100.0%	11,707 100.0%
0-14歳	2,294 13.5%	2,262 13.5%	1,991 12.5%	1,623 11.0%	1,286 9.8%	1,102 9.4%
15-64歳	11,350 66.8%	10,613 63.2%	9,432 59.0%	8,644 58.9%	7,443 56.4%	5,860 50.1%
65歳以上	3,341 19.7%	3,901 23.3%	4,556 28.5%	4,422 30.1%	4,455 33.8%	4,745 40.5%

*地域計画(令和7～16年度)

■旧二業見番が所在する館林地域は今後、高齢化率が急速に高まる。
■子ども世代と子育て支援世代の減少は現状のままでは歯止めがかけられない

図 6-2 エリア内人口と高齢化率推移

旧城下町やまちの近代化の歴史文化を物語る文化財や歴史文化資源が多いが、まちづくりの中で活用がなされていない。

特に「旧二業見番」は、昭和13年(1938)に建築された芸妓置屋と料理店業を兼ねた「二業見番組合」の事務所として建てられた木造2階の歴史的建造物で、正面の重厚な瓦屋根、2階にある舞台と大広間が特徴で、昭和前期の館林の花街の中核を担っていた。花の季節にはつつじが岡で館林の芸妓たちが行楽客を迎え入れるなど、城沼のほとりのもてなし文化に華を添えていた。平成28年には国登録有形文化財に登録されたが、耐震補強のコストや、改修後の利活用方法等が定まらず老朽化が進み、文化財としての価値が生かされていない。

課題 近年、館林駅東側の都市再生を目的として、「歴史の小径」沿道では地域のまちづくり活動者・民間事業者・地元住民が連携・協力しながら、歴史的建造物を利活用する動きが起きている。「歴史の小径」沿いにある歴史文化を活かした拠点整備や、「旧二業見番」をはじめとする歴史的建造物の改修・活用による賑わい創出を進めるとともに、旧城下町の風情あふれる町並みの維持と修景を推進していく。また、人口減少下での持続可能なまちづくりに向けてのコンパクトシティ形成と都市機能の複合化に取り組む中で、「旧二業見番」を地域コミュニティセンターや地域交流センターなどに改修し、地域住民が活動・活躍しながら来訪者をおもてなしするための拠点整備にも取り組むものとする。

館林駅東・旧城下町エリア周辺には、館林の近代化を支えた産業である醸造・製粉・織物と関連する文化財も多く残っていることから、これらの公開・活用を通して本市の歴史文化のもつ魅力を伝えるとともに、伝統産業自体の復興・技術継承にも取り組んでいく。そして、祭りなどに関連した伝統芸能についても、少子高齢化により技能の伝承・継承が困難な状況になっていることから、関係団体や公民館・学校等と連携して技能保護と人材育成、公開の機会創出を図るとともに、関連する神輿や山車などの道具類の保存、デジタル技術を用いた記録保存も展開していく。

当該エリアでは文化財分野にとどまることなく、都市計画分野で進められている都市再生再整備の動向と連携しながら、公的不動産(PRE*)に代表される歴史文化ストックを活かした事業展開や賑わい創出、まちづくりの“自走”とエリア全体の価値向上を目指したエリアプラットフォーム形とまちの未来ビジョンの策定、まちづくり人材育成を進めるものとする。

*PRE(Public Real Estate: 公的不動産)
国や地方自治体が保有する不動産。財政運営の効率化・合理化のなかで、遊休・低利用不動産の活用見直しに取り組む動きがある。

官民連携まちなか再生推進事業

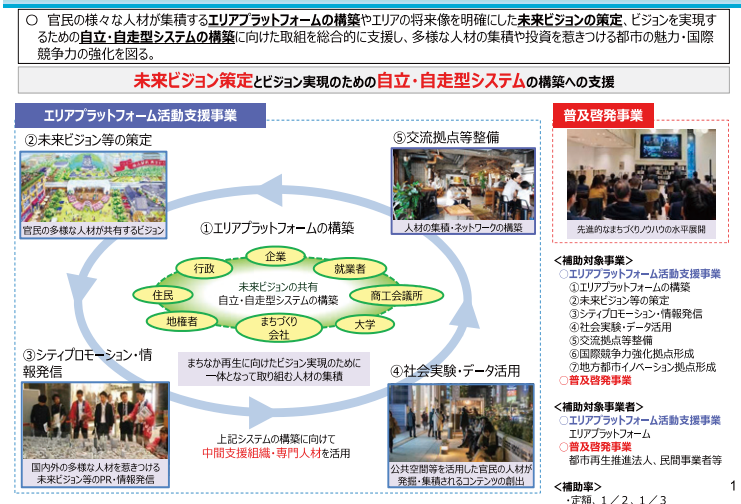


図 6-3 エリアプラットフォーム(イメージ図)

方針

No.	方針	説明
1	歴史的建造物の保存・整備事業の推進	館林駅東・旧城下町エリアの「歴史の小径」沿いにある「旧二業見番」をはじめとした歴史的建造物の改修・活用を進めるとともに、旧城下町の風情あふれる町並み修景を推進する。
2	伝統産業の活用・公開と技術継承	館林駅周辺には館林の近代化を支えた産業である醸造・製粉・織物等と関連する文化財・歴史文化資源も多く残っていることから、それらの公開・活用を通してそれぞれの魅力を伝えるとともに、伝統産業自体の復興・技術継承にも取り組んでいく。
3	文化財技能保持者の伝承・継承強化	館林駅東・旧城下町エリアには祭りなどに関連した伝統芸能があるが、少子高齢化により技能の伝承・継承が困難な状況になっていることから、関係団体や公民館・学校等と連携して技能保護と人材育成、公開の機会創出を図るとともに、関連する神輿や山車などの道具類の保存、デジタル技術を用いた記録保存も検討していく。
4	都市再生整備計画(館林駅東地区)との連動	都市計画分野で進められている再整備と連動しながら、歴史文化ストックを活かした事業展開やにぎわい創出、まちづくりの“自走”を目指したエリアプラットフォーム形成と人材育成を進める。

2) 具体的措置

方針	1 歴史的建造物の保存・整備事業の推進		
具体的措置	①旧館林二業見番組合事務所の改修・活用		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	旧館林二業見番組合事務所
事業主体者	市(文化振興課・関係課)		
財源	市・群馬県補助金・国(文化庁・国土交通省)補助金・ふるさと納税・企業版ふるさと納税・寄付・民間資金・クラウドファンディング等		
内容	建物の価値を維持した耐震補強・改修工事を行い、地域コミュニティセンター・観光拠点として整備する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	1 歴史的建造物の保存・整備事業の推進		
具体的措置	②太陽の園(仮称大辻広場)整備とモニュメント設置		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	太陽の園(仮称大辻広場)
事業主体者	市(区画整理課・緑のまち推進課)		
財源	市・国(国土交通省)補助金		
内容	旧城下町「札の辻」にある緑地「太陽の園」を「仮称大辻広場」として再整備するとともに、往時の忍ばせるモニュメントを設置する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	—

方針	1 歴史的建造物の保存・整備事業の推進		
具体的措置	③歴史的街並み景観創出補助金の継続		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	「歴史の小径」・歴史的建造物
事業主体者	市(区画整理課)		
財源	市		
内容	館林市歴史的町並み景観創出補助金制度を継続し、「歴史の小径」の景観維持のための工作物・屋外広告物の設置・改修を継続して支援する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	2 伝統産業の活用・公開と技術継承		
具体的措置	④企業ミュージアム・記念館の運営維持		
新規・継続	★(継続)	関連する文化財	企業ミュージアム等
事業主体者	所有者・民間事業者		
財源	民間資金		
内容	館林駅周辺の伝統産業と関連する企業ミュージアム(正田記念館・製粉ミュージアム)・毛塚記念館(「分福酒造店舗」)等の運営と公開・活用を維持する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	2 伝統産業の活用・公開と技術継承		
具体的措置	⑤市・民間企業ミュージアム連携イベント開催		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	企業ミュージアム等
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市・群馬県・所有者・民間事業者		
内容	市や民間の企業ミュージアム等が連携した、賑わい創出や施設間の回遊性向上を目的としたスタンプラリーなどの共同イベントを開催する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	2 伝統産業の活用・公開と技術継承		
具体的措置	⑥館林紬の技術継承・魅力発信支援		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	企業ミュージアム等
事業主体者	市(文化振興課・関係課)・所有者・関係団体・民間事業者		
財源	市・所有者・民間事業者		
内容	館林紬(館林織物)を使った新たな商品・サービス造成、技術継承のための関係団体の取組みを支援する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	3 文化財技能保持者の伝承・継承強化		
具体的措置	⑦伝統芸能等の技能継承の支援		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	民俗芸能
事業主体者	市(文化振興課・関係課)・所有者・関係団体・住民・地域・学校		
財源	市・群馬県(芸術振興財団)補助金 等		
内容	関係団体や公民館・学校等と連携しながら伝統芸能の技術継承と継承者育成を支援する。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	3 文化財技能保持者の伝承・継承強化		
具体的措置	⑧伝統芸能等のデジタル記録保存の実施		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	民俗芸能
事業主体者	市(文化振興課)・所有者・関係団体・住民・地域		
財源	市・群馬県(芸術振興財団)補助金 等		
内容	エリア内の伝統芸能や祭り、年中行事などに関する映像や音声などのデジタルデータとして記録し、次世代への継承に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	4 都市再生整備計画(館林駅東地区)との連動		
具体的措置	⑨公的不動産(PRE)・歴史的建造物の活用		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	歴史的建造物
事業主体者	市(区画整理課・関係課)・所有者・関係団体・民間事業者・住民		
財源	市・民間資金 等		
内容	民間活力を導入しながら歴史的建造物を活用した魅力発信事業や社会実験等の展開を図る。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

方針	4 都市再生整備計画(館林駅東地区)との連動		
具体的措置	⑩官民連携エリアプラットフォーム形成		
新規・継続	★(新規)	関連する文化財	全
事業主体者	市(区画整理課・関係課)・所有者・関係団体・民間事業者・住民・地域		
財源	市・国(国土交通省)補助金・民間資金 等		
内容	エリアプラットフォームを構築して人材・ノウハウ蓄積による地域資源の好循環化に取り組む。		
事業計画	前期 令和7～9年度 (2025～2027年度)	中期 令和10～13年度 (2028～2031年度)	後期 令和14～16年度 (2032～2034年度)
	○	○	○

3)成果指標(K P I)設定

館林駅東・旧城下町エリアについては、文化財や歴史文化の活用による賑わい創出をテーマとして掲げていることから、計画期間10年後の総人口維持を成果指標(K P I)として設定する。令和7年度(2025)推計における14,689人を基準値とし、令和17年度(2035)推計13,184人に減少することが予測されているが、これを令和7年度(2025)基準値(≒14,700人)で維持することを目標値とする。

《成果指標(K P I)》

館林駅東・旧城下町エリア

館林駅東・旧城下町エリアの総人口数

《令和7年度(2025)》14,689人(推計値) →《令和17年度(2035)》14,700人



写 6-25 竜の井



写 6-26 分福酒造店舗(「毛塚記念館」)



写 6-27 旧館林藩士住宅での節分イベント

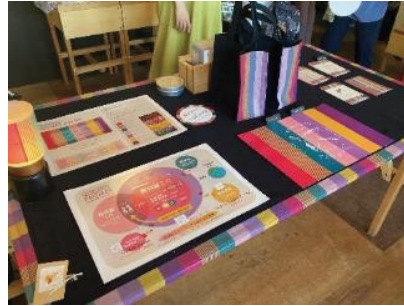


写 6-28 青龍の井戸(清龍神社)

成果指標(KPI)の設定	成果指標	基準値 (年度)	目標値 (年度)
建造物など歴史文化ストックを活用してエリア全体の価値向上とにぎわいを創出する。	館林駅東・旧城下町 エリアの総人口数 <small>* 推計では令和17年度13,184人 令和7年度から1,516人増加</small>	14,689人 (令和7年度(2025))	14,700人 (令和17年度(2035))



写 6-30 旧二業見番活用イベント



写 6-31 館林紬の新たな取組



写 6-32 本町一丁目の神輿囃子

方針	No.	事業名	主体者	年次計画	新規 継続
1	①	旧館林二業見番組合事務所の改修・活用	市(文化振興課・関係課)	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
1	②	太陽の園(仮称大辻広場)整備とモニュメント設置	市(区画整理課・緑のまち推進課)	令和7～16年度 (2025～2034)	新規
1	③	歴史的街並み景観創出補助金の継続	市(区画整理課)	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
2	④	企業ミュージアム・記念館の運営維持	所有者・民間事業者	令和7～16年度 (2025-2034)	継続
2	⑤	市・民間企業ミュージアム連携イベント開催	市(文化振興課) 所有者・関係団体・ 民間事業者	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
2	⑥	館林紬の技術継承・魅力発信支援	市(文化振興課・関係課) 所有者・関係団体 民間事業者	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
3	⑦	伝統芸能等の技能継承の支援	市(文化振興課・関係課) 所有者・関係団体 住民・地域・学校	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
3	⑧	伝統芸能等のデジタル記録保存の実施	市(文化振興課・関係課) 所有者・関係団体 住民・地域	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
4	⑨	公的不動産(PRE)・歴史的建造物の活用	市(区画整理課・関係課) 所有者・関係団体 民間事業者・住民	令和7～16年度 (2025-2034)	新規
4	⑩	官民連携エリアプラットフォーム形成	市(区画整理課・関係課) 所有者・関係団体 民間事業者・住民・地域	令和7～16年度 (2025-2034)	新規

第7章 地域計画の実現に向けて

本計画において「目指すべき将来像」として掲げた「里沼のまち・館林市「文化財未来ビジョン—つなぐ文化財×つながるまちづくり—」」の実現のため、推進のための推進体制を整備するとともに、計画で位置付けた具体的事業と二つの重点プロジェクトの進捗管理を行っていく。

1 地域計画の推進体制

(1) 地域計画の推進体制

地域計画の進捗にあたっては、館林市(教育委員会文化振興課・関係課)が文化庁や群馬県と調整を行うほか、文化財の所有者や関係者・関係団体、民間事業者、住民や地域、学校などと連携を図りながら、計画に位置付けた具体的措置に取組み、文化財の保存・活用とそれに関わるひとづくり・まちづくりにおける課題を解決していくものとする。

(2) 文化財保存活用推進協議会の設置

なお、地域計画の進捗管理については、計画作成にあたって組織された「館林市文化財保存活用地域計画協議会」を基本として移行し、(仮称)「館林市文化財保存活用推進協議会」を新設し、具体的事業の進捗状況と成果指標(K P I)を管理する。

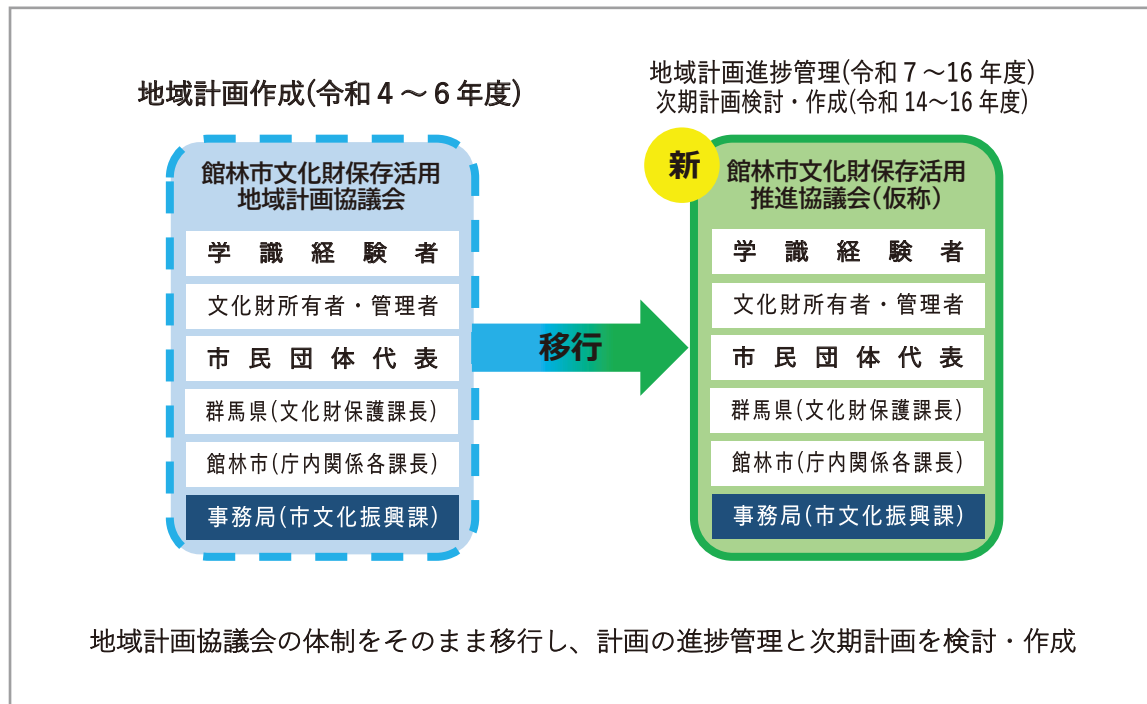


図 7-1 館林市文化財保存活用推進協議会への移行図

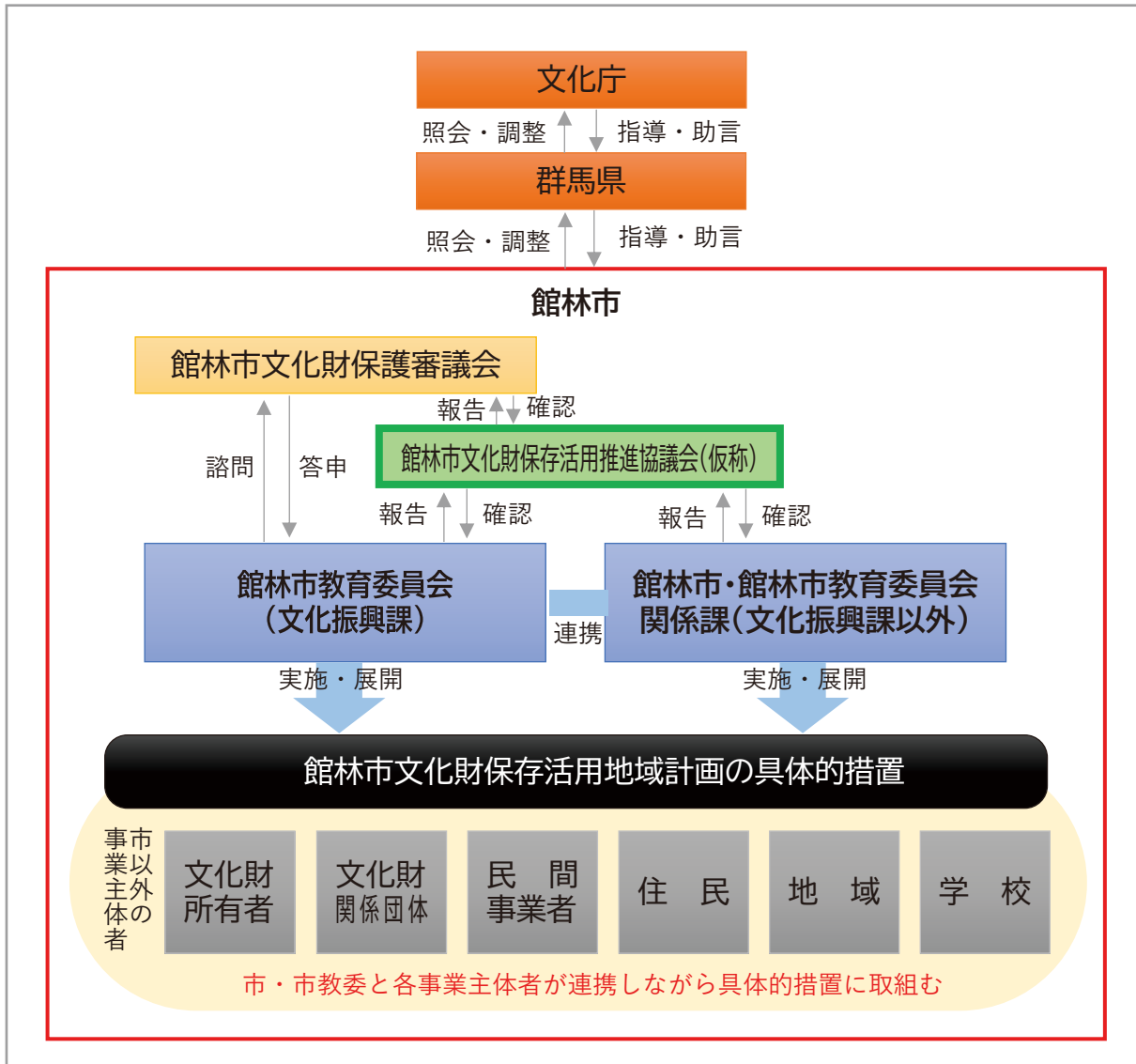


図 7-2 館林市文化財保存活用地域計画推進体制図

2 地域計画の進捗管理

(1) 具体的事業と二つの重点プロジェクト

具体的事業と二つの重点プロジェクトの進捗管理については、計画期間である令和7～16年度(2025-2034)の10か年のうち令和7～9年度(2025-2027)を「前期」、令和10～13年度(2028-2031)を「中期」、令和14～16年度(2032-2034)「後期」として3区分し、中・長期的な管理を行うものとする。

令和(年度)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
期別	前期			中期			後期			

表 7-1 計画期間

(2)PDCAサイクルの構築

本地域計画の計画期間は、令和7年～16年度の10か年としており、計画に位置付けた具体的事業と二つの重点プロジェクトを実行していく。一方、市総合計画や都市計画分野をはじめとする各分野基本計画との連動したひとつづくり・まちづくりに取り組むことが重要なことから、社会情勢の変化や関連計画の見直しなど状況の変化に応じて適宜計画の見直しを行うことが重要である。

そのため、「後期(令和14～16年度)」には、次期計画への移行を含めて本計画での取り組みの達成度評価などの検証を行いながら、計画改定に向けた協議も行っていくこととする。

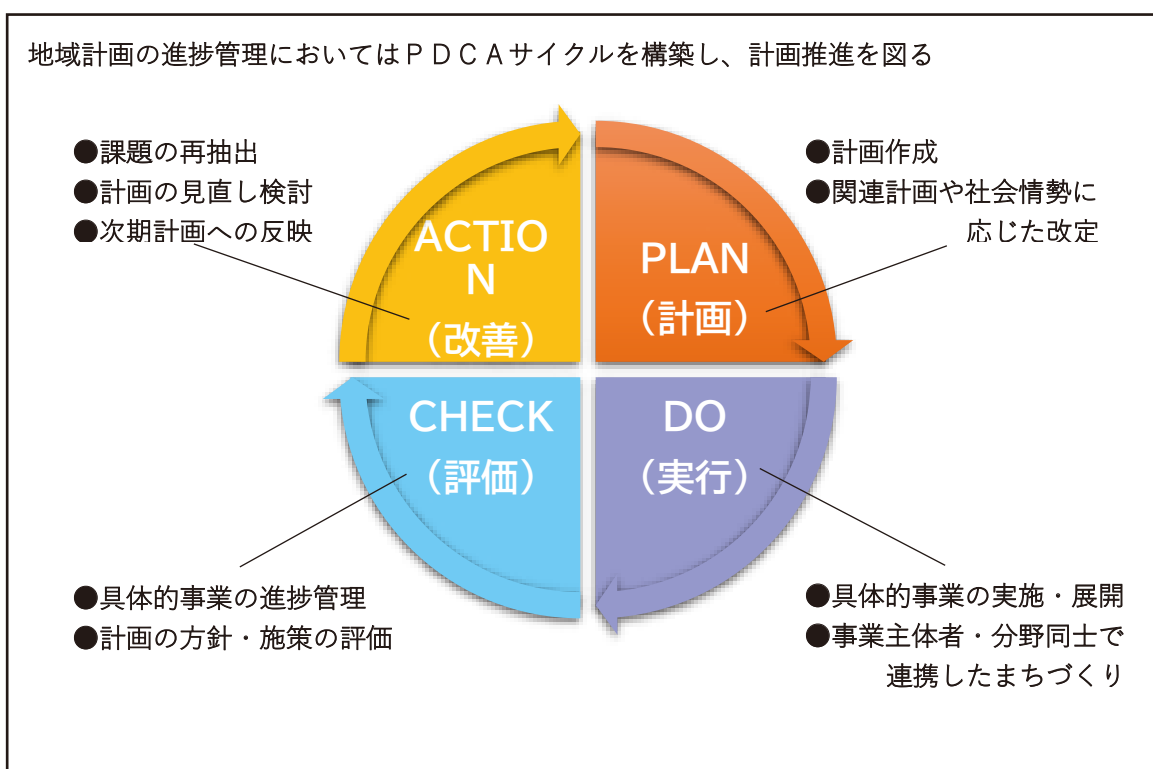


図 7-3 館林市文化財保存活用地域計画における PDCA サイクル

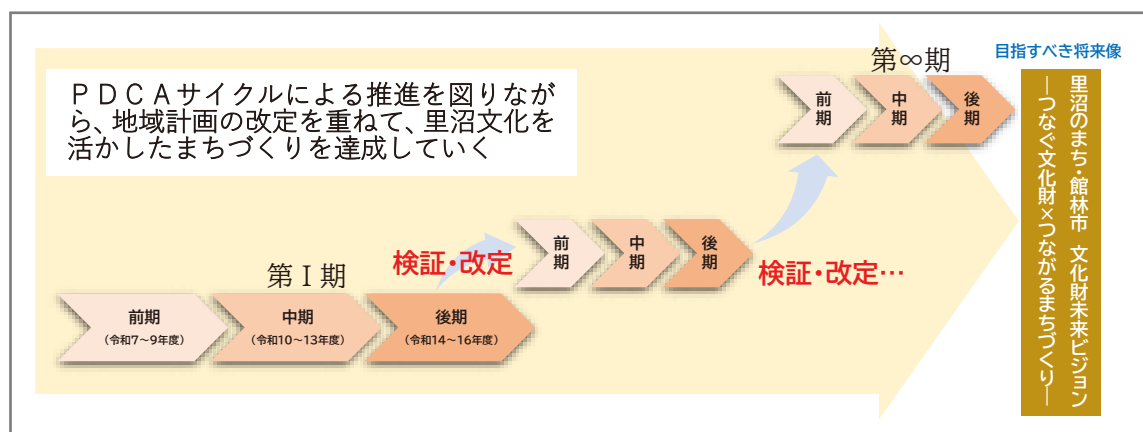


図 7-4 館林市文化財保存活用地域計画の更新

◆ 巻末資料

1 館林市内文化財一覧

- ・ 本リストは、令和6年(2024)8月時点のものである。
- ・ 今後の調査研究や関連事業の進捗により、随時更新することを予定する。

【指定文化財・登録文化財】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	国	名勝	躑躅ヶ岡(ツツジ)	近世	江戸	赤羽	群馬県	
2	県	重文 美術工芸	館林城鐘	近世	江戸	館林	応声寺	寛文13年(1673) 鋳造
3	県	重文 美術工芸	不動まんだら板碑	中世	鎌倉	館林	五宝寺	永仁5年(1297) 造立
4	県	重文 美術工芸	青石地藏板碑	中世	鎌倉	館林	愛宕神社	文永10年(1273) 造立
5	県	重文 建造物	旧上毛モスリン事務所附棟札	近代	明治	館林	館林市	明治41年(1908)～ 同43年(1910) 建築
6	県	重文 美術工芸	封内経界図誌	近世	江戸	館林	館林市	安政2年(1855)
7	県	史跡	大谷休泊の墓	近世	安土 桃山	多々良	大谷休泊 遺徳顕彰会	
8	県	史跡	榑原康政の墓附同画像	近世	江戸	赤羽	善導寺	
9	県	天然記念物	茂林寺沼及び低地湿原	—	—	六郷	館林市	
10	県	天然記念物	茂林寺のラカンマキ	—	—	六郷	茂林寺	応永33年(1426)に植樹(伝承)
11	県	重文 美術工芸	木造阿彌陀如来坐像	中世	中世	館林	常光寺	
12	市	重文 美術工芸	北条氏「虎印」制札	中世	安土 桃山	多々良	龍興寺	天正12年(1584)および天正13年(1585)
13	市	重文 美術工芸	生田萬の書跡	近世	江戸	館林	館林市	文政10年(1827)
14	市	重文 美術工芸	銅鐘	近世	江戸	赤羽	普濟寺	慶安2年(1649)
15	市	重文 美術工芸	館林城下町絵図	近世	江戸	館林	個人	延宝2年(1674)
16	市	重文 美術工芸	松平武元書状(山椒)	近世	江戸	館林	館林市	元文4年(1739)～ 延享4年(1747)
17	市	重文 美術工芸	ジョン・ウィルヘルム・ウエイマン 著植物彩色図	近世	江戸	館林	館林市	1736年出版
18	市	重文 美術工芸	榑原康政禁制	中世	安土 桃山	多々良	龍興寺	
19	市	重文 美術工芸	館林城絵馬	近代	明治	館林	尾曳稲荷神社	明治6年(1873) 北尾重光筆
20	市	重文 美術工芸	明治戊辰戦争警城進撃絵馬	近代	明治	館林	尾曳稲荷神社	明治2年(1869) 北尾重光筆
21	市	重文 美術工芸	千匹ムカデ絵馬	近世	江戸	渡瀬	赤城神社	筆者・制作年代不詳
22	市	重文 美術工芸	ムカデと梅樹絵馬	近世	江戸	渡瀬	赤城神社	天保11年(1840) 北尾重光筆
23	市	重文 美術工芸	松平武元書状(塩鮎)	近世	江戸	館林	館林市	元文4年(1739)～ 延享4年(1747)
24	市	重文 美術工芸	大成経(先代旧事本紀)	近世	江戸	館林	館林市	秋元家伝来
25	市	重文 美術工芸	明治戊辰戦争凱旋絵馬	近代	明治	館林	尾曳稲荷神社	明治2年(1869) 北尾重光筆
26	市	重文 美術工芸	常光寺の格天井絵画	近代	明治	館林	常光寺	明治33年(1900) 小室翠雲筆
27	市	重文 美術工芸	秋元泰朝所有具足 (卯花糸威金箔伊予札胴具足)	近世	江戸	館林	尾曳稲荷神社	秋元家2代泰朝が大坂夏の陣で着用
28	市	重文 美術工芸	不動明王図(教王院旧蔵)	中世	室町	館林	館林市	
29	市	重文 美術工芸	館林城跡出土墓石群	中世	中世	館林	館林市	室町期のものか
30	市	重文 建造物	旧館林藩士住宅	近世	江戸	館林	館林市	江戸後期
31	市	重文 美術工芸	上毛館林城沼所産水草図	近世	江戸	館林	館林市	弘化2年(1845)
32	市	重文 美術工芸	刀銘「上毛館林住山口栄光」	近世	江戸	館林	個人	弘化5年(1848)
33	市	重文 美術工芸	刀銘「上州館林住輝吉」	近世	江戸	館林	個人	元文(1736～1741)
34	市	重要 有形民俗	富士原の浅間塚及び初山関連資料	近世	江戸	六郷	富士嶽神社	富士嶽神社(富士原町)は近世以前に創建
35	市	重要 無形民俗	町検断の門	近世	江戸	館林	個人	
36	市	重要 無形民俗	大島岡里神代神楽(太々神楽)	近代	明治	大島	敬神講	江戸期は神主により奉納、明治期以降は里人が継承
37	市	重要 無形民俗	上三林のささら	近世	江戸	三野谷	上三林ささら 保存会	武州忍(埼玉県行田市)より伝来
38	市	史跡	田山花袋旧居及び旧居跡 附建屋壳渡証一札	近代	明治	館林	館林市	壳渡証は明治19年(1886)
39	市	史跡	生田萬父祖の墓	近世	江戸	館林	大道寺	

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
40	市	史跡	生祠秋元宮	近世	江戸	赤羽	永明寺	安政4年(1857)創建
41	市	史跡	館林城跡	近世	江戸	館林	館林市	館林城は明治7年(1874)焼失
42	市	史跡	田中正造の墓および救現堂	近代	大正	渡瀬	田中正造翁奉賛会	【墓】昭和8年(1933)、【救現堂】大正8年(1919)移築
43	市	史跡	館林城主榑原忠次の母祥室院殿の墓および石灯笼	近世	江戸	郷谷	善長寺	【墓】元和9年(1623) 【石燈籠】寛永10年(1633)
44	市	史跡	山王山古墳	先史	古墳	郷谷	善長寺	前方後円墳
45	市	史跡	館林城本丸土塁及び八幡宮	近世	江戸	館林	館林市	
46	市	史跡	浮世絵師北尾重光の墓	近代	明治	館林	覚応寺	明治16年(1883)没
47	市	史跡	千塚の判官塚	近世	江戸	郷谷	千塚町	
48	市	史跡	日向義民地蔵	近世	江戸	多々良	日向義民地蔵奉賛会	元禄17年(1704)建立
49	市	天然記念物	タテバヤシザサ自生地	—	—	多々良	館林市	
50	登録	建造物	分福酒造店舗	近世	江戸	館林	分福酒造(株)	江戸時代末
51	登録	建造物	正田醤油正田記念館	近世	江戸	館林	正田醤油(株)	嘉永6年(1853)
52	登録	建造物	正田醤油文庫蔵	近世	江戸	館林	正田醤油(株)	江戸末期
53	登録	建造物	正田醤油六号蔵	近代	明治	館林	正田醤油(株)	明治41年(1908)
54	登録	建造物	正田醤油七号蔵	近代	明治	館林	正田醤油(株)	明治44年(1911)
55	登録	建造物	正田醤油八号蔵	近代	大正	館林	正田醤油(株)	大正末期
56	登録	建造物	正田醤油地内稲荷神社	近世	江戸	館林	正田醤油(株)	江戸末期
57	登録	建造物	旧館林二業見番組合事務所	現代	昭和	館林	館林市	昭和13年(1938)

【有形文化財・建造物】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	建造物	旧館林信用組合(現在の館林市市民センター分室)	近代	昭和	館林	館林市	昭和9年(1934)建築
2	未指定	建造物	旧蓼沼洋品店	近代	明治	館林	個人	明治33年(1900)建築
3	未指定	建造物	旧秋元別邸	近代	明治	館林	館林市	明治34年(1901)建築か
4	未指定	建造物	福志満旅館(料理屋・割烹旅館)	近代	昭和	館林	個人	昭和7年(1932)建築
5	未指定	建造物	龍神酒造(株) 旧店舗	近代	明治	館林	龍神酒造(株)	明治40年(1907)建築
6	未指定	建造物	龍神酒造(株) 主屋	近代	大正～昭和	館林	龍神酒造(株)	大正12年(1923)～昭和4年(1929)建築
7	未指定	建造物	館林カトリック教会	現代	昭和	館林	館林カトリック教会	昭和32年(1957)建築
8	未指定	建造物	松澤家 母屋	近代	大正	三野谷	個人	大正2年(1913)建築
9	未指定	建造物	鷹匠町長屋門(旧松澤家長屋門)	近代	—	館林	館林市	平成21年(2009)移築・整備
10	未指定	建造物	館林邑楽武道館(旧館林尋常小学校講堂)	近代	明治	館林	NPO法人北小學舎	明治44年(1911)建築
11	未指定	建造物	群馬県立館林高等学校旧銃器庫	近代	大正	館林	館林高校	大正13年(1924)建築
12	未指定	建造物	群馬県立館林女子高等学校同窓会館	近代	昭和	館林	館林女子高校	昭和12年(1937)建築
13	未指定	建造物	旧郷谷村役場(館林地区高等職業訓練校)	近代	大正	郷谷	館林市	大正15年(1926)建築
14	未指定	建造物	旧郷谷村役場の石蔵	近代	大正	郷谷	館林市	大正15年(1926)建築
15	未指定	建造物	旧大島村役場の石蔵	近代	—	大島	個人	昭和29年(1954)建築
16	未指定	建造物	旧渡瀬村役場の石蔵	現代	昭和	渡瀬	館林市	昭和9年(1934)建築
17	未指定	建造物	旧館林市庁舎(館林市市民センター)	現代	昭和	館林	館林市	昭和38年(1963)建築
18	未指定	建造物	日清製粉ミュージアム日本館	近代	明治	館林	日清製粉グループ本社	明治43年(1910)建築
19	未指定	建造物	旧宮田毛織事務所(兼住宅)	近代	大正	館林	個人	大正8年(1919)建築
20	未指定	建造物	鯉屋根の工場	近代	昭和	館林	個人	昭和初期建築
21	未指定	建造物	谷田川家の大谷石倉庫	近代	昭和	館林	個人	昭和24年(1949)建築
22	未指定	建造物	牧野鍛冶店	近代	明治	館林	個人	明治33年(1900)建築
23	未指定	建造物	館林駅舎	近代	昭和	館林	東武鉄道(株)	昭和12年(1937)建築
24	未指定	建造物	館林駅 変電所・給水棟・転轍器・引き込み線	近代	昭和	館林	東武鉄道(株)	昭和2年(1927)建築

巻末資料

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
25	未指定	建造物	館林駅南高架下レンガ壁	近代	明治	館林	東武鉄道株	明治40年(1907)建築
26	未指定	建造物	茂林寺前駅	近代	昭和	六郷	東武鉄道株	昭和2年(1927)建築
27	未指定	建造物	多々良駅	近代	明治	多々良	東武鉄道株	明治40年(1907)建築
28	未指定	建造物	成島駅	近代	昭和	多々良	東武鉄道株	昭和19年(1944)建築
29	未指定	建造物	渡瀬駅	近代	昭和	渡瀬	東武鉄道株	昭和2年(1927)建築
30	未指定	建造物	武鷹館の長屋門・附属住宅	近代	—	館林	館林市	長屋門:建築年代不明 付属住宅:昭和29年(1954)
31	未指定	建造物	旧清和園	近代	昭和	館林	個人	昭和11年(1936)建築
32	未指定	建造物	外池商店(屋号:和泉屋)	近代	昭和	館林	個人	昭和5年(1930)建築
33	未指定	建造物	魚恵寿司本店	近代	—	館林	個人	
34	未指定	建造物	清水屋酒造	近代	—	館林	個人	
35	未指定	建造物	旧対松亭 (俳人・荒井閑窓の別荘)	近代	—	館林	個人	
36	未指定	建造物	渡良瀬川鉄橋	近代	—	渡瀬	東武鉄道株	
37	未指定	建造物	駅周辺の倉庫群	近代	—	六郷	東武鉄道株など	
38	未指定	建造物	天満宮(大街道一丁目)	—	—	館林	天満宮	
39	未指定	建造物	尾曳稲荷神社	中世	—	館林	尾曳稲荷神社	天文元年(1532)創建
40	未指定	建造物	邑楽護国神社	近代	—	館林	邑楽護国神社	明治2年(1869)創建
41	未指定	建造物	長良神社(代官町)	中世	—	館林	長良神社	
42	未指定	建造物	熊野神社(台宿町)	—	—	館林	熊野神社	
43	未指定	建造物	五宝寺	中世	—	館林	五宝寺	永仁5年(1297)開基
44	未指定	建造物	長良神社(台宿町)	近世	—	館林	長良神社	元禄9年(1696)創建
45	未指定	建造物	愛宕神社	古代	—	館林	愛宕神社	文武4年(700)創建
46	未指定	建造物	応声寺	中世	—	館林	応声寺	徳治元年(1306)創建
47	未指定	建造物	法泉寺	中世	—	館林	法泉寺	文明16年(1484)開基
48	未指定	建造物	琴平神社	—	—	館林	琴平神社	
49	未指定	建造物	稲荷神社(旧石町)	—	—	館林	稲荷神社	
50	未指定	建造物	金山神社	—	—	館林	金山神社	
51	未指定	建造物	清龍神社	近世	—	館林	清龍神社	
52	未指定	建造物	初引稲荷神社(宵稲荷神社)	中世	—	館林	初引稲荷神社	天文元年(1532)ころ
53	未指定	建造物	大道寺	中世	—	館林	大道寺	
54	未指定	建造物	青梅神社(青梅天満宮)	平安	—	館林	青梅神社 (青梅天満宮)	
55	未指定	建造物	竹生島神社	—	—	館林	竹生島神社	
56	未指定	建造物	龍泉寺	—	—	館林	永明寺	近世(元禄年間)に再興
57	未指定	建造物	覚応寺	中世	—	館林	覚応寺	
58	未指定	建造物	白山神社(旧成島村)	—	—	館林	白山神社	
59	未指定	建造物	観性寺	中世	—	館林	観性寺	天正4年(1576)開基
60	未指定	建造物	常光寺	中世	—	館林	常光寺	天正5年(1577)開基
61	未指定	建造物	千眼寺	中世	—	館林	千眼寺	貞永元年(1232)創建
62	未指定	建造物	円教寺	中世	—	館林	円教寺	天正4年(1576)開基
63	未指定	建造物	法高寺	中世	—	館林	法高寺	弘安4年(1281)開基
64	未指定	建造物	法輪寺	中世～ 近世	—	館林	法輪寺	
65	未指定	建造物	夜明稲荷神社	中世	—	館林	夜明稲荷神社	天文元年(1532)創建
66	未指定	建造物	教王院	中世	—	郷谷	教王院	永禄3年(1560)開基
67	未指定	建造物	大神宮(仲町、旧新紺屋町)	中世	—	館林	新紺屋町	天正年間に創建か
68	未指定	建造物	野木神社(仲町、旧本紺屋町)	—	—	館林	野木神社	
69	未指定	建造物	熊野神社(千塚町)	—	—	郷谷	熊野神社	

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
70	未指定	建造物	常栄寺	近世	—	郷谷	常栄寺	寛永元年(1624)創建
71	未指定	建造物	神明宮(千塚町、旧新当郷)	—	—	郷谷	神明宮	
72	未指定	建造物	浅間宮(細内町)	—	—	郷谷	個人	
73	未指定	建造物	観音堂(細内町)	—	—	郷谷	観音堂	
74	未指定	建造物	稲荷神社(田谷町)	—	—	郷谷	稲荷神社	
75	未指定	建造物	観音堂(田谷町)	—	—	郷谷	観音堂	
76	未指定	建造物	稲荷神社(四ツ谷町)	近世	—	郷谷	稲荷神社	延宝2年(1674)創建
77	未指定	建造物	宝寿院	—	—	郷谷	宝寿院	
78	未指定	建造物	松林寺	中世	—	郷谷	松林寺	天正18年(1590)開基
79	未指定	建造物	神明宮(当郷町新田)	—	—	郷谷	神明宮	
80	未指定	建造物	善長寺	中世	—	郷谷	善長寺	大永3年(1523)開基
81	未指定	建造物	当郷神社	古代	—	郷谷	当郷神社	正暦3年(992年)創建
82	未指定	建造物	薬師堂(当郷町)	—	—	郷谷	薬師堂	
83	未指定	建造物	祖霊殿(善定院、廃寺)	—	—	大島	祖霊殿	
84	未指定	建造物	大島神社	—	—	大島	大島神社	
85	未指定	建造物	観音堂(大島町観音)	—	—	大島	観音堂	創建は近世か
86	未指定	建造物	吉祥寺	古代	—	大島	吉祥寺	天慶2年(939)開基、 創建年代は伝承による
87	未指定	建造物	神明宮(大島町山王)	—	—	大島	神明宮	
88	未指定	建造物	山王地藏堂(日限地藏)	—	—	大島	山王地藏堂	
89	未指定	建造物	大日稲神社	—	—	大島	大日稲神社	
90	未指定	建造物	春昌寺	中世	—	大島	春昌寺	永禄6年(1563)開基
91	未指定	建造物	新田薬師堂(大島町正儀内)	—	—	大島	新田薬師堂	
92	未指定	建造物	菅原神社(天満宮)	—	—	大島	菅原神社	
93	未指定	建造物	十二社(権現)神社 (大島町寄居)	中世	—	大島	十二社 (権現)神社	
94	未指定	建造物	明善寺(大島町寄居)	—	—	大島	明善寺	境内に薬師堂あり
95	未指定	建造物	子ノ権現神社(子神社)	—	—	赤羽	子ノ権現神社	中世以前創建か
96	未指定	建造物	山神社(大山祇神社) (赤生田町山田)	—	—	赤羽	山神社	
97	未指定	建造物	白山神社 (赤生田本町下新田)	—	—	赤羽	白山神社	
98	未指定	建造物	大林稲荷神社	—	—	赤羽	大林稲荷神社	
99	未指定	建造物	長良神社 (赤生田本町中新田)	—	—	赤羽	長良神社	近世中期以前創建か
100	未指定	建造物	永明寺	古代	—	赤羽	永明寺	養老年中(717~724) 開基
101	未指定	建造物	駒方神社	—	—	赤羽	駒方神社	
102	未指定	建造物	阿弥陀堂(上赤生田町)	—	—	赤羽	阿弥陀堂	
103	未指定	建造物	永明寺 観音堂	—	—	赤羽	永明寺	
104	未指定	建造物	楠木神社	—	—	赤羽	楠木神社	中世創建か
105	未指定	建造物	富士嶽神社(花山町)	中世	—	赤羽	富士嶽神社	永徳2年(1382)創建
106	未指定	建造物	稲荷神社(羽附旭町)	—	—	赤羽	稲荷神社	
107	未指定	建造物	淵ノ上釈迦堂	—	—	赤羽	釈迦堂	
108	未指定	建造物	雷電神社(羽附旭町白旗)	—	—	赤羽	雷電神社	
109	未指定	建造物	皇大神宮(羽附旭町白旗)	—	—	赤羽	皇大神宮	
110	未指定	建造物	薬師堂(羽附旭町新興)	—	—	赤羽	個人	
111	未指定	建造物	八坂神社(羽附旭町長竹)	—	—	赤羽	八坂神社	
112	未指定	建造物	天満宮(羽附町下志柄)	—	—	赤羽	羽附町	
113	未指定	建造物	八坂神社(羽附町本宿)	—	—	赤羽	八坂神社	
114	未指定	建造物	普濟寺	中世	—	赤羽	普濟寺	大永3年(1523)開基

巻末資料

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
115	未指定	建造物	宝秀寺	中世	—	赤羽	宝秀寺	天正7年(1579)開基
116	未指定	建造物	長良神社(楠町下志柄)	—	—	赤羽	長良神社	
117	未指定	建造物	他宗場の不動堂	—	—	赤羽	—	
118	未指定	建造物	善導寺	古代	—	赤羽	善導寺	和銅元年(708)開基
119	未指定	建造物	長良神社(青柳町)	中世	—	六郷	長良神社	永正元年(1504)開基、 貞享4年、現在地に移転
120	未指定	建造物	龍積寺	中世	—	六郷	龍積寺	応永元年(1394)創建
121	未指定	建造物	密蔵寺	近世	—	六郷	密蔵寺	寛文元年(1661)創建
122	未指定	建造物	長良神社(新宿一丁目)	—	—	六郷	長良神社	
123	未指定	建造物	諏訪神社	—	—	六郷	諏訪神社	室町時代以降か
124	未指定	建造物	富士嶽神社(富士原町)	—	—	六郷	富士嶽神社	文禄元年、榊原康政に より再建
125	未指定	建造物	熊野神社(堀工町)	中世～ 近世	—	六郷	熊野神社	慶長年間創建
126	未指定	建造物	茂林寺	中世	—	六郷	茂林寺	応永33年(1426)創建
127	未指定	建造物	巖島神社	—	—	六郷	巖島神社	
128	未指定	建造物	遍照寺	中世	—	六郷	遍照寺	建久9年(1198)創建
129	未指定	建造物	菅原神社(天満宮) (入ヶ谷町)	—	—	三野谷	菅原神社	
130	未指定	建造物	八坂神社(上三林町)	—	—	三野谷	八坂神社	
131	未指定	建造物	雷電神社(上三林町)	—	—	三野谷	雷電神社	
132	未指定	建造物	十九夜堂(上三林町)	近世	—	三野谷	十九夜堂	宝暦3年(1753)創建
133	未指定	建造物	真観寺	—	—	三野谷	真観寺	鎌倉期、佐貫氏開基
134	未指定	建造物	雷光寺 松の木堂	—	—	三野谷	雷光寺	
135	未指定	建造物	雷光寺	中世	—	三野谷	雷光寺	正和元年(1312)創建
136	未指定	建造物	長良神社(下三林町)	—	—	三野谷	長良神社	
137	未指定	建造物	長良神社(野辺町)	近世	—	三野谷	長良神社	寛永11年(1634)創建
138	未指定	建造物	松林堂	—	—	三野谷	個人	
139	未指定	建造物	龍福密寺	近世	—	三野谷	龍福密寺	寛永14年(1637)開基
140	未指定	建造物	大了庵	—	—	多々良	大了庵	龍興寺(高根町)付属の僧坊
141	未指定	建造物	赤城神社(木戸町)	—	—	多々良	赤城神社	
142	未指定	建造物	神明宮(大神宮)(木戸町)	—	—	多々良	神明宮	
143	未指定	建造物	常楽寺	中世	—	多々良	常楽寺	弘安3年(1280)開基
144	未指定	建造物	深詣寺	中世	—	多々良	応声寺	応永2年(1395)開基
145	未指定	建造物	愛宕神社(高根町)	—	—	多々良	—	
146	未指定	建造物	稲荷神社(高根町)	—	—	多々良	稲荷神社	
147	未指定	建造物	大山祇神社(高根町)	—	—	多々良	大山祇神社	
148	未指定	建造物	源清寺	—	—	多々良	源清寺	龍興寺(高根町)の役寺
149	未指定	建造物	長良神社(高根町台)	—	—	多々良	長良神社	
150	未指定	建造物	龍興寺	中世	—	多々良	龍興寺	文永11年(1274)開基
151	未指定	建造物	大谷神社	中世	—	多々良	大谷神社	永禄元年(1558)または その前年に創建
152	未指定	建造物	正林寺	—	—	多々良	正林寺	
153	未指定	建造物	稲荷神社(日向町)	—	—	多々良	稲荷神社	
154	未指定	建造物	長良神社(日向町下)	—	—	多々良	日向町	
155	未指定	建造物	古峯神社	—	—	多々良	古峯神社	
156	未指定	建造物	宝性寺	—	—	多々良	宝性寺	天保14年(1843)焼失、昭和 42年(1967)再建
157	未指定	建造物	赤城神社(足次町)	中世	—	渡瀬	赤城神社	建仁2年(1202)創建、 伝承
158	未指定	建造物	観音寺	中世	—	渡瀬	観音寺	天文元年(1532)開基
159	未指定	建造物	稲荷神社(大新田町)	—	—	渡瀬	稲荷神社	

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考	
160	未指定	建造物	長良神社(岡野町)	中世	—	渡瀬	長良神社	天正元年(1573)創建
161	未指定	建造物	雷電神社(上早川田町)	—	—	渡瀬	雷電神社	
162	未指定	建造物	蓮葉院	中世	—	渡瀬	蓮葉院	天正2年(1574)開基
163	未指定	建造物	雲龍寺	中世	—	渡瀬	雲龍寺	天文22年(1553)開基
164	未指定	建造物	神明宮(下早川田町道西)	—	—	渡瀬	神明宮	
165	未指定	建造物	赤城神社(傍示塚町西小宮)	—	—	渡瀬	赤城神社	
166	未指定	建造物	赤城神社(傍示塚町宮前)	—	—	渡瀬	赤城神社	

【有形文化財・美術工芸品（絵画）】

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考	
1	未指定	絵画	岸波柳溪関係資料	近代	明治～昭和	館林	館林市	
2	未指定	絵画	岸浪百草居関係資料	近代	明治～昭和	館林	館林市	
3	未指定	絵画	「溪山幽邃図」ほか 小室翠雲資料	近代	明治	館林	館林市	
4	未指定	絵画	藤牧義夫資料	近代	昭和	館林	館林市	
5	未指定	絵画	県立館林美術館所蔵 小室翠雲関係資料	近代	—	多々良	県立館林美術館	
6	未指定	絵画	県立館林美術館所蔵 藤牧義夫関係資料	近代	—	多々良	県立館林美術館	
7	未指定	絵画	県立館林美術館所蔵 岸浪柳溪関係資料	近代	—	多々良	県立館林美術館	
8	未指定	絵画	県立館林美術館所蔵 岸浪百草居関係資料	近代	—	多々良	県立館林美術館	
9	未指定	絵画	小室翠雲「孔雀図」ほか茂林寺 所蔵美術資料	近代	江戸	六郷	茂林寺	
10	未指定	絵画	荒井閑窓俳画作品	近代	明治	館林	館林市	
11	未指定	絵画	山田音羽子屏風	近世	江戸	館林	館林市	

【有形文化財 美術工芸品（彫刻）】

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考	
1	未指定	彫刻	藤野天光彫刻作品	近代	昭和	大島	館林市	

【有形文化財 美術工芸品（書跡・典籍）】

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考	
1	未指定	書籍・典籍	川田龍峰関係資料	近現代		館林	館林市	

【有形文化財 美術工芸品（古文書）】

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考	
1	未指定	古文書	秋元家家臣分限帳 (中小姓以上各式帳他)	近世	江戸	館林	館林市	
2	未指定	古文書	邑楽郡館林全図(長田家旧蔵)	近世	江戸	館林	館林市	
3	未指定	古文書	足尾鉍毒事件関係資料 (大塚家文書)	近代	明治	館林	個人	
4	未指定	古文書	大水につき御救御普請願書 (宝暦7年)	近世	江戸	館林	館林市	
5	未指定	古文書	多々良沼組合并村々絵図 (秋元家旧蔵)	近世	江戸	館林	館林市	
6	未指定	古文書	館林藩領内水路絵図 (秋元家旧蔵)	近世	江戸	館林	館林市	
7	未指定	古文書	利根川加用水議定書	近世	江戸	館林	館林市	天保11年(1840)
8	未指定	古文書	野辺村野銭林開発願書	近世	江戸	館林	館林市	
9	未指定	古文書	「榑原康政書状」ほか榑原家 関係資料	近世	江戸	館林	館林市	
10	未指定	古文書	松平乗寿奉書ほか大給松平家 関係資料	近世	江戸	館林	館林市	
11	未指定	古文書	「松平家備立図」ほか越智 松平家関係資料	近世	江戸	館林	館林市	
12	未指定	古文書	「諸心得留」ほか井上家関係 資料	近世	江戸	館林	館林市	
13	未指定	古文書	「奏者番手控」ほか「秋元文庫」 資料	近世～ 現代	江戸～ 昭和	館林	館林市	

卷末資料

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
14	未指定	古文書	館林藩史料	近世	江戸	館林	館林市	
15	未指定	古文書	青梅天満宮文書	近世	江戸	館林	青梅天満宮	
16	未指定	古文書	尾曳稲荷神社文書	近世	江戸	館林	尾曳稲荷神社	
17	未指定	古文書	外池家文書	近世	江戸	館林	個人	鍛冶町の商家・和泉屋
18	未指定	古文書	長良神社文書	近世	江戸	館林	長良神社	
19	未指定	古文書	正田家文書	近世	江戸	館林	正田醤油(株)	正田記念館
20	未指定	古文書	山田(孝)家文書	近世	江戸	館林	個人	秋元家家臣
21	未指定	古文書	寺島家文書	近世	江戸	館林	個人	秋元家家臣
22	未指定	古文書	青山家文書	近世	江戸	館林	個人	町の検断職
23	未指定	古文書	阿久津家文書	近世	江戸	館林	個人	
24	未指定	古文書	戸部家文書	近世	江戸	館林	個人	秋元家家臣
25	未指定	古文書	市立図書館・岩尾家文書	近世	江戸	館林	館林市	秋元家家臣
26	未指定	古文書	市立図書館・増田家文書	近世	江戸	館林	館林市	
27	未指定	古文書	市立図書館・上早川田関係文書	近世	江戸	館林	館林市	秋元家家臣
28	未指定	古文書	市立図書館・旧館林町行政文書	近世	江戸	館林	館林市	秋元家関係
29	未指定	古文書	市立図書館・城下町関係文書	近世	江戸	館林	館林市	青山家・小林家・増田家
30	未指定	古文書	市立図書館・福井家文書	近世	江戸	館林	館林市	
31	未指定	古文書	寒香園文庫	近世～ 現代	江戸～ 昭和	館林	館林市	
32	未指定	古文書	資料館・野辺村関係文書	近世	江戸	館林	館林市	
33	未指定	古文書	資料館・新当郷村関係文書	近世	江戸	館林	館林市	千塚村役人・浜野家関係
34	未指定	古文書	資料館・岩田家文書	近世	江戸	館林	館林市	秋元家家臣
35	未指定	古文書	資料館・南條家文書	近世	江戸	館林	館林市	秋元家家臣
36	未指定	古文書	資料館・進藤家文書	近世	江戸	館林	館林市	秋元家家臣
37	未指定	古文書	資料館・長田家文書	近世	江戸	館林	館林市	秋元家家臣
38	未指定	古文書	資料館・山田家文書	近世	江戸	館林	館林市	秋元家家臣
39	未指定	古文書	資料館・大出家文書	近世	江戸	館林	館林市	鉅毒事件
40	未指定	古文書	句集「桃天集」(藪鶯編)	近代	江戸～ 明治	館林	館林市	
41	未指定	古文書	資料館・高根稲荷神社文書	近世	江戸	多々良	館林市	
42	未指定	古文書	応声寺文書	近世	江戸	館林	応声寺	
43	未指定	古文書	毛塚記念館文書	近世	江戸	館林	毛塚記念館	酒造
44	未指定	古文書	安楽岡家文書	近世	江戸	館林	個人	秋元家家臣
45	未指定	古文書	小室家文書	近世	江戸	館林	個人	谷超町商人
46	未指定	古文書	桜井家文書	近世	江戸	館林	個人	
47	未指定	古文書	原(孫)家資料	近世	江戸	多々良	個人	村役人
48	未指定	古文書	福田家文書	近世	江戸	多々良	個人	村役人
49	未指定	古文書	堀越家文書	近世	江戸	多々良	個人	鉅毒事件関係
50	未指定	古文書	飯塚家文書	近世	江戸	大島	個人	北大島の村役人
51	未指定	古文書	磯家文書	近代	明治	大島	個人	
52	未指定	古文書	山本家文書	近代	明治	大島	館林市	
53	未指定	古文書	大島神社文書	近世	明治	大島	大島神社	
54	未指定	古文書	荒川家文書	近代	明治	三野谷	個人	村役人、鉅毒
55	未指定	古文書	荻原家文書	近世	江戸	三野谷	個人	
56	未指定	古文書	金子家文書	近世	江戸	三野谷	個人	村役人
57	未指定	古文書	善導寺文書	近世	江戸	館林(赤羽)	善導寺	
58	未指定	古文書	茂林寺文書	近世	江戸	六郷	茂林寺	

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
59	未指定	古文書	松本家文書	中世		六郷	個人	
60	未指定	古文書	野本家文書	近代	明治	六郷	個人	青柳戸長役場資料
61	未指定	古文書	遍照寺文書	近世	江戸	六郷	遍照寺	旧新宿村・由緒、文書
62	未指定	古文書	善長寺文書	中世		郷谷	善長寺	源姓赤井氏系図
63	未指定	古文書	寺内家文書	近代	明治	郷谷	個人	城沼漁業
64	未指定	古文書	小倉家文書	近世	江戸	郷谷	個人	田谷の村役人
65	未指定	古文書	小曾根家文書	近世	江戸	郷谷	個人	千塚の村役人
66	未指定	古文書	坂村家文書	近世	江戸	郷谷	個人	村役人
67	未指定	古文書	鵜崎家文書	近代	明治	渡瀬	個人	養蚕
68	未指定	古文書	原(賢)家文書	近代	明治	渡瀬	個人	下早川田の船問屋
69	未指定	古文書	雲龍寺文書	近代	明治	渡瀬	雲龍寺	鉾毒
70	未指定	古文書	木村(伊)家文書	近代	明治	渡瀬	個人	鉾毒
71	未指定	古文書	浅沼家文書	近代	明治		個人	浅沼富次日記
72	未指定	古文書	相田家文書	近世	明治		個人	
73	未指定	古文書	製粉ミュージアム所蔵文書	近代	明治	館林	日清製粉	
74	未指定	古文書	館林ガス所蔵文書	近世	江戸	館林	館林ガス	
75	未指定	古文書	前澤家文書(山口重脩関係)	近代	明治	館林	個人	山口重脩関係
76	未指定	古文書	牧野家文書(市史に寄託)鍛冶職人	近世	江戸	館林	市史保管	鍛冶職人
77	未指定	古文書	松本家文書(市史・糸問屋「中屋」)	近世	江戸	館林	個人	問屋中屋
78	未指定	古文書	飯野家文書	近代	明治	館林	個人	並木町・役人
79	未指定	古文書	大越家文書	近代	明治	館林	個人	並木町の商家・麦落雁
80	未指定	古文書	大塚家文書	近代	明治	館林	個人	鉾毒・田谷の村役人
81	未指定	古文書	大島家文書	近世	江戸	館林	個人	連雀町の商家・美濃屋
82	未指定	古文書	三田家文書	近世	江戸	館林	個人	郡役所旧蔵文書
83	未指定	古文書	福寿家文書	近世	江戸	館林	個人	肴町の福寿院の住職
84	未指定	古文書	小林(平)家文書	近世	江戸	館林	個人	
85	未指定	古文書	小林(寿)家文書	近世	江戸	館林	個人	
86	未指定	古文書	瀬山家文書	近世	江戸	館林	個人	松原村の役人
87	未指定	古文書	村山家文書	近世～近代	江戸～明治	館林	個人	秋元家家臣
88	未指定	古文書	旧大島村行政文書・大島地区行政文書	近代	明治			
89	未指定	古文書	旧三野谷村行政文書	近代	明治			
90	未指定	古文書	旧渡瀬村行政文書	近代	明治		市史編さんセンター	
91	未指定	古文書	田部井(英)家文書	近代	明治	赤羽	個人	村役人
92	未指定	古文書	永明寺文書	近代	明治	赤羽	永明寺	
93	未指定	古文書	子神社文書	近代	明治	赤羽	子神社	
94	未指定	古文書	普濟寺文書	近代	明治	赤羽	普濟寺	
95	未指定	古文書	山田(恵)家文書	近世	江戸	赤羽	個人	赤生田村役人
96	未指定	古文書	山田(作)家文書	近世	江戸	赤羽	個人	赤生田村役人
97	未指定	古文書	早川家文書	近世	江戸	赤羽	個人	
98	未指定	古文書	小林家文書	近世	江戸	赤羽	個人	羽附の村役人
99	未指定	古文書	田部井(哲)家文書	近代	明治	赤羽	個人	
100	未指定	古文書	羽附ささら保存会文書	近代	明治	赤羽	羽附ささら保存会	
101	未指定	古文書	飯島家文書	近代	明治	多々良	個人	
102	未指定	古文書	常楽寺文書	近世	江戸	多々良	常楽寺	
103	未指定	古文書	井野口家文書	近代	明治	多々良	個人	成島の村役人

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
104	未指定	古文書	津布工家文書	近代	明治	多々良	個人	
105	未指定	古文書	熊倉家文書	近代	明治	多々良	個人	大谷休泊の子孫
106	未指定	古文書	寺田家文書	近代	明治	多々良	個人	成島の村役人
107	未指定	古文書	原(代)家文書	近代	明治	多々良	個人	多々良沼漁協組合長
108	未指定	古文書	「榑原康政禁制」ほか茂林寺所蔵文書	中世～近世	—	六郷	茂林寺	
109	未指定	古文書	足尾鉍毒事件関係資料(雲龍寺資料)	近代	大正	渡瀬	雲龍寺	大正2年(1913)

【美術工芸品（考古資料）】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	考古資料	松平家家臣が尾曳稲荷神社に奉納した水鉢	近世	江戸	館林	館林市	
2	未指定	考古資料	資料館・飯塚多右衛門コレクション	近世	江戸	館林	館林市第一資料館	秋元家家臣
3	未指定	考古資料	徳川綱吉時代城主時代の灯籠・水鉢(尾曳稲荷神社)	近世	江戸	館林	尾曳稲荷神社	
4	未指定	考古資料	藤牧義夫版画碑	現代	昭和	館林	館林市	昭和53年(1978)
5	未指定	考古資料	山田烏丸二君碑	近代	明治	六郷	館林市	明治33年(1900)
6	未指定	考古資料	城沼墾田碑	近代	明治	館林	館林市	明治36年(1903)
7	未指定	考古資料	水害記念碑	近代	明治	渡瀬	館林土木事務所	明治44年(1911)
8	未指定	考古資料	修堤碑	近代	明治	渡瀬	—	明治44年(1911)
9	未指定	考古資料	千拓記念碑(多々良沼)	現代	昭和	多々良	—	昭和31年(1956)
10	未指定	考古資料	大谷休泊紀功之碑	近代	明治	赤羽	群馬県	明治17年(1884)
11	未指定	考古資料	大谷原開墾碑	近代	昭和	多々良	大谷休泊遺徳顕彰会	昭和8年(1933)
12	未指定	考古資料	躑躅岡公園碑	近代	明治	赤羽	群馬県	
13	未指定	考古資料	織物組合記念碑・織姫神社石鳥居記念碑	近代	昭和5	館林	長良神社	昭和5年(1930)
14	未指定	考古資料	富貴座十五周年記念碑	近代	—	館林	館林市	
15	未指定	考古資料	柳溪画家寄附記念樹の碑(岸浪柳溪)	近代	—	赤羽	群馬県	
16	未指定	考古資料	魚魂供養(供養祭、供養碑)	現代	昭和	郷谷	善長寺	
17	未指定	考古資料	坂本風流句碑	近代	明治	六郷	山神社(近藤町)	明治19年(1886)
18	未指定	考古資料	閑窓句碑	近代	明治	館林	常光寺	明治19年(1886)
19	未指定	考古資料	花山句碑(荒井閑窓句碑)	近代	明治	赤羽	群馬県	明治45年(1912)
20	未指定	考古資料	芭蕉句碑 富士原町富士嶽神社内	近世	江戸	六郷	富士嶽神社(富士原町)	安政5年(1858)
21	未指定	考古資料	芭蕉句碑 つつじが岡公園内	近代	明治	赤羽	群馬県	明治38年(1905)
22	未指定	考古資料	芭蕉句碑 善長寺境内	近世	江戸	郷谷	善長寺	
23	未指定	考古資料	田山花袋歌碑 尾曳稲荷神社境内	現代	昭和	館林	尾曳稲荷神社	昭和22年(1947)

【美術工芸品（歴史資料）】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	歴史資料	館林市中絵入案内双六	近代	明治	館林	館林市	
2	未指定	歴史資料	第四十国立銀行資料	近代	明治	館林	館林市	
3	未指定	歴史資料	福田啓作日誌	近代	明治～昭和	館林	館林市	
4	未指定	歴史資料	館林城千貫橋の擬宝珠胴体	近世	江戸	館林	館林市	
5	未指定	歴史資料	旧館林藩士宅に伝来した甲冑や武具類	近世	江戸	館林	館林市	
6	未指定	歴史資料	北大島村水書絵図	近代	江戸	館林	館林市	
7	未指定	歴史資料	明治43年洪水絵はがき	近代	明治	館林	館林市	
8	未指定	歴史資料	五郡用水鑑	近世	江戸	館林	館林市	
9	未指定	歴史資料	館林領五郡農家水配鑑	近世	江戸	館林	館林市	
10	未指定	歴史資料	館林城絵図ほか館林城関係資料	近世	江戸	館林	館林市	

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
11	未指定	歴史資料	無之字槍ほか秋元家コレクション資料	近世	江戸	館林	館林市	
12	未指定	歴史資料	教育史収集資料	近代	明治			
13	未指定	歴史資料	徳川綱吉筆「芦鶯之図」	近世	江戸	館林	愛宕神社 (長良神社)	
14	未指定	歴史資料	「商人仲間所用留」ほか 正田家記念館所蔵資料	近世～ 現代	江戸～ 昭和	館林	正田醤油(株)	
15	未指定	書籍・典籍	田山花袋記念文学館所蔵 田山花袋関係資料	近現代	明治～ 平成	館林	館林市	

【民俗文化財 有形の民俗文化財】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	有形の 民俗文化財	漁撈具(手網、ウケ、ゴキウケ、 ハズアミ等)	近代～ 現代	—	多々良	館林市	
2	未指定	有形の 民俗文化財	揚げ舟	近代～ 現代	—	多々良	館林市	
3	未指定	有形の 民俗文化財	稲作農具(田舟、ヒキドイ等)	近代～ 現代	—	多々良	館林市	
4	未指定	有形の 民俗文化財	麦作農具 (フリボウ、麦路ローラー等)	近代～ 現代	—	多々良	館林市	
5	未指定	有形の 民俗文化財	製粉道具	近代～ 現代	—	館林	兩日清製粉 グループ本社	
6	未指定	有形の 民俗文化財	機織り具	近代～ 現代	—	館林	館林市	
7	未指定	有形の 民俗文化財	養蚕用具	近代～ 現代	—	多々良	館林市	
8	未指定	有形の 民俗文化財	鷹番札	近世	江戸	館林	館林市	
9	未指定	有形の 民俗文化財	醤油造りの道具	近世	江戸	館林	個人	
10	未指定	有形の 民俗文化財	醤油造りの道具	近世	江戸	館林	正田醤油(株)	
11	未指定	有形の 民俗文化財	養蚕農家	近代	—	大島	個人	
12	未指定	有形の 民俗文化財	養蚕農家	近代	—	渡瀬	個人	
13	未指定	有形の 民俗文化財	屋敷林のある農家	近代	—	多々良	個人	
14	未指定	有形の 民俗文化財	茅葺屋根の農家	近代	—	多々良	個人	
15	未指定	有形の 民俗文化財	長屋門のある農家	近代	—	三野谷	個人	
16	未指定	有形の 民俗文化財	大島1号水塚 正儀内	近代	大正	大島	個人	大正初期か
17	未指定	有形の 民俗文化財	大島2号水塚 正儀内	近代	昭和	大島	個人	
18	未指定	有形の 民俗文化財	大島3号水塚 寄居	近代	—	大島	個人	
19	未指定	有形の 民俗文化財	大島4号水塚 寄居	近代	明治	大島	個人	
20	未指定	有形の 民俗文化財	大島5号水塚(揚げ舟) 山王	近世	江戸	大島	個人	江戸後期か
21	未指定	有形の 民俗文化財	大島6号水塚(揚げ舟) 山王	近代	大正	大島	個人	
22	未指定	有形の 民俗文化財	大島7号水塚 上新田	近代	大正	大島	個人	
23	未指定	有形の 民俗文化財	大島8号水塚 上新田	近代	明治	大島	個人	
24	未指定	有形の 民俗文化財	大島9号水塚 上新田	近代	—	大島	個人	
25	未指定	有形の 民俗文化財	大島10号水塚(揚げ舟) 上新田	現代	昭和	大島	個人	昭和3年(1928)建築
26	未指定	有形の 民俗文化財	大島11号水塚 岡里	近代	大正	大島	個人	
27	未指定	有形の 民俗文化財	大島12号水塚(揚げ舟) 岡里	近代	—	大島	個人	
28	未指定	有形の 民俗文化財	大島13号水塚(揚げ舟) 岡里	近代	—	大島	個人	
29	未指定	有形の 民俗文化財	大島14号水塚(揚げ舟) 岡里	近代	—	大島	個人	
30	未指定	有形の 民俗文化財	大島15号水塚(揚げ舟) 岡里	近代	明治	大島	個人	
31	未指定	有形の 民俗文化財	大島16号水塚(揚げ舟) 観音	近代	明治	大島	個人	明治33年(1900)建築
32	未指定	有形の 民俗文化財	大島17号水塚(揚げ舟) 観音	近代	明治	大島	個人	明治34年(1901)建築
33	未指定	有形の 民俗文化財	大島18号水塚 観音	近代	明治	大島	個人	
34	未指定	有形の 民俗文化財	赤羽1号水塚	近代	明治	赤羽	個人	
35	未指定	有形の 民俗文化財	六郷1号水塚	近代	—	六郷	個人	
36	未指定	有形の 民俗文化財	三野谷1号水塚	近代	—	三野谷	個人	
37	未指定	有形の 民俗文化財	三野谷2号水塚(揚げ舟)	近代	明治	三野谷	個人	明治14年(1881)建築

巻末資料

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
38	未指定	有形の民俗文化財	道標「竹生島神社道」	近代	明治	館林	本町三丁目	明治12年(1879) 竹生島神社入口
39	未指定	有形の民俗文化財	道標「尾曳神社道」	近代	明治	館林	尾曳稲荷神社	明治44年(1911) 尾曳稲荷神社入口
40	未指定	有形の民俗文化財	道標「館林町道路元標」	近代	大正	館林	館林市	大正14年(1925) 本町二丁目大辻
41	未指定	有形の民俗文化財	道標「馬頭観世音」 (右 さの とちき)	近世	江戸	郷谷	坂下町	天保4年(1833) 日光脇往還
42	未指定	有形の民俗文化財	道標「上早川田らいでん道」	近世	江戸	郷谷	坂下町	天保6年(1835) 日光脇往還
43	未指定	有形の民俗文化財	道標「湯殿山西国供養」 (北 さの いわふね)	近世	江戸	郷谷	四ツ谷町	文政12年(1829) 稲荷神社前
44	未指定	有形の民俗文化財	道標「庚申 南たてはやし」	近世	江戸	大島	大島町 (山王)	寛政6年(1794) 日隈地藏前
45	未指定	有形の民俗文化財	道標「観音 浜野伊右エ門 館林 山口伊 右エ門 立」	近世	江戸	大島	大島町 (観音)	天保7年(1836) 観音堂境内
46	未指定	有形の民俗文化財	道標「北大嶋村字正義内願主志」	近世	江戸	大島	大島町 (正義内)	嘉永7年(1854)
47	未指定	有形の民俗文化財	道標「御成婚記念 大正十三年一月二十 六日 大島村軍人会」	近代	大正	大島	大島町 (正義内)	大正13年(1924)
48	未指定	有形の民俗文化財	道標「御成婚記念 大正十三年一月二十 六日 大島村軍人会」	近代	大正	大島	大島町 (岡里)	大正13年(1924)
49	未指定	有形の民俗文化財	道標「西 たてばやし」	近世	江戸	大島	大島町 (岡里)	岡里区民会館前
50	未指定	有形の民俗文化財	道標「西国坂東秩父百番巡礼供養塔」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (下新田)	明和3年(1766)
51	未指定	有形の民俗文化財	道標「庚申供養塔」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (長竹)	明和5年(1768)
52	未指定	有形の民俗文化財	道標「庚申 右せんすいへ廿三丁」	近世	江戸	赤羽	赤生田本町 (大林)	寛政12年(1800)
53	未指定	有形の民俗文化財	道標「月山 湯殿山 羽黒山」	近世	江戸	赤羽	楠町他宗場 不動堂	文政6年(1823) 他宗場不動堂境内
54	未指定	有形の民俗文化財	道標「湯殿山納経供養」	近世	江戸	赤羽	楠町他宗場 不動堂	文政12年(1829) 他宗場不動堂境内
55	未指定	有形の民俗文化財	道標「十九夜供養塔」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (長竹)	天保12年(1841) 羽附旭町長竹集会所前
56	未指定	有形の民俗文化財	道標「山田幸八 人碑 七十一歳賀祝」	近世	江戸	赤羽	赤生田町 (山田)	嘉永5年(1852)
57	未指定	有形の民俗文化財	道標「道祖神 右こか」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (淵ノ上)	安政6年(1859)
58	未指定	有形の民俗文化財	道標「庚申塔 春二月吉之日 南いの一 り」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (長竹)	安政7年(1860)
59	未指定	有形の民俗文化財	道標「庚申 霞翁」	近世	江戸	赤羽	永明寺	万延元年(1860) 永明寺観音堂境内
60	未指定	有形の民俗文化財	道標「南千津井ヲ経テ加須ニ至ル」	近代	大正	赤羽	赤生田本町 (中新田)	大正14年(1925)
61	未指定	有形の民俗文化財	道標「南千津井ヲ経テ加須」	近代	大正	赤羽	赤生田本町 (十二社)	大正14年(1925) 十二社集会所前
62	未指定	有形の民俗文化財	道標「たてばやし一り」	近世	江戸	赤羽	宝秀寺	宝秀寺境内
63	未指定	有形の民俗文化財	道標「奉納御宝前」	近世	江戸	六郷	茂林寺	享保9年(1724) 茂林寺境内
64	未指定	有形の民俗文化財	道標「奉建立地藏尊」	近世	江戸	六郷	松原一丁目	享保20年(1735)
65	未指定	有形の民俗文化財	道標「南無観世音菩薩」	近世	江戸	六郷	松原一丁目	元文元年(1736)
66	未指定	有形の民俗文化財	道標「庚申」	近世	江戸	六郷	富士嶽神社 (富士原町)	寛政12年(1800) 富士原神社境内
67	未指定	有形の民俗文化財	道標「四国六十四番 松林寺」	近世	江戸	六郷	松原二丁目	文政8年(1825) 松原会館
68	未指定	有形の民俗文化財	道標「富士浅間入口道」	近世	江戸	六郷	富士嶽神社 (富士原町)	天保7年(1836)
69	未指定	有形の民俗文化財	道標「馬頭観世音」	近世	江戸	六郷	堀工町 (中山東)	文久元年(1861)
70	未指定	有形の民俗文化財	道標「道祖神 当所 五月 瀬山」	近世	江戸	六郷	松原一丁目	
71	未指定	有形の民俗文化財	道標「右 急ろせんつい 左いたくらこ 加道」	近世	江戸	六郷	松原二丁目	
72	未指定	有形の民俗文化財	道標「馬頭観世音」	近世	江戸	三野谷	個人	天保11年(1840) 松林堂入口
73	未指定	有形の民俗文化財	道標「馬頭観世音 上三林村」	近世	江戸	三野谷	上三林町	嘉永7年(1854) 十九夜堂前
74	未指定	有形の民俗文化財	道標「馬頭観世音」	近世	江戸	三野谷	上三林町	安政5年(1858) 雷光寺境内
75	未指定	有形の民俗文化財	道標「雷電神社入口」	現代	昭和	三野谷	上三林町	昭和7年(1932) 雷電神社入口
76	未指定	有形の民俗文化財	道標「右 こいつみ おしま 左 あかいわ ふつと 道」	近世	江戸	多々良	館林市	寛延元年(1748) 旧大谷町三叉路
77	未指定	有形の民俗文化財	道標「右 足利 左 太田小泉 道」	近世	江戸	多々良	日向町	安永6年(1777) 日向義民地藏前
78	未指定	有形の民俗文化財	道標「奉読誦 念仏二億五百万遍」	近世	江戸	多々良	日向町	安永8年(1779) 大日尊集会所
79	未指定	有形の民俗文化財	道標「馬頭観世音 右 足利 左 太田 道」	近世	江戸	多々良	日向町	天保6年(1835) 大日尊集会所
80	未指定	有形の民俗文化財	道標「馬頭観世音」	近世	江戸	多々良	日向町	天保12年(1841) 大日尊集会所
81	未指定	有形の民俗文化財	道標「供養 寛政三年亥九月吉日」	近世	江戸	多々良	木戸町	寛政3年(1791)
82	未指定	有形の民俗文化財	道標「念仏供養 寛政十戌午九月吉日」	近世	江戸	多々良	木戸町	寛政10年(1798)

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考
83	未指定	有形の民俗文化財	道標「おおた こいづみ」	近世	江戸	多々良 木戸町	天保13年(1842)
84	未指定	有形の民俗文化財	道標「多々良村道路元標」	近代	江戸	多々良 館林市	大正14年(1925)第八小学校前
85	未指定	有形の民俗文化財	道標「庚申」	近世	江戸	多々良 成島町	文化6年(1809)
86	未指定	有形の民俗文化財	道標「従是富士浅口」	近世	江戸	多々良 赤土町	天保11年(1840)赤土町会館
87	未指定	有形の民俗文化財	道標「猿田彦尊 鈿女尊」	近世	江戸	渡瀬 岡野町	文化元年(1804)
88	未指定	有形の民俗文化財	道標「らみでん宮入口道」	近世	江戸	渡瀬 下早川田町	天保7年(1836)神明宮入口
89	未指定	有形の民俗文化財	道標「馬頭観世音 妙口玄明謹書」	近世	江戸	渡瀬 大新田町	慶応2年(1866)稲荷神社境内

【無形の民俗文化財】

No.	指定者	区分	名称	実施日	地区	継承者	備考
1	未指定	無形の民俗文化財	木戸のささら	7月第四日曜日	多々良	木戸町獅子舞保存会	
2	未指定	無形の民俗文化財	羽附ささら	旧暦3月3日・6月15日に近い日曜日	赤羽	羽附ささら保存会	
3	未指定	無形の民俗文化財	八木節	各地区の祭りなど	—	館林市八木節連合会など	
4	未指定	無形の民俗文化財	足次太々神楽	—	渡瀬	足次神楽保存会	現在休止中
5	未指定	無形の民俗文化財	館林音頭	—	—	—	
6	未指定	無形の民俗文化財	つつじ音頭	—	館林	—	消失
7	未指定	無形の民俗文化財	館林小唄	—	館林	—	消失
8	未指定	無形の民俗文化財	芸妓舞踊(分福茶釜)	—	館林	—	消失
9	未指定	無形の民俗文化財	初市	1月18日	館林	館林市商工会議所	近世以前に由来か、六斎市が起源
10	未指定	無形の民俗文化財	たてばやし七夕まつり	8月7日	館林	館林市商工会議所	田山花袋の作品に記述あり
11	未指定	無形の民俗文化財	館林まつり	7月第三日曜日とその前日	館林	館林市商工会議所	昭和47年(1972)、当初は秋祭り
12	未指定	無形の民俗文化財	獅子の土用干し	8月1日に近い日曜日	渡瀬	赤城神社(足次町)	
13	未指定	無形の民俗文化財	駒方神社の弓取式	1月25日(例大祭)	赤羽	駒方神社	
14	未指定	無形の民俗文化財	子ノ権現神社の大祭	3月15日(大祭)	赤羽	子ノ権現神社	子ノ権現神社は中世以前創建か
15	未指定	無形の民俗文化財	雷電神社の雷・嵐除け	5月1日(例大祭)	赤羽	羽附旭町(白旗)	
17	未指定	無形の民俗文化財	富士嶽神社(花山町)の初山大祭	5月1日(例大祭)4月30日(宵宮)	赤羽	富士嶽神社(花山町)	富士嶽神社(花山町)は永徳2年(1382)創建
18	未指定	無形の民俗文化財	八坂祭・天王祭	7月第四日曜日など	—	市内各地区	
19	未指定	無形の民俗文化財	大島神社の夏越祭り	7月	—	大島神社	
20	未指定	無形の民俗文化財	長良神社(赤生田本町)の夏越祭り	7月	赤羽	長良神社(赤生田本町)	長良神社(赤生田本町)は近世中期以前創建か
21	未指定	無形の民俗文化財	長良神社(代官町)の節分祭	2月3日	館林	長良神社(代官町)	長良神社(代官町)は室町期に創建
22	未指定	無形の民俗文化財	長良神社(代官町)の恵比寿講	旧暦10月19・20日	館林	長良神社(代官町)	長良神社(代官町)は室町期に創建
23	未指定	無形の民俗文化財	長良神社(代官町)の銀杏祈願祭	12月下旬	館林	長良神社(代官町)	長良神社(代官町)は室町期に創建
24	未指定	無形の民俗文化財	常楽寺の六算除け	1月4日	多々良	常楽寺	常楽寺は鎌倉期に開基
25	未指定	無形の民俗文化財	深諦寺の日限地藏の供養祭	1・8月の16日	多々良	応声寺	深諦寺は室町期に開基
26	未指定	無形の民俗文化財	善長寺の子育十一面観音の縁日	正月17日	郷谷	善長寺	善長寺は大永3年(1523)開基
27	未指定	無形の民俗文化財	茂林寺の守鶴尊大祭(分福茶釜)	春と秋	六郷	茂林寺	昭和17年(1942)まで実施
28	未指定	無形の民俗文化財	大般若経	5月1日(羽附旭町)など	—	市内各地区	
29	未指定	無形の民俗文化財	法高寺の御命講	旧暦10月13日	館林	法高寺	法高寺は弘安4年(1281)開基
30	未指定	無形の民俗文化財	法高寺の焙烙灸の呪い	7月の土用の丑の日	館林	法高寺	法高寺は弘安4年(1281)開基
31	未指定	無形の民俗文化財	水神信仰	—	—	—	
32	未指定	無形の民俗文化財	トオカンヤ	旧暦10月10日	—	—	
33	未指定	無形の民俗文化財	麦打唄	—	—	—	
34	未指定	無形の民俗文化財	麦念仏	—	—	—	
35	未指定	無形の民俗文化財	庚申講	旧暦10月14日～冬至までの都合の良い日(大島町)など	—	—	
36	未指定	無形の民俗文化財	十九夜講	旧暦19日の夜	—	—	

No.	指定者	区分	名称	実施日	地区	継承者	備考
37	未指定	無形の民俗文化財	念仏講	月に1回など	—	—	
38	未指定	無形の民俗文化財	大山阿夫利神社の石尊様	7月から8月の間	—	—	
39	未指定	無形の民俗文化財	御嶽講	2月13日(日向旧正月の目待)など	—	—	
40	未指定	無形の民俗文化財	伊勢講		—	—	
41	未指定	無形の民俗文化財	富士講	毎月	—	—	
42	未指定	無形の民俗文化財	三峰講	三峰神社大祭(4月19日)のあと	—	—	
43	未指定	無形の民俗文化財	古峰ヶ原講	4月下旬の代参後	—	—	
44	未指定	無形の民俗文化財	雷電講	1月4日(郷谷地区)など	—	—	
45	未指定	無形の民俗文化財	どんど焼き	1月15日に近い日曜日(堀工町)など	—	市内各地区	
46	未指定	無形の民俗文化財	初午	2月最初の午の日	—	—	
47	未指定	無形の民俗文化財	十五夜・十三夜	旧暦8月15日・旧暦9月13日	—	—	
48	未指定	無形の民俗文化財	地藏盆	8月23日(上赤生田町・四ツ谷町)など	—	—	

【記念物（遺跡）】

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考
1	未指定	遺跡	六月免遺跡	古墳・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
2	未指定	遺跡	下遺跡	古墳	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
3	未指定	遺跡	日向古墳群	古墳	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
4	未指定	遺跡	木戸城跡	中世	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
5	未指定	遺跡	日向新田遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
6	未指定	遺跡	多々良沼遺跡	中世	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
7	未指定	遺跡	小蓋林遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
8	未指定	遺跡	山神臨遺跡	旧石器	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
9	未指定	遺跡	梅木山遺跡	縄文・古墳・近世	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
10	未指定	遺跡	高根古墳群	古墳	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
11	未指定	遺跡	高根・外和田遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
12	未指定	遺跡	高根城跡	中世	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
13	未指定	遺跡	大道北遺跡	古墳・奈良・平安・中世・近世	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
14	未指定	遺跡	新倉前遺跡	古墳・奈良・平安	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
15	未指定	遺跡	高根稻荷大明神古墳	古墳	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
16	未指定	遺跡	岡野・屋敷前・岡遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
17	未指定	遺跡	蛇屋敷跡	中世	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
18	未指定	遺跡	磯ヶ原城跡	中世	大島	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
19	未指定	遺跡	北大島館跡	中世	大島	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
20	未指定	遺跡	八方遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
21	未指定	遺跡	大島下悪途1遺跡	古墳・奈良・平安	大島	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
22	未指定	遺跡	大島下悪途2遺跡	古墳・奈良・平安	大島	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
23	未指定	遺跡	上絹屋遺跡	縄文	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
24	未指定	遺跡	牛島遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
25	未指定	遺跡	諏訪北遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
26	未指定	遺跡	妙円寺1遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
27	未指定	遺跡	妙円寺2遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
28	未指定	遺跡	ニッ塚遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
29	未指定	遺跡	天神遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
30	未指定	遺跡	栄町遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考
31	未指定	遺跡	大街道遺跡	縄文・平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
32	未指定	遺跡	愛宕神社古墳	古墳	館林	愛宕神社	埋蔵文化財包蔵地
33	未指定	遺跡	館林城跡・城下町	縄文・古墳・中世・近世	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
34	未指定	遺跡	朝日町遺跡	縄文	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
35	未指定	遺跡	広内町1遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
36	未指定	遺跡	広内町2遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
37	未指定	遺跡	若宮遺跡	平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
38	未指定	遺跡	城町遺跡	奈良・平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
39	未指定	遺跡	加法師遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
40	未指定	遺跡	尾曳町1遺跡	古墳・平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
41	未指定	遺跡	善長寺付近遺跡 (山王山古墳)	古墳	郷谷	善長寺	埋蔵文化財包蔵地
42	未指定	遺跡	当郷本郷遺跡	平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
43	未指定	遺跡	当郷新田古墳	古墳	郷谷	個人	埋蔵文化財包蔵地
44	未指定	遺跡	当郷新田遺跡	平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
45	未指定	遺跡	道祖神遺跡	古墳・平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
46	未指定	遺跡	四ッ谷袖屋遺跡	古墳・平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
47	未指定	遺跡	村前遺跡	古墳・平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
48	未指定	遺跡	水溜第一地点遺跡	旧石器	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
49	未指定	遺跡	水溜第二地点遺跡	旧石器	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
50	未指定	遺跡	二本松遺跡	縄文・古墳・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
51	未指定	遺跡	近藤障子遺跡	縄文・古墳	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
52	未指定	遺跡	伝右工門遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
53	未指定	遺跡	北近藤第一地点遺跡	縄文・古墳・平安・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
54	未指定	遺跡	北小袋遺跡	旧石器・縄文	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
55	未指定	遺跡	小袋遺跡	縄文・古墳・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
56	未指定	遺跡	中島遺跡	縄文・平安・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
57	未指定	遺跡	大塚遺跡	平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
58	未指定	遺跡	清水橋遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
59	未指定	遺跡	富士嶽神社古墳	古墳	六郷	富士嶽神社 (富士原町)	埋蔵文化財包蔵地
60	未指定	遺跡	富士見町遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
61	未指定	遺跡	新宿二丁目遺跡	—	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
62	未指定	遺跡	尾曳町2遺跡	古墳	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
63	未指定	遺跡	屋敷添遺跡	縄文・奈良・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
64	未指定	遺跡	三軒屋遺跡	縄文・古墳	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
65	未指定	遺跡	大袋Ⅱ遺跡	旧石器・縄文	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
66	未指定	遺跡	大袋Ⅰ遺跡	旧石器・縄文・弥生・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
67	未指定	遺跡	花山東遺跡	縄文・古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
68	未指定	遺跡	大袋5遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
69	未指定	遺跡	大袋城跡(大袋城遺跡)	古墳・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
70	未指定	遺跡	青山屋敷跡	中世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
71	未指定	遺跡	大袋3遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
72	未指定	遺跡	富士山古墳	古墳	赤羽	富士嶽神社 (花山町)	埋蔵文化財包蔵地
73	未指定	遺跡	大袋4遺跡	縄文・古墳・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
74	未指定	遺跡	下志柄遺跡	縄文	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
75	未指定	遺跡	下志柄古墳	古墳	赤羽	個人	埋蔵文化財包蔵地

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考
76	未指定	遺跡	町谷1号墳	古墳	赤羽	館林市	埋蔵文化財包蔵地
77	未指定	遺跡	町谷1遺跡	縄文・古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
78	未指定	遺跡	町谷2遺跡	古墳・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
79	未指定	遺跡	町谷2号墳	古墳	赤羽	個人	埋蔵文化財包蔵地
80	未指定	遺跡	町谷3遺跡	平安	赤羽	個人	埋蔵文化財包蔵地
81	未指定	遺跡	白旗城跡	中世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
82	未指定	遺跡	長竹遺跡	—	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
83	未指定	遺跡	当郷遺跡	古墳・奈良・平安・中世・近世	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
84	未指定	遺跡	陣谷遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
85	未指定	遺跡	羽附陣屋跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
86	未指定	遺跡	小林遺跡	弥生・古墳・中世・近世	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
87	未指定	遺跡	新田西遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
88	未指定	遺跡	新田北遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
89	未指定	遺跡	台遺跡	古墳・平安・中世・近世	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
90	未指定	遺跡	上三林古墳	古墳	三野谷	個人	埋蔵文化財包蔵地
91	未指定	遺跡	南近藤遺跡	古墳・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
92	未指定	遺跡	北近藤第二地点遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
93	未指定	遺跡	稲荷前遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
94	未指定	遺跡	苗木西遺跡	奈良・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
95	未指定	遺跡	苗木遺跡	古墳・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
96	未指定	遺跡	青柳中島遺跡	奈良・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
97	未指定	遺跡	近藤陣屋跡	中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
98	未指定	遺跡	萩原遺跡	縄文・平安・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
99	未指定	遺跡	青柳城跡	中世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
100	未指定	遺跡	中堤遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
101	未指定	遺跡	笹原遺跡	旧石器・縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
102	未指定	遺跡	法正谷遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
103	未指定	遺跡	中山東遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
104	未指定	遺跡	前通遺跡	平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
105	未指定	遺跡	下堀工道満遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
106	未指定	遺跡	美園町遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
107	未指定	遺跡	腰巻遺跡	縄文	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
108	未指定	遺跡	咄戸遺跡	縄文	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
109	未指定	遺跡	咄戸沼遺跡	縄文・古墳・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
110	未指定	遺跡	大原道東遺跡	縄文・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
111	未指定	遺跡	南美園町遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
112	未指定	遺跡	神明前遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
113	未指定	遺跡	宮内遺跡	縄文・古墳・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
114	未指定	遺跡	上ノ前遺跡	縄文	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
115	未指定	遺跡	谷向遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
116	未指定	遺跡	間堀1遺跡	縄文・古墳	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
117	未指定	遺跡	間堀2遺跡	縄文・平安・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
118	未指定	遺跡	山東遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
119	未指定	遺跡	大林遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
120	未指定	遺跡	林遺跡	古墳以降	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考
121	未指定	遺跡	侍辺城跡	中世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
122	未指定	遺跡	南古墳	古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
123	未指定	遺跡	南遺跡	縄文・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
124	未指定	遺跡	子ノ神1遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
125	未指定	遺跡	子ノ神古墳	古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
126	未指定	遺跡	子ノ神2遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
127	未指定	遺跡	志柄1遺跡	縄文・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
128	未指定	遺跡	赤生田中島遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
129	未指定	遺跡	志柄2遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
130	未指定	遺跡	道満遺跡	縄文・弥生・古墳・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
131	未指定	遺跡	町谷4遺跡	縄文・古墳以降	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
132	未指定	遺跡	沢ノ上1遺跡	縄文・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
133	未指定	遺跡	沢ノ上古墳	古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
134	未指定	遺跡	下新田遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
135	未指定	遺跡	沢ノ上2遺跡	—	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
136	未指定	遺跡	中新田古墳	古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
137	未指定	遺跡	赤生田町谷遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
138	未指定	遺跡	中新田遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
139	未指定	遺跡	東山遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
140	未指定	遺跡	小曾根遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
141	未指定	遺跡	三林城跡	中世	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
142	未指定	遺跡	菅原神社古墳	古墳	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
143	未指定	遺跡	申子遺跡	弥生・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
144	未指定	遺跡	外加法師遺跡	縄文	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
145	未指定	遺跡	松沼町遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
146	未指定	遺跡	山神裏遺跡	縄文	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
147	未指定	遺跡	三本松遺跡	旧石器	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
148	未指定	遺跡	館林城ゆめひろば (二の丸跡、南郭跡)	近世	江戸	館林	近世館林城
149	未指定	遺跡	稲荷郭	近世	江戸	館林	個人ほか
150	未指定	遺跡	大手門跡	近世	江戸	館林	個人ほか
151	未指定	遺跡	加法師土塁	近世	江戸	郷谷	個人ほか
152	未指定	遺跡	城町土塁	近世	江戸	館林	個人ほか
153	未指定	遺跡	朝日町土塁	近世	江戸	館林	個人ほか
154	未指定	遺跡	総郭の土塁	近世	江戸	館林	個人ほか
155	未指定	遺跡	江戸口門跡	近世	江戸	館林	個人ほか
156	未指定	遺跡	太田口門跡	近世	江戸	館林	個人ほか
157	未指定	遺跡	小泉口門跡	近世	江戸	館林	個人ほか
158	未指定	遺跡	佐野口門跡	近世	江戸	館林	個人ほか
159	未指定	遺跡	加法師口門跡	近世	江戸	郷谷	個人ほか
160	未指定	遺跡	青龍の井戸	近世	江戸	館林	個人
161	未指定	遺跡	竜の井	近世	江戸	館林	館林市
162	未指定	遺跡	松平乗寿の墓	近世	江戸	赤羽	善導寺
163	未指定	遺跡	伝お辻・松女の墓	近世	江戸	郷谷	善長寺
164	未指定	遺跡	田山花袋の姉の墓	近代	明治	館林	常光寺
165	未指定	遺跡	小池藤左衛門の墓	近世	江戸	郷谷	観音堂

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
166	未指定	遺跡	日光脇往還	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
167	未指定	遺跡	太田往還	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
168	未指定	遺跡	小泉道	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
169	未指定	遺跡	古河往還	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
170	未指定	遺跡	藤岡道	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
171	未指定	遺跡	田山花袋生誕の地	近代	明治	館林	個人	

【記念物（動物・植物・地質鉱物）】

No.	指定者	区分	名称	地区	所在地	備考
1	未指定	動物・植物・地質鉱物	川魚	—		
2	未指定	動物・植物・地質鉱物	マコ、葦、荻、ヒシ、蓮根、水辺の植物	—		
3	未指定	動物・植物・地質鉱物	水鳥(カイツブリ、カモ等)	—		
4	未指定	動物・植物・地質鉱物	内陸古砂丘	多々良		

【文化的景観】

No.	指定者	区分	名称	地区	所在地	備考
1	未指定	文化的景観	承水溝	—		
2	未指定	文化的景観	休泊堀			中世期に掘削
3	未指定	文化的景観	四ヶ村用水、十九ヶ村用水、伊谷田用水、利根加用水等	—		
4	未指定	文化的景観	堰番	多々良	木戸町	
5	未指定	文化的景観	陸田	—		

【歴史文化資源】

No.	指定者	区分	名称	地区	所在地	備考	
1	未指定	歴史文化資源	沼辺(城沼、多々良沼、近藤沼、蛇沼)	—	(城町ほか、日向町ほか、近藤町ほか、堀工町ほか)		
2	未指定	歴史文化資源	河川(渡良瀬川、谷田川、矢場川、多々良川、鶴生田川)	—			
3	未指定	歴史文化資源	渡良瀬川旧河道	—			
No.	指定者	区分	名称	地区	実施日	継承者	備考
4	未指定	歴史文化資源	川魚料理(鯉のあらい、鯉こく、なまず天ぷら、ザコの甘露煮など)	—	—	川魚料理店	
5	未指定	歴史文化資源	麦食文化(うどん、冷麦、冷や汁、饅頭、麦落雁など)	—	—	—	
6	未指定	歴史文化資源	スミツカリ(スミツカレ)	—	2月初午	—	
7	未指定	歴史文化資源	日向のドンドラサマ	多々良	—	—	
8	未指定	歴史文化資源	たたら伝説(宝日向)	多々良	—	—	
9	未指定	歴史文化資源	竜神伝説	館林	—	—	
10	未指定	歴史文化資源	築城伝説	館林	—	—	
11	未指定	歴史文化資源	つづじが岡の伝説	館林	—	—	
12	未指定	歴史文化資源	分(文)福茶釜伝説	六郷	—	茂林寺	

巻末資料 2 地域計画で取り組む具体的措置一覧表

区分	分野	方針	★新規 ★継続	具体的措置の名称		関連する文化財	主体者					具体的措置			年次計画					
				[太字:優先度の高い事業]			市	県	国 民 団 体	高 校	住 民	地 域	学 校	内容	前期 報1:11月 報2:2021	中期 報1:11月 報2:2021	後期 報1:11月 報2:2021			
[1] 保存	(A) 調査・研究	①埋蔵文化財遺跡台帳や既往調査履歴更新と地理情報システム(GIS)導入	★	①遺跡台帳のGISシステム化	埋蔵文化財	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		②分野別・エリア別感把握調査の実施	★	②3市町共同「内陸古砂丘」調査	未指定 未登録	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		③動植物・景観・民俗分野の経年変化確認調査の実施	★	③館林城保存のための技術詳細調査	民俗	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		④調査済文化財の台帳の整備・公開	★	④文化財データベースの整備・公開	全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑤地域住民との協働調査の実施	★	⑤地域社会調査ワークショップ事業(年度毎に地区を変えて継続実施)	未指定 未登録	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑥「里沼学」確立のための研究推進と支援	★	⑥「里沼学」研究紀要J「里沼双書」刊行	全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑦産官学連携による調査・研究の実施	★	⑦「里沼市民大学」・「里沼サミット」開催	全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑧大学や民間と連携した歴史的建造物調査の実施	★	⑧「里沼寺沼遺跡」共同調査	成林寺沼 遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑨「項目」地域に由来する調査・研究事業の実施	★	⑨ヨシ活用商品・サービス造成	成林寺沼 遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑩文化財の指定・登録の推進	★	⑩市内歴史的建造物調査の実施	未指定 未登録	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(B) 保存・管理	(B) 保存・管理	①文化財の指定・登録の推進	★	①新指定・登録候補物件リスト作成	未指定 未登録	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		②指定・登録文化財の維持管理の強化	★	②館林城跡の樹木管理・除草強化	館林城跡	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		③現行の市指定文化財制度の見直し	★	③館林市登録文化財制度の検討	未指定 未登録	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		④文化財の所有者・継承者等への支援制度の拡充	★	④文化財継承制度の創設検討	全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑤記録保存データのデジタル化推進	★	⑤文化財保存制度周知強化	全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑥指定・登録文化財の個別保存管理計画の策定	★	⑥文化財のデジタル記録保存	民俗 芸能	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑦地域連携による保存・管理コストの低減	★	⑦個別保存活用計画策定の推進	指定 登録	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑧文化財関連の収蔵スペース確保や収蔵庫設備改修の検討	★	⑧文化財所有者一斉情報システム	指定 登録	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑨市文化防災ガイドラインの策定	★	⑨市文化防災ガイドラインの策定	全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑩地域ぐるみの文化財防犯体制の整備	★	⑩地域主体の文化防犯・レスキュー体制整備	全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
⑪被災文化財避難先リストの作成	★	⑪被災文化財避難先リストの整備	全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
⑫文化防災センターとの連携体制構築	★	⑫文化防災研修への参加	全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		

主体者欄：(文) = 文化振興課、(安) = 安全安心課、(市) = 市民協働課、(商) = 商工課、(建) = 建築課、(生) = 生涯学習課、(科) = 井井千秋記念子ども科学館

区分	分野	方針	★新規 ★継続	具体的措置の名称 〔太子・優先度の高い事業〕	関連する文化財	主体者							内容	年次計画		
						市	県	所有者	関係団体	事業高	住民	地域		学校	前期 令和5年度 (2023-2024)	中期 令和6年度 (2024-2025)
		①地域ストーリー浸透のための普及活動実施	★	①地域ストーリー普及促進事業 (年度毎に地区を変えて継続実施)	全	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		②定期的な文化財シンポジウム・セミナーの開催	★	②文化財シンポジウム・セミナーの開催	全	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		③「文化財ルネサンス」の開催数増加と周知強化	★	③「文化財ルネサンス」の強化	指定登録	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		④文化財施設の運営維持と再整備	★	④施設リニューアルの促進・強化	施設	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑤文化財施設整備・再編複合化の検討	★	⑤資料館・文学館集約複合化検討	施設	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑥文化財施設における魅力ある展示会等の実施	★	⑥資料館・文学館での魅力ある展示会等の開催	施設	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑦市内ミュージアム施設同士の連携体制構築・強化	★	⑦館林ミュージアムネットワーク(TMN)の構築	施設	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑧文化財を見学できる機会の創出	★	⑧市内文化財一斉公開事業の創設	指定登録	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑨公共・民間施設における普及活動の展開	★	⑨「館林市どこでも博物館」の開催	全	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑩文化財の多言語化・ユニバーサル化推進	★	⑩解説サイン・パンフレットの多言語化	全	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑪魅力ある講座や展示解説会の開催	★	⑪魅力ある講座・展示解説会の開催	施設	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑫体験型プログラム創出による魅力伝達	★	⑫「里沼」体験！ワークショップ開催	全	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑬インターネットを使った文化財の情報発信・周知の強化	★	⑬文化財情報発信の強化	全	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑭文化財を活用したロケの積極的な誘致	★	⑭フィルムコミッションと運動した文化財活用	全	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑮学校・公民館等との連携・支援	★	⑮総合学習・出前授業との連携	全	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
		⑯食文化の普及・継承と活用事業の展開	★	⑯「里沼」の食文化魅力発信事業	民俗	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○

[2] 活用

(C) 活用普及

主体者欄：(文) = 文化振興課、(生) = 生涯学習課、(関) = 関係課

区分	分野	方針	具体的措置の名称 [赤字:優先度の高い事業]	関連する文化財	主体者						内容	(年次計画)					
					市	区	所有者	関係団体	事業担当者	住民		地域	学校	前期 報告年度 (2025-2027)	中期 報告年度 (2028-2031)	後期 報告年度 (2032-2034)	
(D) ひろび	文化財マネジメント人材の発掘・育成	①市史編さん事業の継承と活用 ②文化財マネジメント人材の発掘・育成 ③文化財技能保持者の伝承・継承に向けた支援強化 ④民間の文化財保存・活用技術継承と資料確保の支援 ⑤学校教育・生涯学習との連携強化 ⑥地域活動者等と協働した保存・活用の実践	★新規 ★継続 ①市史編さん事業成果の継承・移行	全	●(文)							令和7年度で刊行を終了する市史編さんセンターの成業を継承しつつ、人材やノウハウを活かし、館林市立資料館・田山花袋記念文学館スタッフのスキル向上など、館運営の活性化を図る。	○	○	○		
			★ ②文化財マネジメント人材の強化	—	●(文)								文化財関係職員を文化財保存活用やまちづくり等の研修に積極的に派遣し、文化財マネジメント能力を高める。	○	○	○	
			★ ③文化財技能保持者の伝承・継承の支援	民俗芸能	●(文・関)	●	●	●	●	●	●	●	●	民俗芸能などの無形文化財は少子高齢化により継承が困難な状況が発生していることから、関係団体や公民館・学校等と連携しながら伝統芸能の技術継承や継承者育成を支援していく。	○	○	○
			★ ④民間の文化財保存・活用技術継承と資料確保の支援	指定登録	●(文)	●	●	●	●	●	●	●	●	指定・登録文化財の工事・修繕はコストがかかるものの、文化財の保存・活用に用いられる伝統技術の継承・保存修理に必要な資料の確保を行いながら、民間技術者の確保や支援に努める。	○	○	○
			★ ⑤学校教育・生涯学習との連携強化	民俗芸能	●(文・生)	●	●	●	●	●	●	●	●	三野谷公民館で実施している「上三木のささら」育成事業を好例として、市内で継承が危ぶまれている民俗芸能や年中行事等を次世代に継承し、講座を開催し、後継者不足解消を図る。	○	○	○
			★ ⑥地域活動者等と協働した保存・活用の実践	全	●(文)	●	●	●	●	●	●	●	●	文化財に関わる所有者・関係団体・民間事業者が必要としている支援に関するニーズ調査を行い、パートナーシップを構築しながら将来的な保存・活用へ適切にフィードバックする。	○	○	○
			★ ⑦文化財ボランティア活動者の支援・強化	—	●(文)	●	●	●	●	●	●	●	●	文化財ボランティアの高齢化・活動者減少、活動場所の固定化に対処するため、様々なスキルを持った人々が様々な機会に異い、活動できるサブリーダー制度の導入を進める。	—	○	○
(E) まちづくり	日本遺産「里沼」ランドナビゲーター育成 ①文化財を活かしたまちづくりの展開 ②民間活力獲得や資金調達手法の検討 ③国指定名勝「躑躅ヶ岡」周辺の再整備の推進 ④茂林寺沼南岸用地の利活用の促進 ⑤歴史的建造物の保存整備事業の推進	★ ⑧日本遺産「里沼」ランドナビゲーター育成支援	全	●(文)								館林市「日本遺産」推進協議会と連携しながら、本市の地域ストーリーや構成文化財を解説案内できる人材を育成する。将来的には文化財を起点とした周辺観光マネジメント人材の育成等への発展も見込む。	○	○	○		
		★ ①文化財を活かしたまちづくりの展開	—	●(文・企)									市の総合計画や各分野の個別計画において、地域計画との連動性を図ることで、「里沼文化」の根付く本市の歴史文化を活かしたまちづくりへの展開を図る。	○	○	○	
		★ ②民間活力獲得や資金調達手法の検討	—	●(文・企)	●	●	●	●	●	●	●	●	ふるさと納税や企業協賛のさと納税を導入して文化財保存・活用や日本遺産「里沼」事業推進を行う一方、歴史文化を活かした返礼品を創出することで、まちづくりの好循環を生み出す。	○	○	○	
		★ ③国指定名勝「躑躅ヶ岡」周辺の再整備の推進	躑躅ヶ岡	●(文・観)	●	●	●	●	●	●	●	●	国指定名勝である「躑躅ヶ岡」の保存管理計画を改定し、中・長期的な保存・活用に関する具体的なアクションを位置付けるとともに、つつじ古木群や景観を見学する菜訪者満足度充実のための整備も推進する。	—	○	○	
		★ ④茂林寺沼南岸用地の利活用の促進	茂林寺沼	●(観・都)	●	●	●	●	●	●	●	●	茂林寺沼南岸用地の観光誘客視点整備を促進し、市内でも貴重な低層風原や日本遺産「里沼」ストーリーの普及や民間活力導入による風原の保存・活用に関する持続可能な循環を生み出す。	○	○	○	
		★ ⑤歴史的建造物の保存整備事業の推進	旧二業見番	●(文・関)	●	●	●	●	●	●	●	●	旧二業見番組合事務所等の歴史と建造物の価値を維持した改修・耐震補強を行うとともに、地域コミュニティセンターや観光拠点機能を持たせた整備を図り、館林駅東・旧城下町エリアのにぎわい醸成の中核とする。	○	○	○	
		★ ⑥都市再生整備計画(館林駅東地区)との連動	建造物	●(区・文)	●	●	●	●	●	●	●	●	民間事業者やまちづくり団体等と連携しながら館林駅東・旧城下町エリアにおけるエリアプラットフォーム構築、未来ビジョン策定を進める。エリアに隣接する公的不動産や歴史的建造物など歴史文化ストックの保存と活用を目的とした社会実験や情報発信、具体的な事業の展開を図る。	○	○	○	
★ ⑦保存活用を推進するための組織設置	全	●(文・関)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	地域計画作成時の協議会体制を今後の保存活用を推進する組織へと移行し、計画で位置付けた具体的な措置の進捗状況や成果指標(KPI)などの管理を行い、歴史文化を活かしたまちづくりに努める。	○	○	○		

[3] 保存・活用の実践

主体者欄：(文) = 文化振興課、(企) = 企画課、(市) = 市民協働課、(観) = 市民協働課、(商) = つつじのまち観光課、(区) = 区画整理課、(生) = 生涯学習課、(関) = 関係課

巻末資料 3 既存調査報告書等

既存調査・研究成果報告書 >		石仏調査報告書	S = 昭和・H = 平成
No.	書名など		刊行年度
1	「大島・田谷・千塚の石仏等の文化財」 館林市石仏調査研究会編・発行		S47(1972)
2	「館林市の石造文化財 赤生田・羽附の石仏」 館林市石仏調査研究会編・発行		S48(1973)
3	文化財総合調査「館林市の石造文化財 六郷・三野谷の石仏」 館林市石仏調査研究会編 館林市教育委員会発行		S51(1976)
4	文化財総合調査「館林市の石造文化財 多々良・渡瀬の石仏」 館林市石仏調査研究会編 館林市教育委員会発行		S53(1978)
5	文化財総合調査「館林市の石造文化財 館林・郷谷の石仏」 館林市石仏調査研究会編 館林市教育委員会発行		S54(1979)

< 既存調査・研究成果報告書 >		民俗調査報告書	S = 昭和・H = 平成
No.	書名など		刊行年度
1	文化財総合調査「館林市の民俗 わたらせの民俗」 館林地方史研究会・館林市文化財調査委員会編、館林市教育委員会発行		S52(1977)
2	文化財総合調査「館林市の民俗 あかばねの民俗」 市教育委員会文化振興課・館林地方史研究会編、館林市教育委員会発行		S56(1981)
3	文化財総合調査「館林市の民俗 みのやの民俗」 市教育委員会文化振興課・みのや民俗調査委員会編、館林市教育委員会発行		S60(1985)
4	文化財総合調査「館林市の民俗 おおしまの民俗」 市教育委員会文化振興課・おおしま民俗調査委員会編、館林市教育委員会発行		S62(1987)
5	文化財総合調査「館林市の民俗 たたら民俗」 市教育委員会文化振興課・たたら民俗調査委員会編、館林市教育委員会発行		S63(1988)
6	文化財総合調査「館林市の民俗 ろくごうの民俗」 市教育委員会文化振興課・ろくごう民俗調査委員会編、館林市教育委員会発行		H2(1990)
7	文化財総合調査「館林市の民俗 さとやの民俗」 市教育委員会文化振興課・郷谷民俗調査委員会編、館林市教育委員会発行		H4(1992)
8	文化財総合調査「館林市の民俗 たてばやし民俗」 館林市教育委員会文化振興課編、館林市教育委員会発行		H11(1999)

< 既存調査・研究成果報告書 >

植物調査報告書

S = 昭和・H = 平成

No.	書名など	刊行年度
1	文化財総合調査「館林市の野草1 三野谷の野草」 館林市教育委員会文化振興課・三野谷公民館編、館林市教育委員会発行	S61(1986)
2	文化財総合調査「館林市の野草2 六郷の野草」 館林市教育委員会文化振興課編、館林市教育委員会発行	S63(1988)
3	文化財総合調査「館林市の野草3 渡瀬の野草」 館林市教育委員会文化振興課編、館林市教育委員会発行	S63(1988)
4	文化財総合調査「館林市の野草4 大島の野草」 館林市教育委員会文化振興課編、館林市教育委員会発行	H1(1989)
5	文化財総合調査「館林市の野草5 赤羽の野草」 館林市教育委員会文化振興課編、館林市教育委員会発行	H1(1989)
6	文化財総合調査「館林市の野草6 多々良の野草」 館林市教育委員会文化振興課編、館林市教育委員会発行	H2(1990)
7	文化財総合調査「館林市の野草7 郷谷・館林の野草」 館林市教育委員会文化振興課編、館林市教育委員会発行	H2(1990)
8	文化財総合調査「館林市の植物」 館林市教育委員会文化振興課編、館林市教育委員会発行	H7(1995)

< 既存調査・研究成果報告書 >

その他調査報告書

S = 昭和・H = 平成

No.	書名等	刊行年
1	群馬県の無形文化財	S 49(1974)
2	群馬県近世社寺建築緊急調査報告書	S 53(1978)
3	群馬県の民謡	H1(1989)
4	群馬県近代化遺産総合調査報告書	H4(1992)
5	群馬県の諸職	H4(1992)
6	群馬県民俗芸能緊急調査報告書	H9(1997)
7	群馬県の祭り・行事調査報告書	H13(2001)
8	日本の文化的景観－農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究報告－	H17(2005)
9	採掘・製造・流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究	H22(2010)
10	群馬県近代和風建築総合調査報告書	H24(2012)
11	近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書	H24(2012)
12	名勝に関する総合調査－全国的な調査(所在調査)の結果－報告書	H25(2013)
13	群馬の歴史文化遺産	H24(2012) H26(2014)
14	群馬県古墳総覧	H29(2017)
15	群馬県近世寺社総合調査報告書－歴史的建造物を中心に－	R4 (2022)

< 既存調査・研究成果報告書(発掘調査) >

S = 昭和・H = 平成

No.	書名等	刊行日
1	大袋Ⅱ遺跡(A地点)発掘調査概報	S56(1981)
2	大袋Ⅱ遺跡発掘調査報告書	S57(1982)
3	大原道東遺跡発掘調査報告書	S57(1982)
4	館林市大字羽附字大袋 大袋Ⅰ遺跡発掘調査報告書	S57(1982)
5	館林市大字赤生田字上ノ前 間堀遺跡発掘調査報告書	S58(1983)
6	館林市内遺跡発掘調査報告書	S57(1982)
7	館林市大字堀工 下堀工道満遺跡発掘調査報告書	S59(1984)
8	館林市内遺跡発掘調査報告書	S59(1984)
9	館林市埋蔵文化財分布調査報告書(1)	S59(1984)
10	館林市内遺跡発掘調査報告書	S60(1985)
11	館林市埋蔵文化財分布調査報告書(2)	S60(1985)
12	上ノ前遺跡発掘調査報告書	S60(1985)
13	館林市内遺跡発掘調査報告書	S61(1986)
14	館林市埋蔵文化財分布調査報告書(3)	S61(1986)
15	館林市内遺跡発掘調査報告書	S62(1987)
16	館林市埋蔵文化財分布調査報告書(4)	S62(1987)
17	館林市内遺跡発掘調査報告書	S63(1988)
18	館林市遺跡詳細分布調査報告書 館林市の遺跡	S63(1988)
19	館林市内遺跡発掘調査報告書	H1(1989)
20	中島遺跡 北近藤第一地点遺跡 南近藤遺跡	H1(1989)
21	館林市内遺跡発掘調査報告書	H2(1990)
22	館林市内遺跡発掘調査報告書	H3(1991)
23	館林市内遺跡発掘調査報告書	H4(1992)
24	館林市内遺跡発掘調査報告書	H5(1993)
25	淵ノ上古墳発掘調査報告書	H6(1994)
26	館林市内遺跡発掘調査報告書	H6(1994)
27	大袋4遺跡 大袋城遺跡－発掘調査報告書－	H7(1995)
28	館林市内遺跡発掘調査報告書	H7(1995)
29	館林市内遺跡発掘調査報告書	H8(1996)
30	館林市内遺跡発掘調査報告書	H9(1997)
31	八方遺跡	H10(1998)
32	館林市内遺跡発掘調査報告書	H10(1998)
33	館林市内遺跡発掘調査報告書	H11(1999)
34	加法師遺跡	H11(1999)

35	館林市内遺跡発掘調査報告書	H12(2000)
36	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 12 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H13(2001)
37	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 13 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H14(2002)
38	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 14 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H15(2003)
39	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 15 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H16(2004)
40	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 16 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H17(2005)
41	松沼町遺跡発掘調査報告書 多々良沼公園整備事業に伴う発掘調査報告書－	H17(2005)
42	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 17 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H18(2006)
43	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 18 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H19(2007)
44	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 19 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H20(2008)
45	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 20 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H21(2009)
46	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 21 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H22(2010)
47	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 22 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H23(2011)
48	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 23 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H24(2012)
49	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 24 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H25(2013)
50	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 25 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H26(2014)
51	当郷遺跡－市道 3363 号線(東部環状線)道路改良工事に伴う発掘調査－	H27(2015)
52	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 26 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H27(2015)
53	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 26・27 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H28(2016)
54	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 27・28 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H29(2017)
55	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 28・29 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H30(2018)
56	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 29 年度 1～3 月各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	H31(2019) ～
57	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 30 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	R01(2019)
58	館林市内遺跡発掘調査報告書－平成 31 年度・令和元年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	R3(2021)
59	館林市内遺跡発掘調査報告書－令和 2 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	R4(2022)
60	館林市内遺跡発掘調査報告書－令和 3 年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査－	R5 (2023)

< 既存調査・研究成果報告書（館林市史編さんに伴う調査など） >

調査事業		刊行年
通史編	1 通史編 1 『館林の原始古代・中世』	H27(2015)
	2 通史編 2 『近世館林の歴史』	H28(2016)
	3 通史編 3 『館林の近代・現代』	H29(2017)
特別編	1 特別編第 1 巻 『館林とツツジ』	H15(2003)
	2 特別編第 2 巻 『絵図と地図に見る館林』	H17(2005)
	3 特別編第 3 巻 『館林の自然と生きもの』	H19(2007)
	4 特別編第 4 巻 『館林城と中近世の遺跡』	H22(2010)
	5 特別編第 5 巻 『館林の民俗世界』	H23(2011)
	6 特別編第 6 巻 『館林の町並みと建造物』	H30(2018)
	7 特別編第 7 巻 『館林の文化と芸術』	R3(2021)
資料編	1 資料編 1 原始古代 『館林の遺跡と古代史』	H22(2010)
	2 資料編 2 中世 『佐貫荘と戦国の館林』	H18(2006)
	3 資料編 3 近世（1） 『館林の大名と藩政』	H24(2012)
	4 資料編 4 近世（2） 『館林の城下町と村』	H20(2010)
	5 資料編 5 近現代（1） 『近代館林の歩みと社会』	H25(2013)
	6 資料編 6 近現代（2） 『鉍毒事件と戦争の記録』	H21(2009)
別巻	1 市制施行 60 周年 館林市史別巻 写真で見る館林	H26(2014)
	2 普及版 館林の歴史	H31(2019)
	3 館林の寺社と史料	R2(2020)
	4 館林の里沼	R3(2021)
	5 館林の絵馬	R5(2023)
教材版	1 ぽんちゃんと学ぼう 館林の歴史	H31(2019)
館林市史調査報告書	1 民俗 1 『水と暮らし－館林市上三林・下三林地区を中心に－』	H17(2005)
	2 民俗 2 『城下町館林の暮らしと民俗』	H19(2007)
	3 民俗 3 『風土と暮らし－館林市上早川田の民俗－』	H22(2010)
	4 日清製粉（株）館林工場内の歴史的建造物	H17(2005)
	5 館林の武家屋敷－旧館林藩士住宅の復元と整備－	H21(2009)
館林市史研究	1 おはらき創刊号	H16(2004)
	2 おはらき第 2 号	H18(2006)
	3 おはらき第 3 号	H21(2009)
	4 おはらき第 4 号	H24(2012)

<民間による調査：館林郷土史談会「館林郷土叢書」 昭和9年～昭和18年>

	巻		編集	発行	刊行年
館 林 郷 土 叢 書	1	「公園躑躅ヶ岡」	福田啓作	館林郷土史談会	S9(1934)
	2	「生田萬」「荒井静野」他	館林郷土史談会	館林郷土史談会	S11(1936)
	3	「会津藩老臣西郷頼母館林藩に幽囚せられたるに就て」他	館林郷土史談会	館林町立館林図書館	S13(1938)
	4	「館林藩の山稜修理」「尾曳稻荷神社の祭神其他について」他	館林郷土史談会	館林町立館林図書館	S14(1939)
	5	「榊原家の墓石に就て」「館林関係の重要問題に就て」他	館林郷土史談会	館林町立館林図書館	S15(1940)
	6	「秋元家のお国替 山形より館林へ」「伝説民謡方言覚書」他	館林郷土史談会	館林町立館林図書館	S16(1941)
	7	「植物学上より見たる花山の躑躅」「館林第四十国立銀行」他	館林郷土史談会	館林町立館林図書館	S17(1942)
	8	「金石文に遺る館林の雅人」他 附録：館林郷土叢書総目次	館林郷土史談会	館林町立館林図書館	S18(1943)

<図書館：館林双書>

	巻	主な内容	刊行年度
館 林 双 書	1	「訳文 花袋「買山楼初集」」他	S45(1970)
	2	「生田万の『祝詞・長歌・岩にむす苔』概説他	S47(1972)
	3	「館林城跡の変遷」他	S48(1973)
	4	「足尾鉍毒事件と大出日記等について」他	S49(1974)
	5	石にきざまれたふるさとの歴史と伝説	S50(1975)
	6	田山花袋年譜ほか	S51(1976)
	7	館林郷土史事典	S52(1977)
	8	野辺鑑、田中正造書簡	S53(1978)
	9	館林藩史料、四季の野鳥たち 館林周辺	S54(1979)
	10	田山花袋作品他	S55(1980)
	11	大島村・三野谷村・渡瀬村郷土誌	S56(1981)
	12	赤羽村・六郷村・多々良村郷土誌	S57(1982)
	13	故郷の自然・城沼	S58(1983)
	14	郷土の芸術家たち	S60(1985)
	15	館林の社寺	S61(1986)
	16	館林の伝説	S63(1988)
	17	館林盛衰記、岩田烏山、館林城土橋門発掘調査結果報告	H1(1989)
	18	郷土の事典	H2(1990)
	19	館林の記念碑、館林地区の地下水	H3(1991)
	20	秋元文庫の漢籍	H4(1992)
	21	福田啓作郷土資料	H5(1993)
	22	江戸時代の秋元文庫	H6(1994)
	23	館林藩尊攘派志士岡谷繁實の生涯	H7(1995)

24	安中教員・館林巡查 他	H8(1996)
25	岡谷繁実著『浮世能夢』	H9(1997)
26	館林の野鳥と植物	H10(1998)
27	戊辰騒擾旧館林藩士戦争履歴、館林市の地下水 40 年史	H11(1999)
28	田山花袋と館林	H12(2000)
29	館林記、館林騒動記	H13(2001)
30	館林のことば	H14(2002)
31	館林の地名	H15(2003)

本計画の作成にあたり、館林市文化財保存活用地域計画協議会の委員長を務めておられた蟹江好弘先生が、令和5年1月6日にご逝去されました。

蟹江先生におかれましては、本計画の基盤となりました「館林市歴史文化基本構想」策定（平成30年度）および、そこから派生した日本遺産「里沼」認定（令和元年度）にあたり多大なるご尽力とご貢献を賜りました。

ここに謹んで哀悼の意を表するとともに、先生のご功績に深く感謝申し上げます。

令和6年(2024)12月 文化庁認定

館林市文化財保存活用地域計画

[計画期間]令和7年(2025)4月1日▶令和17年(2035)3月31日

発行日: 令和7年(2025)3月31日

編集・発行: 館林市教育委員会 文化振興課 文化財係

〒374-0018 群馬県館林市城町3番1号

☎ 0276-74-4111 FAX 0276-74-4113

bunka@city.tatebayashi.gunma.jp

※本書記載内容の無断転載等を禁じます

里沼のまち・館林市
文化財未来ビジョン



つなぐ文化財 × つながるまちづくり



館林市教育委員会

「館林市文化財保存活用地域計画」

令和6年(2024)12月 文化庁認定